FS2025
高畠町最終報告

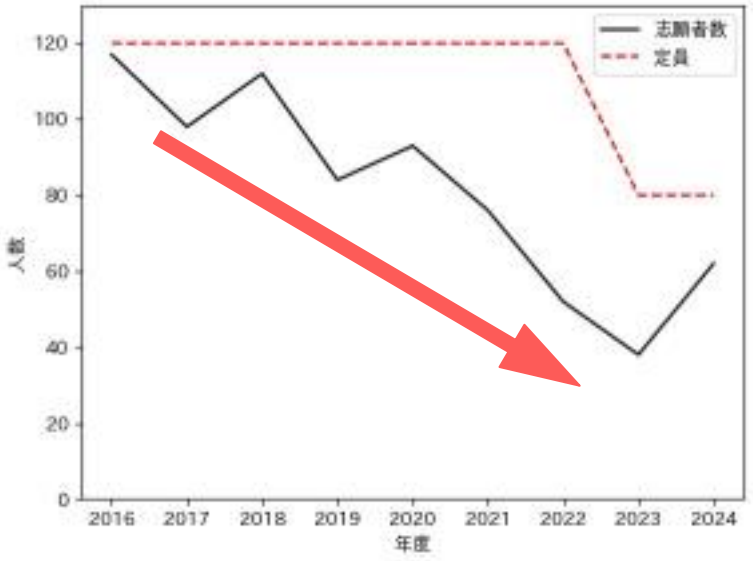
我々のミッション：
高畠高校の志願者増加

高畠高校とは

高畠駅に程近い場所にある、高畠町唯一の高校

総合学科を持つ高校の一つ

高畠高校の志願者の現状



近年、定員割れが常態化している
→23年に定員削減(120人→80人)

特に、22,23年は充足率が50%を
切っている

高畠ゼミとは

「高畠高校の志願者を増加させるにはどうすればよいか」を考える、高畠高校3年生の探求の時間での活動

１年間の活動

１年間の活動

年間を通して・・・
・高畠ゼミの授業（毎週）
・fs生内でのミーティング（毎週）

6月
顔合わせ
高畠ゼミ開始

7月
第一回現地活動（**オープンスクール**）

8月
マスコット
文化祭準備

9月
文化祭準備

10月
第二回現地活動
（文化祭）

11月
アイデアコンテスト
ポスターセッション準備

12月
山形幸せサミット

1月
１年間の活動のまとめ

2月
第三回現地活動
（現地報告会）

我々の活動の問題点と解決策

問題点

- コミュニケーション不足
- スケジュール把握不足
- 去年の活動の断絶

前の問題点に起因する問題

- 町役場の方の期待に応えられなかった
- 高畠ゼミ内での東大生の存在意義が分からなくなった

解決策

早めの現地活動

信頼関係の構築

高畠ゼミ生とFS生の両方にとって有意義な活動に

今後の展望：

1.文化祭に力点を置く

2.本格的な探究活動の導入

3.活動期間の延長

文化祭に注目する理由

・大きな学校行事

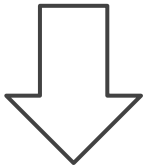
・ゼミ内だけでなく、高校1・2年生とも活動できる

・地域の方々とも交流できる

多くの人を巻き込んだ活動のきっかけ作り

なぜ本格的な探究活動をするのか

- 東大との連携を高畠ゼミの強みに
- 討論や専門書の読解は高校生の論理的思考能力の成長を助ける



高畠ゼミがより魅力的になる

具体的な探究活動（例）

・データ・根拠を使って討論をする場を持つ

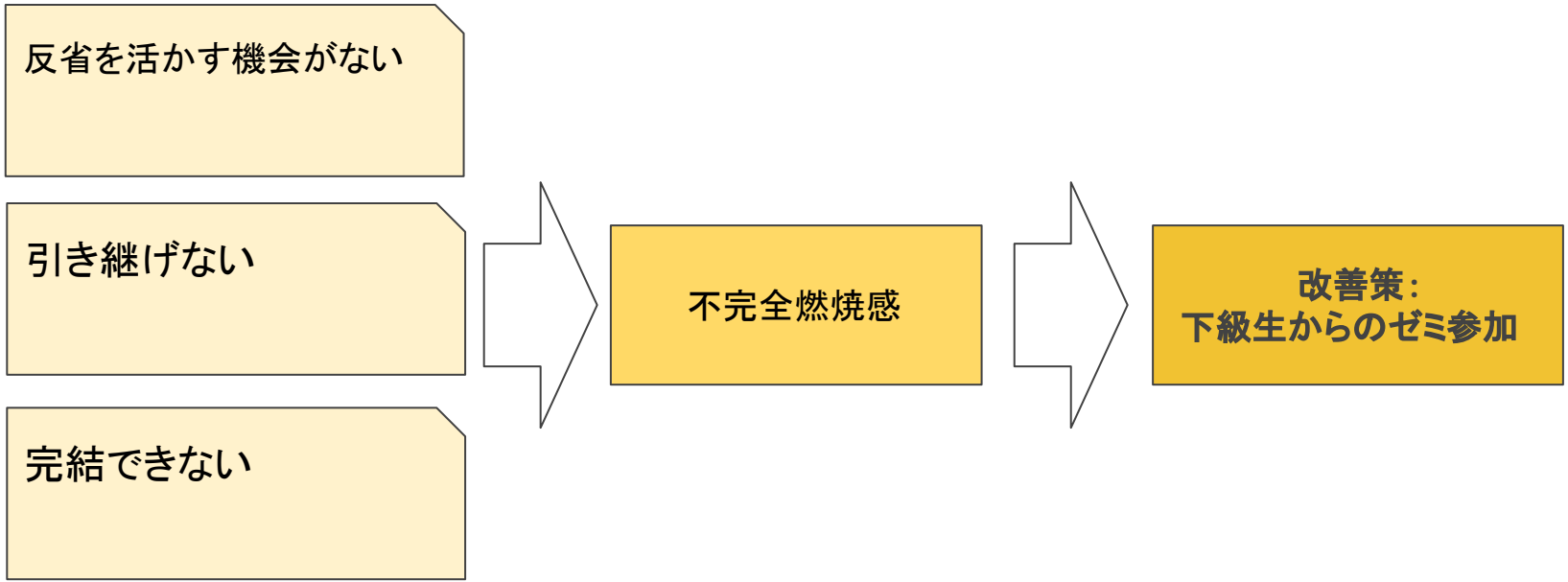
→論理的思考能力を養う

・活動をする前に、文献調査で有効性を裏付ける、手法も洗練する

例)「Instagramを運用する」のであれば、「どんな投稿をするか」「いつ投稿するか」「それだけ投稿するか」などを、調べてから開始する

活動期間の延長

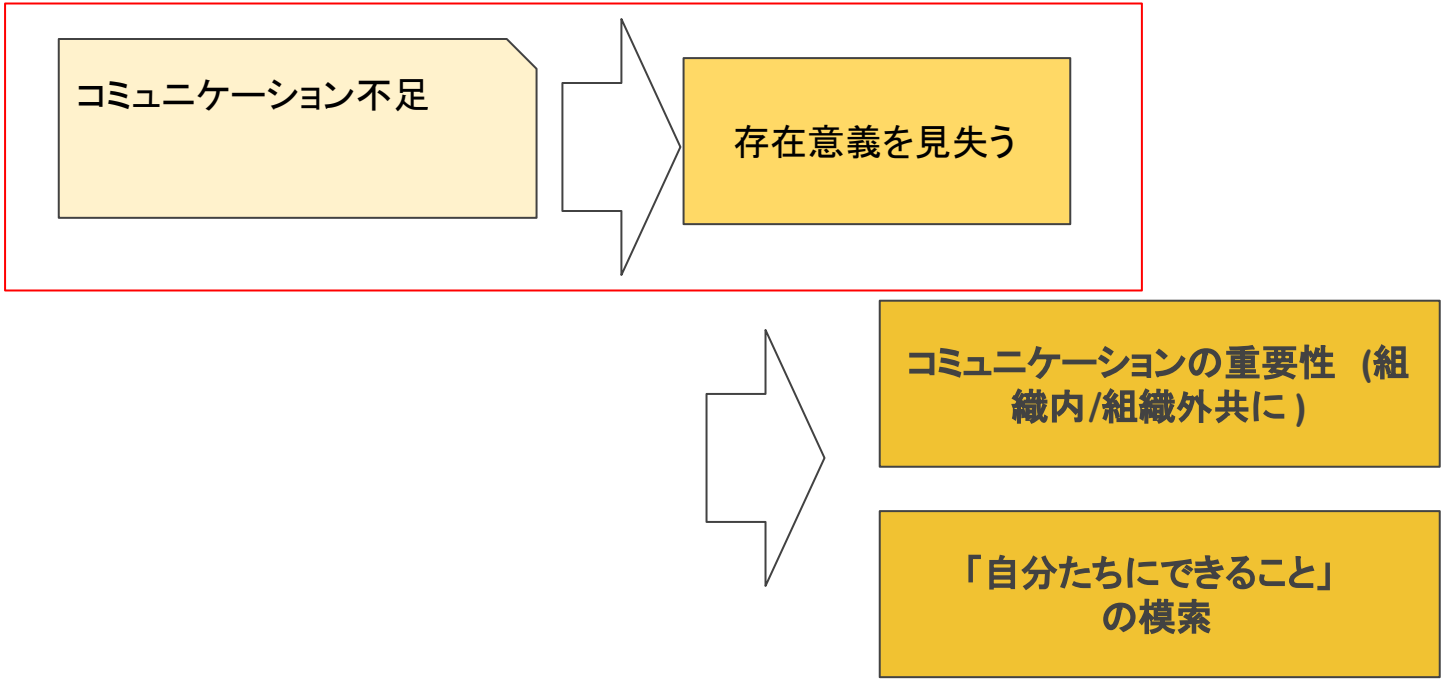
イベントが年に一度であることに起因して



我々の学び

我々の学び

問題のフレーム(一部抜粋)



FS学内報告会

福島県棚倉町

鬼塚大輝・多賀谷勇佑・前田晃輔
戸井啓允・堀田悠生

目次

1. 棚倉町の基礎情報
2. 班としてのミッション
3. 活動内容
4. 棚倉町の魅力と課題
5. 提案の概要・詳細
6. 活動を通じて

1 棚倉町の基礎情報

場所　福島県東白川郡（南東部）

人口　約13,000人

観光客数　555,944(H30年)

有名な観光地　棚倉城跡・山本不動尊など

2 班としてのミッション

- 棚倉には観光資源があるにもかかわらず知名度が低い
- 役場のおすすめと観光客の入りにズレがある
- 新しい視点で町を見てほしい

観光スポットの洗い出しと観光ルートの構築

⇨ 棚倉の観光客の誘致・増加

3 活動内容

~7月 → 8月 → 9~11月 → 12月 → 1~2月 → 3月

事前調査 → 第1回現地活動 → 提案作成 → 第2回現地活動 → 発表準備 → 最終報告会

観光の現状を把握

提案発表と意見交換

第1回現地調査（8月）

現地調査

- 棚倉内の観光地、飲食店を巡り、現状を把握

馬場都々古別神社でコラムを
教えていただきました！

八槻家住宅でスイカいただきました！

棚倉の地形を教えていただきました！

第2回現地調査（11月）

棚倉の観光に関わる方々に提案を発表して意見交換を行いました

山本不動尊

観光案内所

八槻都々古別神社

ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました！

最終報告会（3月）

4 豊富な歴史的資源

棚倉にはなんと一宮が2つ！

一宮とは…
一つの国の中で最も社格の高い神社のこと

～東北地方では数少ない桃山期の本殿～

サイクリングに適した環境

桜や紅葉などの自然

グルメ・特産品

サイクリングロード

4 棚倉の課題と改善案

課題

- ターゲット層が定まっていない
- 歴史的資源の魅力が伝わり切ってない
- サイクリングロードの活用
- 交通網が弱い・インフラ整備
- 休憩できる広場・飲食店が少ない

改善案

- コアな歴史好きをターゲット
- 歴史的資源の魅力が伝わるような
  観光ルート・マップの作成
- レンタサイクルによる観光
- オープンスペースの設置

観光ルートとコースマップ

- コンセプト
  - 基本情報に加えて、関係者から聞き取りした**コラム**を掲載することで、歴史をより興味深くする
  - 季節情報をまとめたサイトにつながる**QRコード**を載せることで、紙のマップでも情報を更新することができる

グルメマップ

- コンセプト
  - すばやく飲食店の情報を得る
  - 商品写真をつけることで
    魅力が一目で伝わる
  - QRコードをつけることで
    最新情報や他の写真を
    見ることができる

季節情報の集約について

- 桜や紅葉など季節によって異なる
  町の景色と豊かな特産品も棚倉町の魅力
  →HPに旬の特産品の情報欲しい

- 桜の開花状況や紅葉情報のページには
  アクセスが多いが、
  観光協会のページからの
  アクセスが遠い

観光協会のトップページに集約

InstagramやXでの発信も継続

他の提案

・ルネサンス棚倉からのランニングコース

ルネサンス棚倉に宿泊した人、運動部・運動サークルの**学生**に
町内を走って町の魅力を知ってもらう
距離や季節に応じたルートの提案

・オープンスペースの設置

休憩場所を兼ねた住民にとって居心地の良い**交流が生まれる**場所
観光案内所、レンタサイクル場の設置
棚倉町の**PRの拠点**

6 活動を通じての学び

- **実際に経験することの重要さ**
  →実際に足を運び、地域の雰囲気を肌で感じることが理論や事前調査だけでは得られない学びにつながる

- **地域の声を直接聞くことの大切さ**
  →関係者や住民の方から直接聞くことで、観光ルート設計や改善のヒントを得ることができた

- **活動の軸を作ることの価値**
  →ターゲット層や観光ルートの方向性を確立することで、目指すべき目的やゴールが明確になり計画を効率的に進めることができる

ご清聴ありがとうございました

2024年度東大FSプログラム

富山県魚津市（松倉地区）
学内報告会

加藤小百合、森山日天、鳥居希実、
山﨑美怜、溝口慶

松倉城址から富山湾を望む

目次

- 魚津市松倉地区について
- テーマ
- 活動内容
  - 現地活動①
  - 現地活動②
- 提案内容
- 提案内容（その他）
- 学んだこと

魚津市
松倉地区

について

- 347世帯875人が居住
  （令和6年12月時点）
- 車で10分走れば日本海
- 金山で栄える
- 豊かな自然・水・農業

棚田

もちより市

テーマ

※松倉城
南北朝時代頃に築城された山城。上杉謙信、織田信長などの争いの舞台にもなった。

越中最大の松倉城跡を中心とした里山の暮らしと地域の再興

松倉城址

活動内容

6月	7月	8月	9月	10月
ミーティング・事前調査		現地活動①		ミーティング・現地活動振返り

11月	12月	1月	2月	3月
現地活動②	ミーティング・現地活動振返り・提案内容のブラッシュアップ			各種報告会

現地活動①（8月）

松倉城址と金山坑道の見学、草刈り体験

自然とのかかわり（ヤギの杜・藍染め体験）

伝統文化の学習（刀踊り・獅子舞など）

各集落の散策

仁右衛門家（地区の鉱泉）宿泊　など

⇒地区の様々な資源・文化を体験し、SWOT分析で整理

金山坑道跡

ヤギの杜

金山展

湧水

SWOT分析

現地活動②（11月）

文化祭参加（中間発表、インタビュー）

山菜についての学習

松倉城址のより詳細な見学

棚田見学、もちより市見学

地域の伝統的な食文化体験　など

⇒1回目の活動で出た疑問の解消＆提案に向けた準備

提案内容
（一例）

松倉城址を小学校の遠足の行き先に！

解決したい課題

- 地区人口減による維持・管理の問題
- 山城の魅力の分かりにくさ

×

一方で…

- 重厚な歴史と史跡の保存状態の良さ
- 景観や自然をはじめとする豊富な資源
- 市街地からの近さ

⇒遠足を通じ、魚津市の子供たちに、
松倉城址・市内の山間部に対する「親しみ」や
「当事者意識」を持ってもらいたい

提案内容
（一例）

山城は玄人向けで分かりにくいのでは…？！

- 地区コミュニティセンターの**歴史展示**（2年後の建て替えに向け、計画進行中）や、実際の山城を利用した**合戦ゲーム**などを通じ、子供たちが楽しみながら学べる体験を用意
- 山城だけでなく、**山の幸、地区の自然**など、海が注目されがちな魚津の「山」の部分に触れる機会に！

今後の動きは？

- 地区および東大生から市・教育委員会への働きかけを行うとともに、歴史展示・体験内容についても詳細を詰める
- コミュニティセンター建て替え後をめどに、遠足を実施
- 場合によっては、地区住民や学芸員による解説を行う

提案内容

（その他の例）

地域の幸を活かした
アイスクリームの
製造・販売

コミュニティセンター
の展示・体験・活用方法

松倉城址
松倉地区

空き家の
企業向け貸出

狩猟サークルなどの
若者誘致

学んだこと

- 「人口減少」「空き家問題」「獣害」の影響の大きさ
  - 法律面、金銭面、相互に絡む複合的な要因…
- 様々な思いを持って活動される人々の存在
  - 課題意識と地区への情熱を持って行動されている
- 里山集落の繋がりの強さ、アイデンティティの源泉
  - 地区の「中」に入って初めてわかる
- 大学を飛び出して、直接見てみることの大切さ

ご清聴ありがとうございました

松倉地区、魚津市役所、富山県庁の皆さま、
FS活動にご協力いただいたすべての皆さま、
1年間ありがとうございました。

この場をお借りして、感謝申し上げます。

2024年度東大FS
雄神の魅力発信に向けて

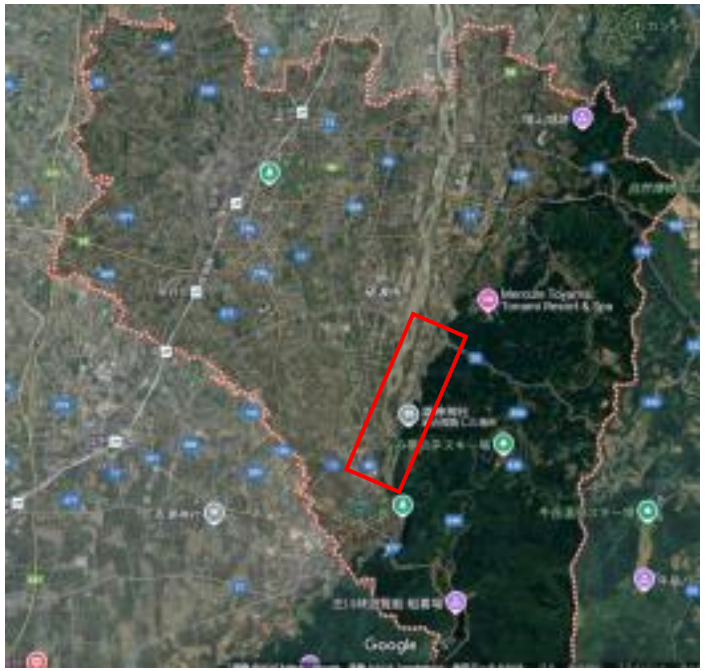
東大FS砺波
田中洸綺　山本開陸　富澤雫　三原有貴

目次

1. 概要
2. 雄神でのテーマ
3. 今までの活動
4. 成果
5. 今後の課題
6. 学び

1-1. 雄神地区の概要

砺波市は富山県西部に位置する



上図で赤い四角で囲われた地域が雄神地区
庄川沿いの河岸段丘上に形成されている
里山地域

砺波市周辺の航空写真
2つの丘陵地帯に挟まれた砺波平野に位置する

↓雄神地区から見渡せる庄川と砺波平野

1-1. 雄神地区の概要

人口

- 701人、252世帯
- 高齢化率が43%と高い、過疎化の危機

特徴

- 雄神川と谷内川に育まれ、古代から人々が定住、豊かな自然と史跡・文化財が多い地域

2000年の歴史を持つ雄神神社

南北朝時代のものと推定される城跡

雨乞い伝説の残る山上の池
磁場が狂う『ゼロ磁場』として
パワースポットとされている

1-2. これまでの活動

アドベンチャーワールドおがみ推進事業

地域資源を有効に活用し地域の活性化を推進する。

①複合施設整備事業（旧保育所を地区の活性化の拠点として利活用）＜住民交流＞

・地区内外から気軽に集える交流施設
・子どもから高齢者まで楽しめる交流イベントを開催し、地域ににぎわいを創出する。
・高齢者の生活支援、子育て支援につながる事業を展開する。
・将来は雄神ネットワーク化と情報発信のコア施設とする。

②パワースポット雄神の発信事業＜自然体験・観光資源＞

・県内の他市町村に類がない文化遺産の保全を図るとともに、地区内外に文化財の情報を発信し、雄神を訪れてもらうことで地域の活性化を図る。
・遊歩道、案内看板の整備とロゲイニング等のイベントを企画する。

③デジタル自治会事業

・デジタル媒体を活用することによって、地域の安全・安心を図るとともに地域コミュニティを醸成する。
・防災・コミュニケーションアプリを導入する。

2. 雄神でのテーマ

雄神での役割:

1. 東大生の視点から
   雄神の魅力を発見し、発信方法を考える

2. HPやSNSなど新しいツールを
   使った情報発信の準備を整える

2. 雄神でのテーマ

- 全体像

短期
（半年以内）

- HP作成
- SNS投稿による周知
- ターゲット策定

中期
（2~3年）

- ターゲット呼び込み
- HPやSNSでの定期的・継続的な発信
- 外部団体との連携強化

長期
（10年以内）

- 交流人口増加
- アドベンチャーワールド雄神の成功

3.今までの活動

2024年9月 第一回現地活動

@砺波市

- **ゼロ磁場検証**
- **パワースポットトライアングルの体験**
- **高瀬神社の見学**

ゼロ磁場検証の様子

2024年9月

@砺波市

歓迎会の様子

パワースポットトライアングルの体験

高瀬神社

3. 今までの活動

2024年10月

@東京大学本郷キャンパス

- **SNS投稿の準備**
- **ホームページの作成**

大学内ミーティングの様子

3. 今までの活動

2024年11月

@砺波市

第二回現地活動

- musubibi**さんインタビュー**
- **公民館まつり**

musubibiさん自然体験の様子

2024年11月 公民館まつり

＠雄神体育館

活動報告の様子

合唱練習の様子

子どもたちとゲーム

3. 今までの活動

2025年2月

@砺波市

第三回現地活動

- **最終報告会**
- **意見交換会**
- **四季会館見学**
- **酒蔵（三郎丸蒸留所）見学**

最終報告会の様子

2025年2月

@砺波市

3回の現地活動全てでお世話になった旅館の方と

四季彩館見学

酒蔵見学

4. 成果

①マップ作成

②Webサイト『雄神へようこそ！』の作成

③Instagramアカウントの作成・投稿の雛形作成

④ターゲットの選定

4-1.マップ作成

手書きマップの作成

↓

- HPなどへの掲載
- 印刷しての配布
- ルートの分かりやすさ

4–2.Webサイト原案作成

雄神独自のHP

- 特集
- 魅力紹介
- スポット紹介
- モデルコースの紹介

「雄神自治振興会」で検索！

4–2.Webサイト原案作成

現在の訪問者数

2024年9月～2025年2月

訪問者数：722

ページビュー：3666

<u>訪問者数増加のための施策</u>

例）コンテンツの充実・デザインの工夫・インスタグラムとの連携

4-3.Instagramの作成

雄神自治振興会のアカウント

観光客向けに投稿
・施設の紹介
・イベントの告知　　など

成果
10月14日
弁天温泉の紹介

フォローお願いします！

4–4. ターゲットの選定

策定の理由

知名度が高くない地域ではターゲットを絞るべき

私たちが考える雄神の魅力

- 空気がきれい/ご飯がおいしい/自然が魅力
- 中心地へのアクセスも良い
- 観光地化が進んでいるわけではない
- 日常のゆったりした時間が流れる

都会では味わえない魅力　→　都会からの観光客が見込める

4–4. ターゲットの選定

50代の旅行客（＋20～30代の子育て世代）

←近隣・南砺市の観光統計データを元に想定される人物像

＋【長期的目標】若い世代の集客

- **近隣都市（金沢など）からリフレッシュを目的に訪れる**
- **他に観光客のいないようなゆったりとした旅行**

5. 今後の課題

短期

~~• HP作成~~

~~• SNS投稿による周知~~

~~• ターゲット策定~~

完了

中期

- ターゲット呼び込み
- HPやSNSでの定期的・継続的な発信
- 外部団体との連携強化

今後、地域の方々に行っていただくこと

長期

- 交流人口増加
- アドベンチャーワールド雄神の成功

5. 今後の課題

①より多くの人に知ってもらうにはどうすればいいか？
②どのようにターゲットを呼び込めるか？
→周辺地域にある観光資源（五箇山、遊覧船etc）を活かす、モニターツアーの実施

③観光客にどのように移動してもらうか？
→当面は自分の車で来てもらう形式になりそう（=50代というターゲット像とも矛盾しない）

④観光客の受け入れ体制をどのように拡張できるか？
→空き家利用？、通信環境など設備面の充実も必須

6. 学び

①地域振興を成功させる最も重要な要因は
　その地区の担当者や住民の方々の熱意の高さと主体性

②現地に行って現場を理解すること、
　もしくは理解しようとする意欲的な姿勢も重要

③現地住民の方々にとっては価値がないように思えるものでも、
　別の視点から見れば価値を持つ場合がある

④こうした提言を〝誰が〟言うかにも意味がある

ご清聴ありがとう
ございました！

2024年度東大FS
石川県白山市
空き家の利活用政策について

梅村　知仁:教養学部　文科二類　二年
小山実桜子:法学部　法学総合コース　四年
平井　伶磨:公共政策大学院　法政策コース　二年

発表の構成

①フィールドワークのまとめ

②課題の特定

③提言の方向性

④政策提言

白山市について

- 人口：112,531人（令和6年11月末現在）
- 面積：754.93㎢（県内最大）
- 地理的特徴
  - 標高2700mの白山と手取川扇状地から成る
  - 松任、美川、鶴来、白山ろくの4地域に大別できる
  - 金沢から電車で10～20分、ベットタウンとして住宅の建設が進む
- 白山市の空き家の現状と現在の取り組み
  - 空き家の問題点
    - 周辺への害（倒壊・動植物・犯罪）・景観の問題
    - 土地・建物を資源として活用できない
  - 現在の主な空き家政策
    - 空き家バンクの活用・空き家パンフレットの作成
    - 空き家の実態調査
    - 司法書士会・宅建協会・不動産協会など関係団体との連携
    - 相談会の開催

フィールドワーク

第一回（7月29日～8月1日）

- ヒアリング（町内会長、宅建協会、不動産協会）
- 空き家の視察
- 市内の視察

第二回（12月21日～12月23日）

- ヒアリング（司法書士、白山市、金沢市、宅建協会、商工会、はくさん信用金庫）
- 空き家活用をしている店舗の視察

課題の特定

- 空き家の利活用に関するステークホルダーの**多さ・協力**の不可欠さ

＝権利関係を明らかにする必要性　＝　行政・弁護士・司法書士
＝商取引のために調査の必要性　＝　宅建士・土地家屋調査士

- 宅地建物取引に関する市民の**事業者への懐疑性**と**行政への相対的信頼**
- 公正中立で非営利な行政が空き家取引流通の促進に携わる**法的・人員的課題**

- 空き家バンクの活用
  - 登録件数の少なさ
  - 知名度の低さ
    空き家の登録件数が少ない
    住宅を探す際の候補となりにくい
  - 得られる情報に制限があり、利用をためらう

提言の方向性

- 士業連携の促進

現　状：司法書士協会・宅建協会・不動産協会と市が個別に協定を締結

方向性：①事業者間の連携強化　②具体的な案件を市が集約して事業者へつなぐ

●空き家バンクの活用拡大

現　状：掲載件数は増加しているものの、需要・供給共に周知が足りない

方向性：掲載方法を工夫する、様々なところで知るきっかけを作る

政策提言――士業連携

提言のモデル＝金沢市空き家再生引き受け隊

→2事業者が事務局になり、市から案件を受注。商取引のための情報整理

→引き受け隊参加事業者の手上げにより案件を処理

＝**市は市民の窓口になり、法的情報を提供するだけで空き家利活用の円滑化を少ない人員で達成**

モデルの課題：再生引き受け隊への関係者が多すぎる。案件受理事業者の偏り

モデルの適用に係る課題：人口規模の違いと各事業者の少なさ。

提言

- 各連携事業者団体の加入事業者間の交流と合同説明会の実施
- 空き家等管理活用支援法人の指定と事務局機能の指定
- 白山市内の加入事業者を中心に、案件受注意向の業者を募集

白山市版「空き家再生引き受け隊」結成

特徴

金沢市ほど多数の事業者団体を加入させず、地域密着かつ必要最低限の事業者による空き家利活用の促進を段階的に実現

政策提言――空き家バンクの活用拡大

- 空き家バンクの周知
  - 掲載件数を増やすための周知
  - 買い手を増やすための周知
    - 全国版空き家バンクに登録をする
    - 物件を探している人が目にしやすい場所で広報を行う

      例）移住を考えている人→民間の不動産斡旋のサイトで検索できるようにする

      商業活用できるようにする→商工会で宣伝する、など
- 空き家バンクの掲載方法の工夫
  - 空き家のリノベ例を載せることにより、空き家に住む・空き家の利活用をすることのイメージを持ちやすくする。また、経年劣化をしている空き家に住むことへの不安感を軽減する。

もし、東京の大学生が卒業後、石川県能美市に移住し生活することになったら

～「能美すごし」発見・発掘＆シティプロモーション企画競争プロジェクト～

出典：
https://www.city.nomi.ishikawa.jp/www/contents/1684474115162/index.html
→石川県能美市ホームページ，取得日2025年2月2日

石川県能美市チーム

下田清太郎
原泰也
山口彩乃
森田晃弘

石川県能美市について

- 人口5万人弱
- 東京と大阪どちらからも電車で3時間
- 九谷焼や松井秀喜さんの出身地として知られる
- 海から山まで豊かな自然が豊富

出典：
https://www.city.nomi.ishikawa.jp/www/contents/1001000000988/index.html
→石川県能美市ホームページ，取得日2025年2月2日

私たちの取り組み

与えられたテーマ

関係人口・移住定住人口につながる
シティプロモーションの実施

～卒業のタイミングにおける関東圏の大学生をターゲットに～

「もし自分が能美市に移住し生活することになったら」の視点で情報を収集し、さらに能美市の「すごい！」ことを発見・発掘することで
「関係人口・移住定住人口につながるシティプロモーション」
モデルを創出

➡ 全国に発信したい！

背景

- 人口減少/少子高齢化による地域力の衰退
  →人口の増加は街が豊かに発展している指標となるという市長の方針

図1 能美市の人口の長期的見通し[1)]

図2 年齢3区分別の推移(2010年を100とする）[1)]

- 大都市圏等での低い知名度
  →シティプロモーション活動による
  コンテンツの発信力の低さ

出典：1) https://www.city.nomi.ishikawa.jp/www/contents/1001000000454/simple/jinkobijon.pdf
→能美市：能美創生人口ビジョン，pp.23-24，2016年3月

出典：https://nomishizukan.com/
→能美市大図鑑，取得日2025年2月2日

事前学習

インターネットやSNS等
での情報収集
現地訪問時の行動の計画

第1回現地訪問
9/19~9/22

目的：能美市のことをもっと知る
すごい！ことを発見する

話を伺った人

市長
市役所担当課
移住アンバサダー

見学・体験した施設

いしかわ動物園
九谷陶芸村

第2回現地訪問
11/30~12/1

目的：提案施策の実現に
向けた素材集め

＊移住アンバサダーへの
インタビュー

＊九谷焼の絵付け体験

施策の提案

(現地報告会は3月25日に行います)

施策の方向性

・**短期施策**：1,2年で実現できる。
「あるものを活かす」政策。

・**長期施策**：数年後の実現を目指す。
使えそうな点を「いいとこ取り」してもらう。
「ないものを創出する」政策。

短期施策（イベント）

五月祭での出店（申請中）

大学生が多い=課題と合致

- 能美市の**特産品の販売**(検討中)
- パンフレットの配布
- 能美市の魅力を説明した展示
- 作成**動画**の放映

第2回訪問時に撮影した
ものを編集し作成

歴代（今年で5代目!）の能美市チームの方々にも協力をお願いする予定です。

◎既にある能美市の魅力をたくさんの人（特に若者）に知ってもらいたい!

長期施策(新たなものの創出）

屋根付き電動自転車の普及

・内容：移動手段として現況の自動車の代わりに屋根付きの電動自転車を普及する

出典：https://internetcom.jp/201314/pebl-is-power-assisted-bicycle-with-shell/785
→INTERNET COM：屋根付きの電動アシスト自転車「PEBL」ー一年中快適に走れる、車と自転車の中間の乗り物、取得日2025年2月23日

Discordを用いたオンラインコミュニティ

・内容：能美の情報を共有、相談などができるアプリによるコミュニティを創出

大学生を対象とした長期インターンシップ

・内容：能美市の企業で長期リモート実地併用のインターンシップを行う。

移住者と地域コミュニティのマッチング

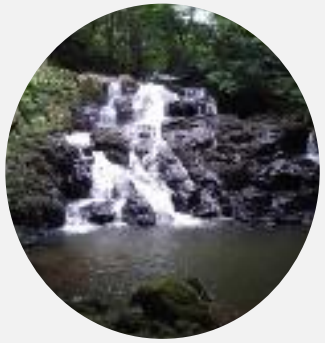
・内容：市民の団体の活性化、移住者と結びつける。

詳細はポスターセッションにて説明いたします。

感想・学んだこと

自治体が実際に抱えている課題を真剣に考えることで、政策の難しさや地域の人々との関わりをもつ楽しさを体感し、貴重な体験ができてよかった。(下田清太郎)

色々の楽しさ・難しさはあったが、やはり現地の方と直接話す中で一番学びと楽しさを感じられた。自分たちができること、知れることに限界も感じたが、その中での試行錯誤はいい経験だった。(原泰也)



FSを通じて実際に地域の人と話す中で、地域への思いなどをお聞きし、熱意が伝わってきたのが印象的だった。また、能美市の魅力に気づくことができた。(森田晃弘)

1年を通じて市のリアルもたくさん体験させていただけて、様々な側面を考えられるようになった。能美市の皆さんに助けていただき、色んな話も聞けてとてもためになった。(山口彩乃)

ご清聴ありがとうございました。

この場をお借りして、お世話になったすべての方に
厚く御礼申し上げます。

2024年度石川県能美市チーム　下田清太郎（大学院工学系研究科1年・チームリーダー）
原泰也（文科一類2年）
森田晃弘（文科三類2年）
山口彩乃（文科二類2年）

FS最終報告会

三重県 南伊勢町 道行竈

メンバー：水野那奈子・青木遼大・下村英理

道行竈について

三重県 南伊勢町 道行竈区

- 人口：34人
- 高齢化率：73.5%
- 入江の**静かな海**と、隣接した**美しい山**

「チーム道行竈」の結成

耕作放棄地を復田し、地域の活力にするため、日本酒作りを始めた。

私たちに与えられたミッション

当初のミッション

東京の若い人に道行竈のお酒を飲んでもらうための施策を考える

当初の地域活動の目的

道行竈について知り、PRのためのアイデアを考える

【住民】視点の気づき

現地住民の方と座談会を開催

Q1. 道行竈をどんな集落にしたいのか

A1. 文化を持続できるレベルで残したいが

理解してくれる人が関わってほしい

Q2. これからも住み続けるのか

A2. 不便だから出ることも考えている

気づき：

- **ただ「PRすれば良い」わけではない**
- 愛着を持って関わってもらうことが求められている

⭐当日は現地のテレビ局に取材いただきました
⭐ご参加いただいたみなさんありがとうございました！

【販売者】視点の気づき

日本酒販売の手伝い

1. 梱包、酒粕カットなど
2. だいどこ市(伊勢市)での販売

- 販売までの過程を体験
- 南伊勢町に関わる方々と交流

気づき：

- 日本酒事業の難しさ
  例：売り切れていない日本酒がある（が少量）
- **伊勢市の方々にも日本酒事業が知られていない**

【関係人口】視点の気づき

「三重県の限界集落の存続」について考えるワークショップ

- 東京日本橋の三重テラスにて実施
- 様々な視点の意見、提案

教育の工夫（修学旅行の誘致）、キッチンカー販売、学園祭での出店 etc.

気づき：**縦と横のコミュニティがあまり持続的ではない現状**

過去の南伊勢町のＦＳ生

私たち

南伊勢の扉、みえフェス
地方創生に関心ある若者など
……

イメージ図

私たちに求められていることは？

【開始当初】の考え：若者ならではの視点で、**広報戦略**を考えること

すでに行われている
洗練された
挑戦的な施策

若者とのつながりを
継続する難しさ

今必要なのは「コミュニティを継続・発展させていく**体力**」

【今】の考え

私たち自身が主体となり、**東京での若者のコミュニティ**を

継続的かつ活発にしていくこと

めざすところ

- 道行竈に関わる東京のコミュニティを大きく、継続的にしていく
- すでに関わっている人のつながりを強固にしていく
- 東京の**三重にゆかりのある人**に届ける
  （現状、東京にいる三重出身の大学生にも届いていない）

どんな関係性を作る？

→人数は少なくても、**深く継続的に関わる**関係性

私たちの小さな第一歩 ～文化祭～

イメージ

【日本酒道行竈の**販売**＋現地人**交流会**開催予定！】

ターゲット

1. **東京の**南伊勢町コミュニティを活性化＆拡大
2. **販売を通じた集落への資金循環**（地方）
3. 関心を持つ人を増やすこと

→要は「道行竈日本酒の**販路拡大 in 東京**」

＋「道行竈を通した**関係人口創出**」

FS・イベント

南伊勢コミュニティ
in 東京

FS・イベント

南伊勢コミュニティ
in 東京

他の大学の文化祭

人手集めやすい

都市での販売

FS・イベント

南伊勢コミュニティ
in 東京

他の大学の文化祭

人手集めやすい

都市での販売

新たな関係人口創出

FS・イベント

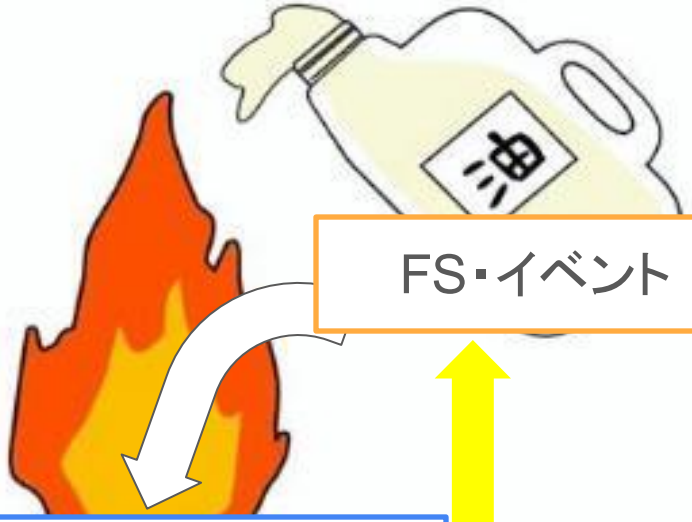
南伊勢コミュニティ
in 東京

新たな関係人口創出

他の大学の文化祭

人手集めやすい

都市での販売



FS・イベント

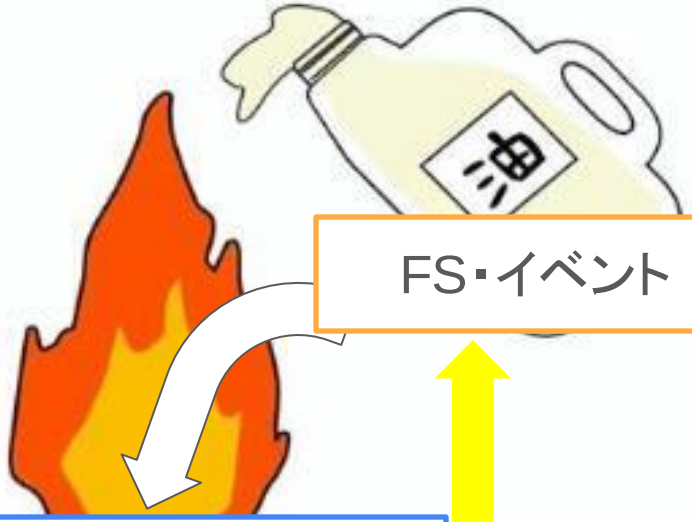
南伊勢コミュニティ
in 東京

新たな関係人口創出

他の大学の文化祭

人手集めやすい

都市での販売



FS・イベント

南伊勢コミュニティ
in 東京

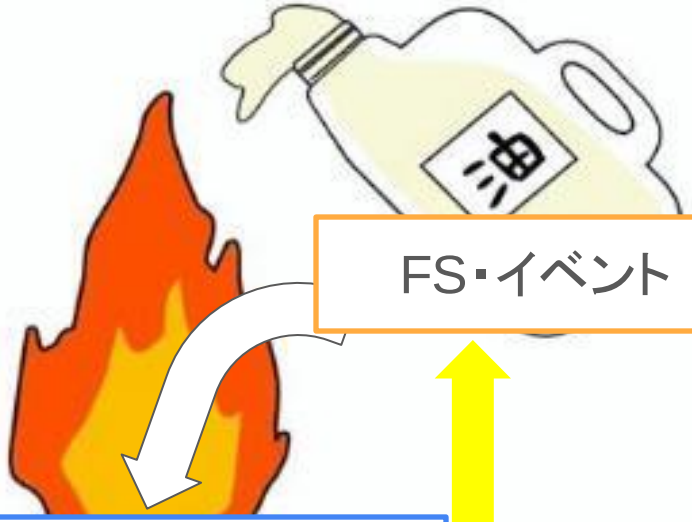
新たな関係人口創出

他の大学の文化祭

人手集めやすい

都市での販売

地域への愛着⇧



FS・イベント

南伊勢コミュニティ
in 東京

新たな関係人口創出

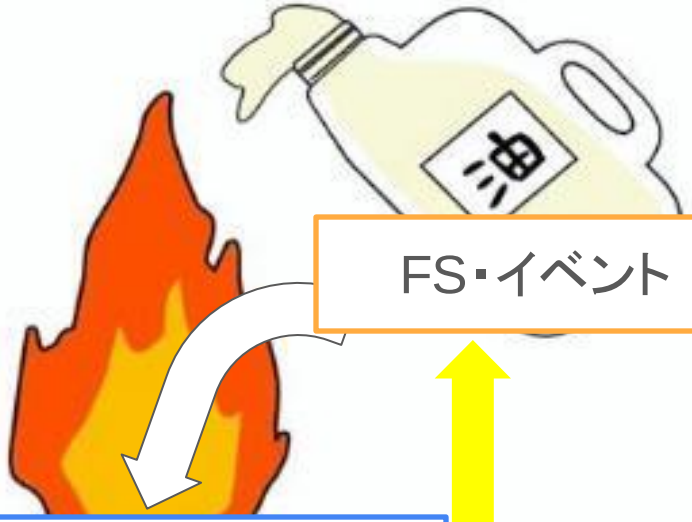
継続的な関わり

他の大学の文化祭

人手集めやすい

都市での販売

地域への愛着⇧



FS・イベント

日本酒の売り上げ⇧

継続的な関わり

南伊勢コミュニティ
in 東京

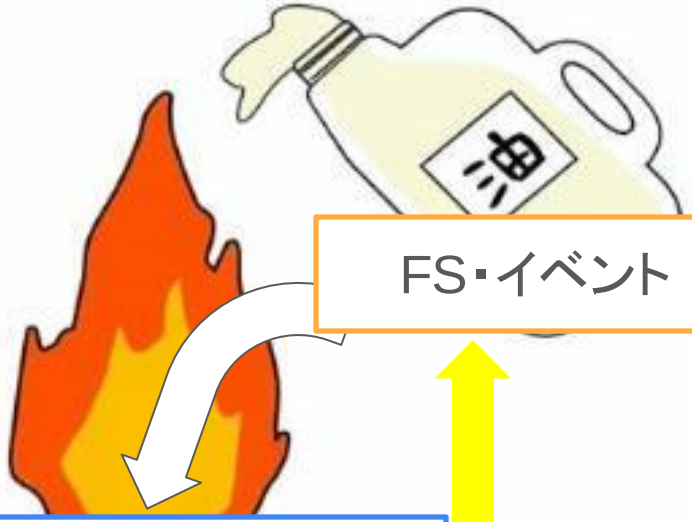
新たな関係人口創出

他の大学の文化祭

人手集めやすい

都市での販売

地域への愛着⇧



FS・イベント

南伊勢コミュニティ
in 東京

他の大学の文化祭

人手集めやすい

都市での販売

日本酒の売り上げ⇧

新たな関係人口創出

地域の持続可能性

継続的な関わり

地域への愛着⇧

ご清聴ありがとうございました。

私たちを温かく迎えてくださった地域の皆さま、事務局の皆さまをはじめとし、
お世話になった全ての皆さまに、厚く御礼申し上げます。

2024年度FS
三重県鳥羽市

～離島地域を訪れる機会の創出～

担当：大西美帆奈・森本早紀・山代晃聖

目次

1. はじめに
2. 現地活動の報告
3. 答志島の魅力
4. 答志島の観光業の課題と施策
5. 提案
6. 謝辞

鳥羽市について

アクセス

東京→（新幹線1時間40分）名古屋→（JR東海 近鉄特急1時間半）鳥羽

水産業

海女漁業が盛ん。日本一海女が多い。海女小屋が見られる。（国重要指定無形民俗文化財や日本遺産にも認定）
世界初の真珠養殖発祥の地としても知られ、高品質な真珠を生産してきた真珠養殖業が営まれている。

2.現地活動報告

現地活動①　7/31~8/2

- 離島散策、
- マリンアクティビティ（夕釣、シュノーケリング、SUP）、
- 地域の方々と地域おこし協力隊のインターン生の方々との交流
- 島の旅社の方にヒアリング

→

✔️鳥羽の離島地域の魅力、地域の方々の温かさに触れた

✔️長年地域に住んでおられる方々だけでなく、移住してこられた島の旅社の方や、地域おこし協力隊の方々にお話しを伺うことで、それぞれ異なる立場から見た地域の魅力や課題を知ることができた

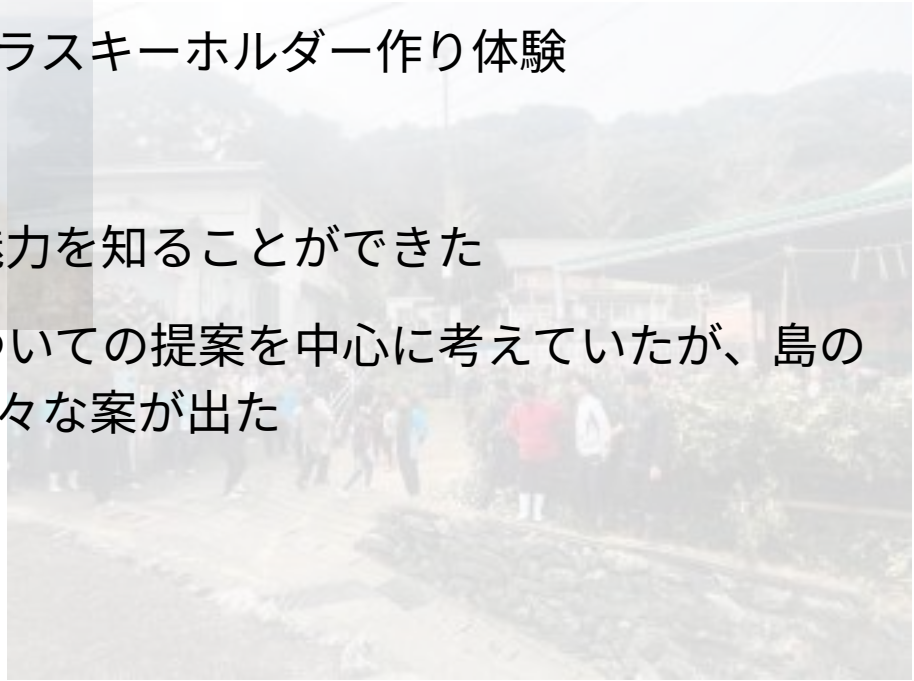
現地活動②　2/15~17

- 答志島を散策
- 神祭の見学
- 島の旅社の方にヒアリング、シーグラスキーホルダー作り体験

→

✔️新メンバーも含めて、改めて鳥羽の魅力を知ることができた

✔️答志島での社会科見学や修学旅行についての提案を中心に考えていたが、島の旅社の方へのヒアリングをきっかけに様々な案が出た



3-1.答志島の魅力

◯自然環境
・山間部住まいの人々や都会っ子にとって魅力的

現在も修学旅行では
岐阜・奈良、東京・大阪の
利用者が多い。

◯歴史文化

・漁村文化：街並み、海鮮（とろさわら）、八幡さん、神祭など

・九鬼水軍（嘉隆）

・寝屋子制度

その他、地域プラットフォームの「ねやこや」や地域おこし協力隊の活動

https://neyakoya.studio.site/

4.答志島の観光政策の課題と施策＞現状

“島の旅社”という答志島唯一の観光事業者が様々なコンテンツを展開

島の旅社

・島唯一の観光事業者
・漁師の家のご婦人の方々が主体
・個人/団体の双方に対して様々なプログラムを展開

“豊かな自然と島の人たちが長い年月をかけ培ってきた**風土は島の大切な宝物**です。
島の旅社ではこの島の魅力であるありのままの生活を訪れた方におすそわけし、体験していただきたいという思いで**島の人々の手で「島の旅」をプロデュースする島の母ちゃんたちの取り組み**です。”

コンテンツ例

4.答志島の観光業の課題と施策＞課題

観光を“ビジネス”として成立させるための組織・収益基盤が不十分

島唯一の観光組織の未法人化

<u>財源の不安定さ</u>
鳥羽市から年間約300万円の委託費
・継続性が保証されない
・経営主体としての意思決定・責任体制が曖昧になりがち

<u>受託先の選択肢不足</u>
島には他の観光組織がない
・市としても委託せざるを得ない

➡継続的な観光振興策が打ちにくい

観光を“本業”と位置づける意識

<u>島民の多くが漁業など他の生業をメイン</u>
・運営も漁師の家の奥様方
・観光業をバックグラウンドに持つ人材がいない

<u>観光業収入源であるという意識が希薄</u>
・相場観（適正価格・サービス水準など）の不足から、料金設定などで宿泊施設や体験プログラムとの擦り合わせがうまくいかない
・その場限りのコンテンツ自体は充足

➡観光を島の主要産業の一つと捉える意識づくり
（or そもそも観光業を継続すべきか）

4.答志島の観光業の課題と施策＞課題

島の暮らしとの関係から、運営構造は維持しつつ持続可能性の向上を目指す

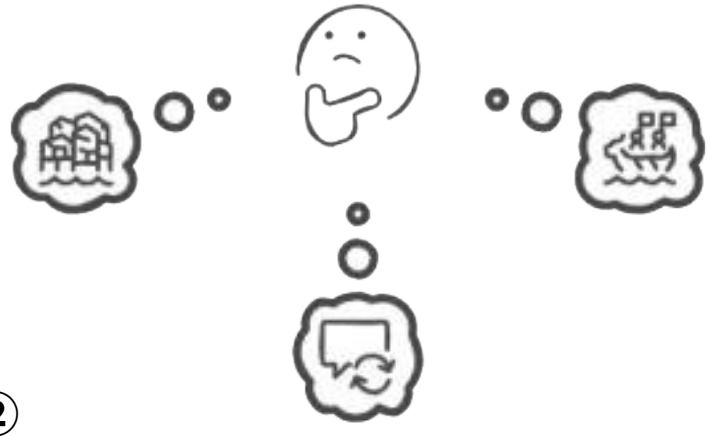
1.答志島ならではの“物語”を再構築・発信するアプローチの強化
・海・自然だけでなく、文化・歴史を活かしたブランドコンセプトの明確化
・九鬼水軍や漁村文化、寝屋子制度などの独自性➡観光資源の魅力を体系的に発信

2.日帰り観光から宿泊・滞在型観光へのシフトを促進する施策の実施
・船便スケジュールや観光情報を統合し、スムーズなアクセス環境を整備
・複合体験プログラムを充実させ、宿泊ニーズを創出することで消費単価の向上を図る

3.観光客が地域と継続的に関わる仕組みの構築
・脱一過性の観光体験➡地域産業への参画や移住・長期関係人口化につながるプログラム設計
・ワーケーションや地域おこしプログラムを活用し、継続的な関係構築の促進

認知度・ブランド力

答志島のブランド認知度と独自性を向上させる方法は？



① ストーリーの構築

答志島のユニークな強みを一貫した魅力的なブランドストーリーに統合

② コミュニケーションチャネルの改善

SNSや生成AIを活用して継続的で戦略的なエンゲージメントを確立

③ 差別化の強化

漁村文化やライフサイクル、歴史を強調し、「海・自然」に留まらないイメージの創出

認知度・ブランド力

“文化/歴史/暮らし”との掛け合わせによる一元的な離島イメージへの埋没の脱却

一元的な“離島＝自然・海”イメージ

伊勢志摩エリア全体のみならず
全国の離島が「自然・海」を訴求

⇒差別化が難しい

例) 伊勢志摩スカイライン(左), 西表島(右)

“文化・歴史・暮らし”との掛け合わせ

漁業が生活に根付いた文化的側面の押し出し

⇒「答志島」が旅先になる理由
一貫したストーリーの構築

ex)九鬼水軍や漁村文化、寝屋子制度

認知度・ブランド力

物理的なアクセスに加え、情報面でのハードルも課題

①定期船の情報のユーザビリティ向上

鳥羽に来たとしても、船に乗って離島に行こう！となりづらい
→鳥羽に来た延長線上で来れるようにできないか？

②聞いたことある程度の人口の拡大

ふらっと来るのが難しい
そもそも島のことを知ってもらわないと人が来ない
➡近鉄沿線などは広告でどうにかできるだろうが、それだけでは現在とさして変わらない

→まずは知ってもらうためのきっかけが必須

③ターゲットに即したアプローチ方法の確立

Z世代などはSNS情報を仕入れる傾向

➡観光雑誌では知られない
➡SNSのアルゴリズムの理解

おてつたびとは

「お手伝い（短期アルバイト）」と「旅」を組み合わせた人材マッチングサービスです。人手不足に悩む宿泊業や農業など地方の事業者と、働きながら旅を楽しみたい旅行者をマッチングしています。

旅行者は、現地までの交通費は自己負担ですが、旅先で働くことで報酬を得られるほか、寮や空き部屋などの宿泊場所が無料で提供されるため、旅の費用負担を軽減できます。さらに、地域の人々との交流を通じて、文化や暮らしをより深く体験し、充実した旅を楽しめます。

地域事業者は、おてつたびを通じて1泊2日から最長2カ月未満の求人を掲載できます。「旅」をきっかけに全国から働き手を募集できるだけでなく、働き手が休日や空き時間に地域を観光することで、地域経済の活性化にもつながります

島への還元の問題

外から来る人が楽しんで帰っていくだけではなく、何かを島に還元してくれると良い

→通訳・翻訳研修／島での模擬授業や家庭教師／児童・生徒向けのミニ生態系調査や観光解説パネル翻訳で英語学習／ユニバーサルデザイン学習とバリアフリーマップ作りなど

参考：旅先バイト「おてつたび」利用事業者の　84.1%が「人手不足が解消できた」と回答｜地方採用の新たな選択肢に
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000142.000036175.html

4.提案

1. 修学旅行等の新アクティビティ案：

   答志島生物・岩石図鑑を作ろう！（理科）／外国人向けの答志島紹介パネルを作ろう！（英語）／バリアフリーマップを作ろう！（総合的な学習の時間）／ねやこや見学・答志島ならではの「子どもの居場所」のあり方を知ろう（総合的な学習の時間）／答志島謎解きウォーク（4-2と同じ）

2. 謎解き脱出ゲーム

3. 鳥羽（離島）デジタルスタンプラリー

4. その他

4-1. 提案①修学旅行等の新アクティビティ案

◎現在の状況（島の旅社さんより）

・県内の4～5年生の社会科見学が多い。次に修学旅行で奈良、大阪、東京、岐阜から来る。

・既にシーグラスアクセサリー作りや釣り体験、ビンゴウォーク、浮島での海の生物探索などを実施している。

◎目的：島外の小学生に学びの場を提供しながら、答志島について知ってもらう。

・期間：春～秋

・地域：答志と和倶

・想定される利用者：小学５～６年生

・日程：1泊２日

◎答志島生物・岩石図鑑を作ろう！（理科）：所要時間　30分程度

島を歩きながら動植物や岩石を見つけ、見つけた日時場所や形態、色、大きさ、写真もしくはスケッチなどで記録する。

→帰ってから図鑑などで種類を調べ、調査結果カードを２部作る（PCデータ可）。

→１部は成果物として修学旅行生のものとし、もう1部はデータの形で答志島に送ってもらう。

→データを集積し、答志・和倶の生物／岩石図鑑を作る。

～メリット～

修学旅行生に「調べ方・記録の仕方」を学びながら生態系・地質調査をしてもらえる。

～懸念点～

精度や調査・記録管理の負担／記録の取り方にばらつきが出ないようテンプレートが必要／危険な動植物などへの対応

◎外国人向け紹介パネルを作ろう！（英語・雨天可）：所要時間　60分程度

班に分かれる→答志島の中で対象スポットや対象物を決め、聞き取りなどで調べる

→英語で解説文を作る（写真を載せてもOK）

◎バリアフリーマップを作ろう！（総合的な学習の時間・他のアクティビティと並行可能）：所要時間30～60分

島を歩きながら、どこにバリアがあるのかを考え、
マッピングする

※バリア…体に障がいのある人やお年寄り、妊婦や日本語が分からない外国の人などにとって、利用しづらかったり利用できなかったり、危険だったりする設備や場所

◎ねやこや見学・答志島ならではの「居場所づくり」を知ろう（総合的な学習の時間・雨天可）
：所要時間　60分程度

参考：【勉強会レポート】島ならではの“子どもの居場所づくり”って？リトケイ中城の「シマ育勉強会vol.2 答志島編」
https://shimaiku.ritokei.com/posts/30059-2/

目的：見学やインタビューを通して修学旅行生に「ねやこや」が担う機能を知ってもらう、翻って自分の住んでいる地域のことを考えてもらうきっかけをつくる。

「ねやこや」とは🤔

地域でつくる、離島留学の拠点「ねやこや答志島」

2022年4月には、かつて土産物店だった建物を活用した「ねやこや答志島」をオープン。「島の教育の魅力化」「高齢者の居場所づくり」を目的としたこの場所は、今回登壇してくださった濱口さんら3名を中心に、地域の人たちの手を借りながらDIYでつくり上げられているそうです。

子どもたちの海洋教育の拠点となる空間として、地域の人々が気軽に立ち寄れる場として、地域ぐるみで場づくりに励んでいます。

朝は子どもたちとお年寄りがいっしょにラジオ体操をするところから始まり、放課後には学校帰りの子どもたちが集まり、地元の漁師さんやお年寄り、大学生たちと触れ合いながら学ぶ場に。時には島のお母さんがつくった食事をみんなで食べたりと、世代間交流を促す憩いの場として活用されています。

4-2. 提案②謎解き脱出ゲーム

◎概要

商店などで謎解きキットを購入→謎解きをしながら答志島を回ってもらう

→最後まで辿り着いたら景品ゲット

◎目的

謎解きしながら答志島のことを知ってもらう。

ex.「答志島　海底の呪いからの脱出」

◎ゲーム概要

- プレイ人数：2〜6人
- エリア：答志島の港周辺、胴塚、血洗い池、マルハチなど
- クリア条件：すべての謎を解き、隠された「脱出の鍵」を見つける

- クリア特典
  - 🏆 成功 →「海底の呪いから脱出した者」認定証 + 限定お土産
  - 💀 失敗 →「九鬼の呪い」シールをもらう

◎ストーリー

あなたたちは答志島に遊びに来た観光客。

しかし、船で島を一周していたとき、突然の濃い霧に包まれ、見知らぬ浜辺に流れ着いてしまった。

島の老人によると、「これは海に沈んだ九鬼嘉隆の水軍の呪い」だという…！

答志島の海には、九鬼嘉隆が隠したとされる“呪われた沈没船”があり、その封印が解かれると、島全体が海に沈むと伝えられている。

呪いを解くためには、島の海に隠された「海の紋章」を見つけ、沈没船の封印を閉じなければならない。

あなたたちは無事に「海底の呪い」を解き、答志島から脱出できるのか！？

4-3. 提案③鳥羽（離島）デジタルスタンプラリー

◎概要

スタンプラリーの専用サイトにアクセス→対象スポットに行き、スタンプを獲得する→スタンプが集まったら特典に応募する

スタンプラリーの対象スポットを、答志島など離島を含めた鳥羽全体にする

◎目的

・鳥羽まで来た人を島まで呼び込む。

ex.「伝説の巨大魚を追え！」

◎ストーリー

答志島の沖に「伝説の巨大魚」がいるという噂がある。

かつて島の漁師が見たというその魚は、今もどこかで生きているのか？

あなたは、島中に隠された手がかりを集め、伝説の巨大魚の正体を突き止められるか？

◎スポット

- •漁港（漁師からヒントをもらう）
- •市場（古い魚拓の謎を解く）
- •海辺の展望台（最後の証拠を見つける）

4-4. その他

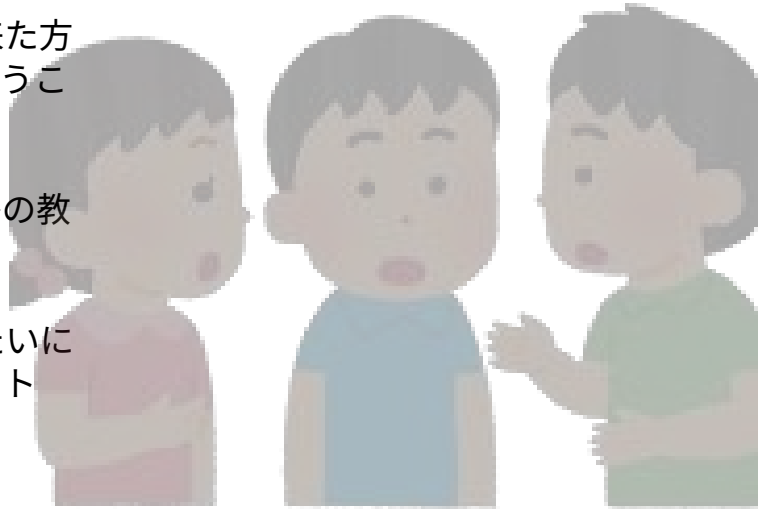
現地活動後に出た意見

◎旅客などの外国語対応について

語学教員志望の学生や、通訳や海外勤務志望の人、海外から来た方などに、ボランティアやアルバイトのような形で協力してもらうこともできるのでは
↓
・離島で働いてみたい教員志望の人や海外の人を誘致でき、島の教育にも役立つ

・一年や半年など期間を決めてワーホリやリゾートバイトみたいにしてもいいかも？その期間後もオンラインで交流が続けばベスト

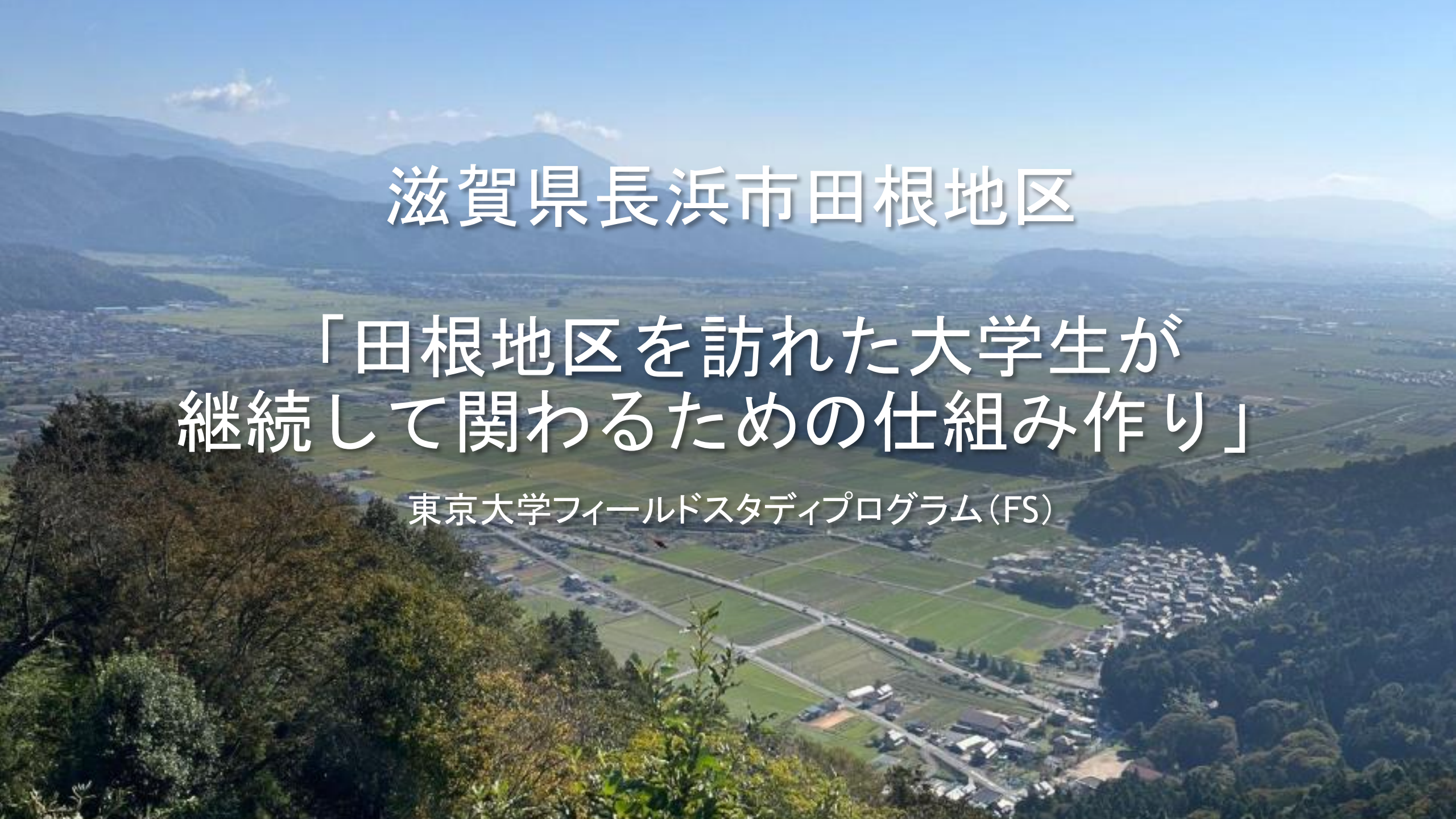
・ただし、住宅の確保が課題……



まとめ

今回の活動では提案の段階にとどまりましたが、答志島の地域の方々をはじめ、たくさんのご助力をいただき、島外の若者・大学生というような視点で、自分たちなりに問題解決に取り組むことができました。

本活動においてご協力してくださった、鳥羽市企画財政課企画経営室　木下様、島の旅社推進協議会　スタッフの方々、鳥羽市議会議員副議長　濱口様、鳥羽市地域おこし協力隊　正林様、大川様、竹久様、そして私たちチームメンバーを温かく迎えてくださった鳥羽の方々に、深く感謝いたします。



滋賀県長浜市田根地区

「田根地区を訪れた大学生が継続して関わるための仕組み作り」

東京大学フィールドスタディプログラム（FS）

滋賀県長浜市田根地区とは

・長浜市南部に位置する中山間の地区

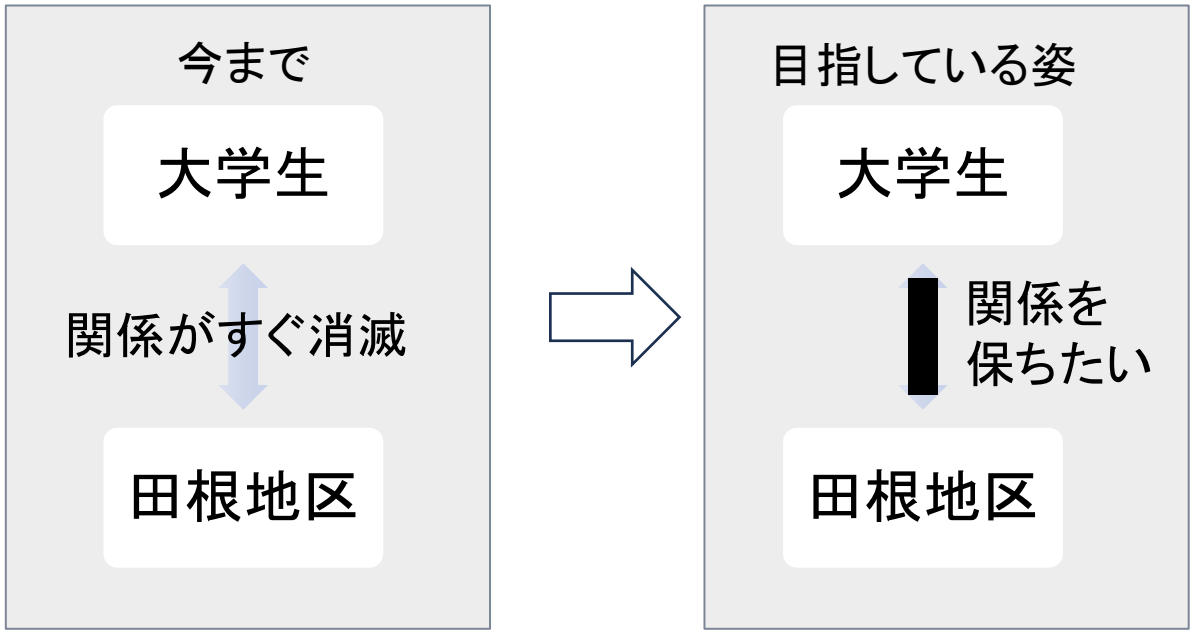
・高齢化率は40%を超える

・2007年から大学生がフィールドワークを開始

・以後多くの大学生が来訪するように

・個人単位では大学生との繋がりは一時的…

私たちのミッション：
田根地区を訪れた大学生が継続して関わるための仕組み作り



大学生のメリット：

地方部で活動する際の拠点を持てる

地域のメリット：

関係人口の創出

◆この目標を達成するために、大学生が地域との関係を持ち続けられる仕組みを考える

第１回 現地調査

目標：田根の魅力の発見

田根地区に集まった他大の学生と交流

第１回 現地調査

インタビュー

①田根地区の地域の方々
②滋賀大学 中村亮太さん
③早稲田大学 矢嶋諒さん
④三澤璃香さん
⑤田根まちづくりセンター 中嶋さん
⑥慶応義塾大学小林研
⑦関西学院大学 武田直也さん
⑧京都橘大学　三浦さん
⑨高校生 松浦さん・矢守さん
⑩長浜市役所 松山さん

第１回 現地調査

インタビューの結果

- 田根地区の魅力（大学生目線）
  - 人
    - 堀田さん
    - 多様な大学生
  - 地方についての生の情報
    - 多様な人からフランクに話を聞ける環境
  - 自然豊かな環境
    - 豊かな自然と穏やかな雰囲気
- 「もっとこうなって欲しい」
  - 交通（関東圏からの費用、車社会）
  - 最初は飛び込みづらい？

施策案の検討

①OBOG会／同窓会
- OBOG、現役の学生が双方向で交流できるイベント
- 観光など

②ファンクラブ会員制度
- ニュースレターや会員イベントを通じてつながり意識を保つ

③インターンシップ
- 地元企業や大企業とコラボし、就職活動の充実と地域の活性化の双方を満たすイベントを検討

④オンラインイベント
- 複数大学の学生が所属するオンラインプラットフォームの活性化

第2回 現地調査

目標：具体的な案の作成

田根地区でのディスカッションと観光

第2回 現地調査

- 長浜市役所の方々に、私たちの仮説を聞いていただき、フィードバックをいただく。
- 実現可能性のため、継続性（イベントが単年だけでは終わらない）と金銭面の問題（首都圏からはやはり多くの金がかかる）の重要性を痛感する。

現地調査を終えて見えてきた課題

田根に訪れる動機がない

「交流」自体が魅力

田根地区自体の魅力に気づけていない

私たちが見つけた田根の魅力

私たちが見つけた田根の魅力

豊かな自然と
大学生が自由に繋がれる
非日常的な空間

私たちの結論

- ***同窓会の実施によって関係のとぎれかけた学生を繋ぎ止める。***
  - 過去に田根地区に関わった学生は、再度訪問しても何ができるか明確でないと行く気にならない。

⇩

  - 「**再度訪問したらかつての皆に会える** 」ということを保証できれば再び来る気になるのではないか、と考えた。

- 他にも「企業とのコラボレーション」などの案もあった。
  - 企業から良い反応を得られず、実現せず（昨年のFS）

私たちの計画

ホームカミングデイの企画

2/22
長浜の工場見学、親睦会

2/23
餅つき、報告会、懇親会

2/24
いちごジャム作り体験(立正大学)

⇨ ホームカミングデイを通じて、大学生の交流の場を公式に用意する。

施策実施の所感

①企画段階

- 企画そのものは大きな動機にはならず。
  - 参加してくれた学生は、ホームカミングデイ以外にも田根地区に用事があった学生。
  - 他に田根地区に用事がない学生は日を追うごとに参加のモチベーションが低下。
- 一番のボトルネックは都内からの移動費用

②実施段階

- 各大学の企画や交流会を通じ、大学や学年を超えて交流が深まった。

今後の展望

- 来年度以降も堀田さんは田根地区で活動されるとのこと。
- ホームカミングデイは来年度も実施予定。
  - FSなど、何かしらのものを通じて企画。

- ボトルネックの金銭面の課題の解決のため、企業とのコラボ、都内からの集団移動等が有効か。

ご清聴ありがとうございました

THE UNIVERSITY OF TOKYO

美浜町×東大FS
最終活動報告

東京大学FS美浜町チーム
平田愛、大橋晴太、田村宙照、舘野颯希

目次

1. 美浜町について

2. 美浜町からの課題

3. 現地活動の内容

4. マップの作成

5. 今後の計画

6. まとめ

01 美浜町について

人口 6324 人（令和7年1月）

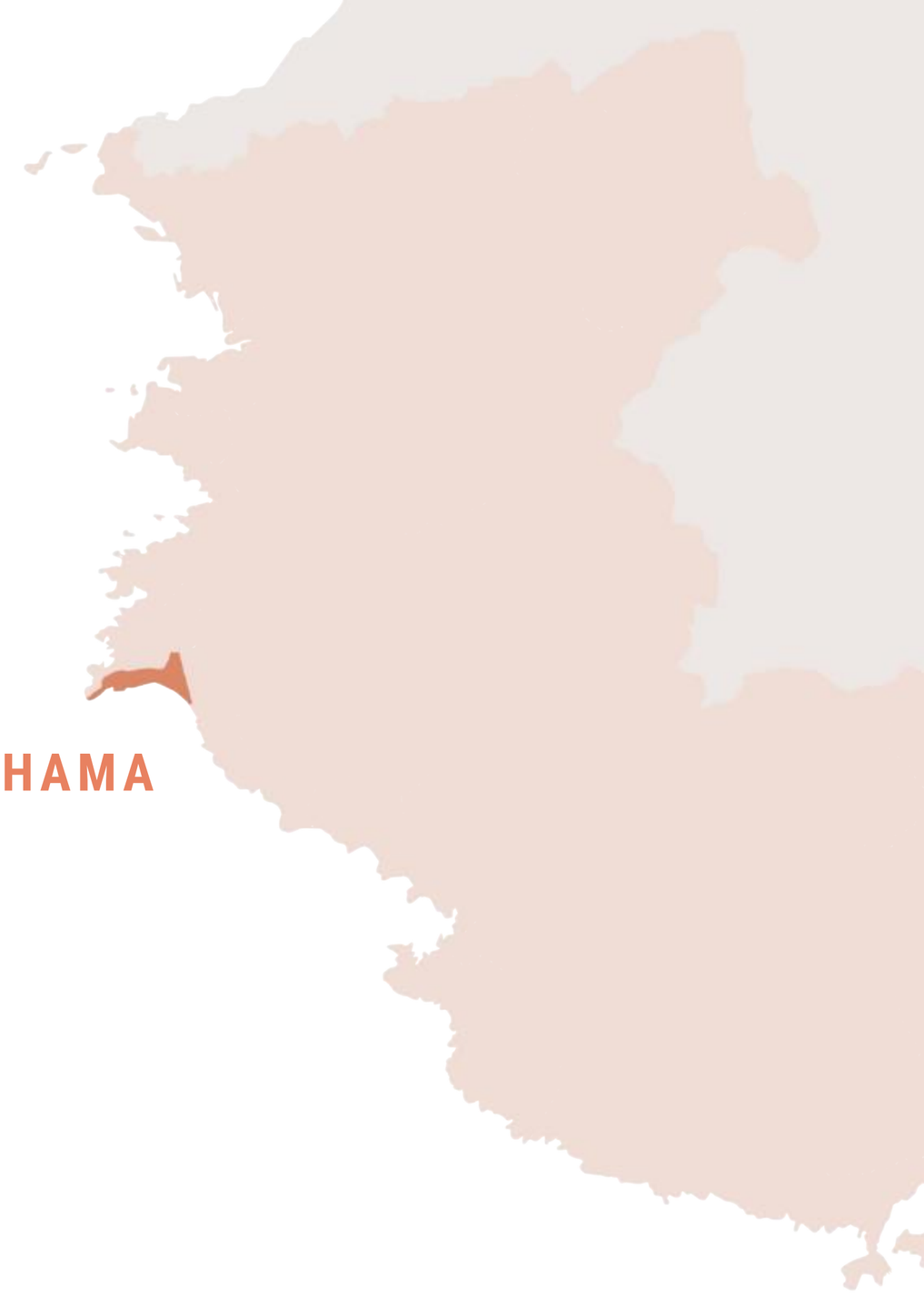
面積 12.77 ㎢

新大阪から約１時間 45分

煙樹ヶ浜

アメリカ村 / 三尾地区

カナダ移民の歴史が息づく、太平洋沿岸の小さな町です。



美浜町 鳥瞰図

日ノ岬灯台

紀伊半島最西端の灯台

カナダミュージアム

カナダ移民の旧邸

煙樹海岸キャンプ場

4.5kmの海岸と松林

02 美浜町からの課題

「美浜の資源を活用して関係人口を創出」

1.近隣市町に比べ、観光客が非常に少ない。新たな町の魅力発掘を！
2.住民自身、町に関心を持ってくれない...美浜町民も楽しめる仕組みを！

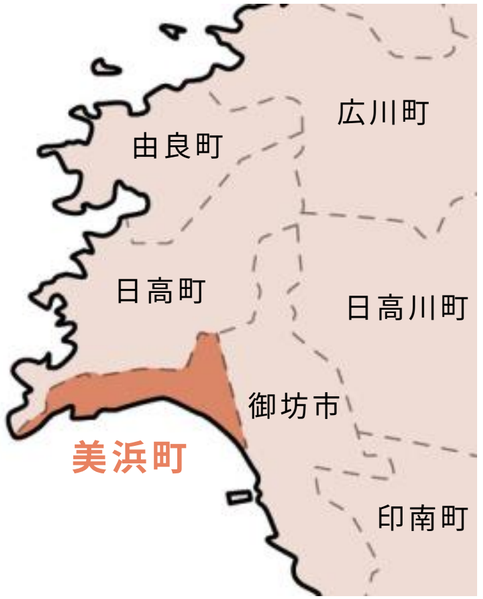
この町、何もないよ～？
（祭りで会った若者）

浜では遊ばない...キャンプも行ったことない
（中学生）

観光客総数(R5年度)

広川町	24.3万人
由良町	28.9万人
日高町	19.5万人
日高川町	51.3万人
美浜町	**4.2万人**
御坊市	22.9万人
印南町	57.1万人

和歌山県観光客動態調査(R5年度)



03 現地活動 | スケジュール

美浜町チームは、活動目標を「美浜町を歩いて楽しむお散歩マップの作成」と暫定的に定め、第１回・第２回現地活動をその情報収集と位置付けました。

体験活動中の気づきやアドバイスを踏まえ、
第１回現地活動後に煙樹ヶ浜エリアの地図の作成に焦点を移しました。

1

第１回現地活動
11/1 - 11/3

地図仮作成

2

第２回現地活動
12/21 - 12/22

地図本作成

3

第３回現地活動
2/14 - 2/17
(予定)

最終発表

03 現地活動 | 第1回

MISSION:町民の視点×自分達の視点から美浜町の魅力を見出す！

WSに取り組む
松洋中の生徒

和田祭りで神輿を
担ぐ！わっしょい

町の方との交流

松洋中学校での訪問授業「中学校周辺の地図作り」
町のキーパーソンやU35を招いた食事会の開催

自然＆文化の体験

シーグラスワークショップ体験、カナダミュージアム訪問
和田祭りへの参加、煙樹ヶ浜散策など

03 現地活動 | 第2回

MISSION:煙樹ヶ浜の歴史についての情報を集める/仮作成した地図に町民の声を反映させる

煙樹ヶ浜の歴史の調査
谷国水産さんに美浜町の漁の歴史を聞き取り
自転車で煙樹ヶ浜周辺を散策

地図への聞き取り
食事会等で町民や役場の方、町おこしの専門家の方に
仮作成した地図への意見を頂いた

谷国水産さんへの
聞き取りの様子

煙樹ヶ浜を電動
自転車で疾走！

03 現地活動 | 第3回

MISSION:地図完成の報告

地図完成の報告
現地報告会
お礼になった中学校や店をまわり、お礼と地図設置のお願い

三尾でのまちづくりリノベーションワークショップ
町内外から美浜の町づくりに関わるプレイヤーたちと交流

町の皆さんに
ご報告

谷国水産さんに
完成報告

04 マップの作成

美浜町の魅力を町民にも伝えたい
新たな美浜町の魅力を発掘したい

煙樹ヶ浜に焦点が当たった活動が
少ない
煙樹ヶ浜は町民にとって特別な存在

煙樹ヶ浜には漁の歴史や伝統的な祭り
がある
煙樹ヶ浜で町民は様々な遊び方をしてきた

煙樹ヶ浜の地図「はまっぷ」作成

特徴① 煙樹ヶ浜に絞った地図にした
特徴② 煙樹ヶ浜の**歴史**に焦点を当てた地図と**遊び**に焦点を当てた地図の二つを作成

04 マップの作成

あそびの地図

声に出したくなる響き「はまっぷ」

煙樹ヶ浜での遊びをイラスト化！

煙樹ヶ浜周辺のお店も掲載！

煙樹ヶ浜周辺で見られる動物たちのイラストも

04 マップの作成

歴史の地図

しらすの加工過程をイラストでわかりやすく説明！

祭りに関連するスポットも

地引網漁の具体的な方法をイラスト化！

煙樹ヶ浜周辺の歴史遺構を遍く掲載！

04 マップの作成

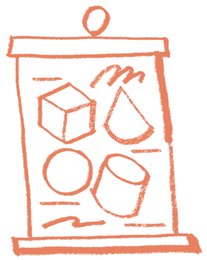
マップを見て

町民に、「こんなのあったよね」を話してほしい

初めて訪れる人に、「こんなのあるんだ」を見つけてほしい

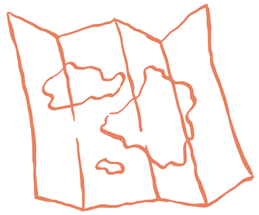
05 今後の計画

ポスター



美浜町のお店や施設など
人目に付くところで
ポスターとして張り出します

パンフレット



町内のお店やキャンプ場、駅
などに置かせてもらい、手に持
って煙樹ヶ浜を散策してほしい

インターネット

自治体のSNSや移住者向け
WEBサイトなど、美浜町に
来る前に見つけられるように
できないか

更なる活用

京都外国語大学観光学部の
来年の活動で「はまっぷ」
の更なる活用を計画中！
あそびの動画化の案も！

一年だけで終わらない、持続的な活動へ

06 まとめ

活動を通して学んだこと

地域の方への感謝

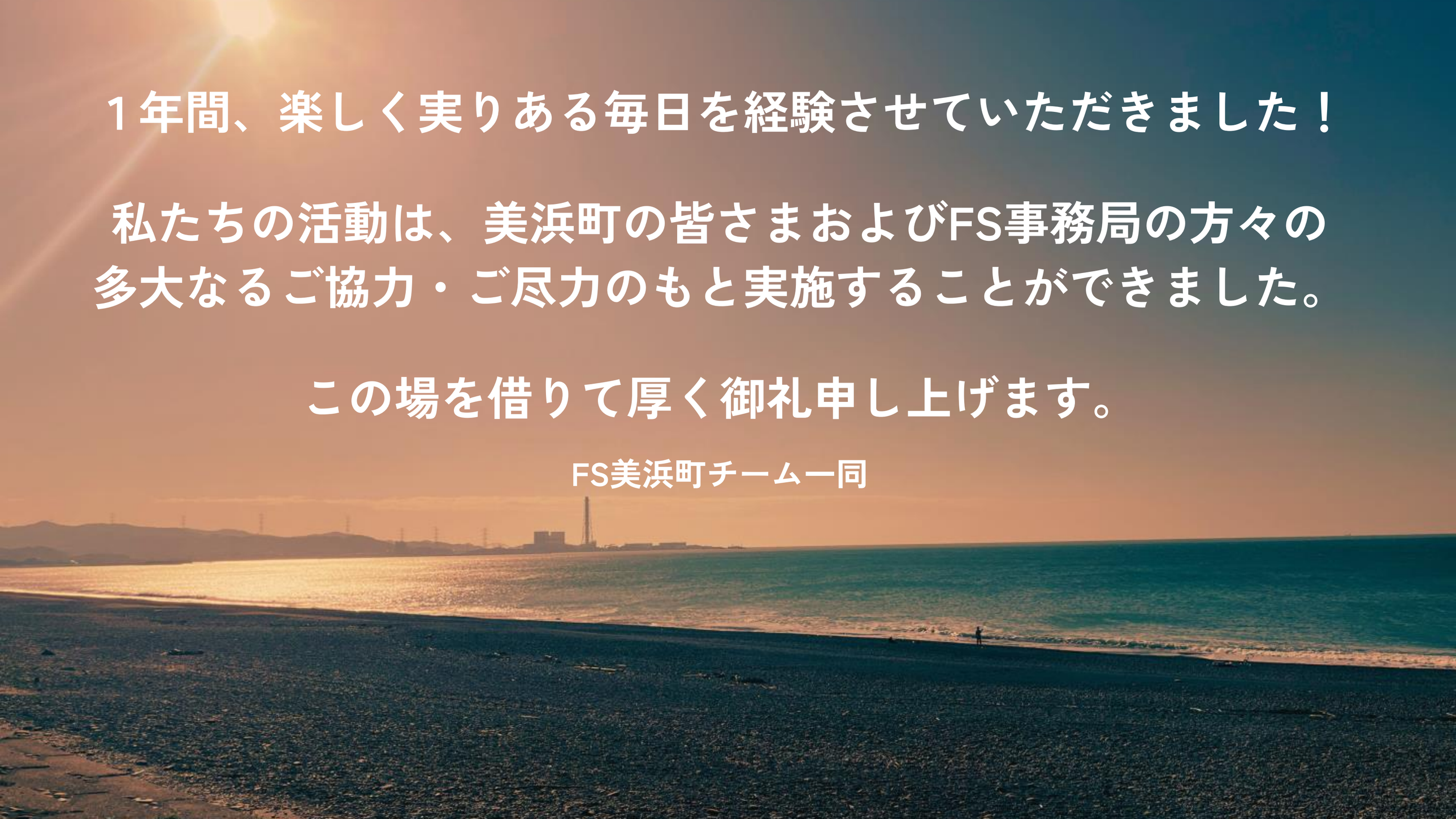
自分たちに見えないところでも、役場の方や現地の皆さんが動いてくれているからこそ活動できる。その感覚を忘れずに動くことが必要。

具体的な「モノ」を作ることの重要性

地図づくりの際、一度プロトタイプができてからどんどん話が進んでいく感覚があった。「どういうものを作ろうとしているか」のイメージが一目で全員に共有でき、現地の皆さんとのコミュニケーションが大幅に楽になり、アドバイスももらえるようになった。

人と人との繋がりが町を作る

移住者がきっかけで新たに移住してきた人に会ったり、住民、移住者、外部からの人との交流から新しいアイデアが動き出す現場に立ち会えた。



１年間、楽しく実りある毎日を経験させていただきました！

私たちの活動は、美浜町の皆さまおよびFS事務局の方々の
多大なるご協力・ご尽力のもと実施することができました。

この場を借りて厚く御礼申し上げます。

FS美浜町チーム一同

和歌山県上富田町

横山萌莉(D2)、田中留里子(B2)、高橋凌大(B2)
飛田映月(B1)、加藤美侑(B2)

上富田町ってどんなところ？

- 人口15,681人
- 地形
  - 南紀白浜空港から車で30分
  - 富田川があり、自然豊か
- 名産品
  - 温州みかん、南高梅、ひょうたん
  - ヤマモモ、すもも
- 見所
  - 世界遺産である熊野古道の稲葉根王子、八上王子

現状把握

スポーツによる地域振興とウェルネスタウン構想

上富田町スポーツセンター
（球技場、野球場、テニスコート、屋外グラウンド、屋内グラウンド、芝生広場、トレーニングジム、研修棟）

- 年間12万人利用
- 地域住民のスポーツクラブによる使用
- プロ選手の利用や合宿誘致
- スポーツの試合
- 栄養バランス弁当の販売
- 地域包括支援センターによる介護予防教室

現状把握

上富田町と近隣市町村のスポーツ施設を見学

・近隣施設との違いや現在の使用状況などを把握

・職員やインストラクターの方から
　現在の取り組みについて伺う

課題抽出

上富田町スポーツセンター

新規の利用者が少ない

アクセスがよくない

山の上にあり、車がないと通えない

合宿利用に関しては閑散期がある

担当者の世代交代がある

合宿利用担当者の交代

課題抽出

上富田町スポーツセンター

新規の利用者が少ない

アクセスがよくない

山の上にあり、車がないと通えない

合宿利用に関しては閑散期がある

担当者の世代交代がある

合宿利用担当者の交代

提案と実践

①トレーニングジム無料開放

②ユニバーサルスポーツ体験

③上富田町マルシェの開催

今後の展望　～新規利用者数が少ない～

新規の利用者が少ない

→運動する機会やコミュニティ作りを目的に、スポーツイベントを実施

反省点

→「運動する人を増やす」ではなく、対象者を絞りより具体的な目的を

（例：主婦層向けにヨガ教室）

→評価しやすい目標設定

（例：ミドル世代のジム利用者数を1.5倍にする？）

今後の展望　～その他の課題に関して～

アクセスがよくない

→上富田町スポーツセンターを通るコミュニティバスを運行

合宿利用に関しては閑散期がある

→合宿利用の少ないオフシーズン割引

担当者の世代交代がある

→運営側も若い世代が楽しめるように、
キックボクシング、eスポーツなどのイベントを開催し、担当してもらう

プログラムを通して学んだこと

・和歌山県上富田町の素晴らしさ、暖かさ

上富田町でさまざまな取り組みを行なっていらっしゃる方々との　素敵な出会い、地域の方との暖かい交流ができた。

・イベント運営プロセス

企画書作成・会場手配・内容決定・物品準備・広報・当日実施・　振り返りなど、一連の流れを実施することができ、貴重な体験に。

・まちづくりにおける「人との繋がり」の重要性

懇親会などでできた地域の方とのつながりが
イベントの広報や内容決定において重要なものであった。

ご清聴ありがとうございました

若年世代への普及啓発を通じた認知症の方やご家族が安心できる地域づくり

香川県坂出市チーム

川瀬ありさ、淋代こよみ、津島彰悟、牟田健助、中島諒

坂出市チームから本日お伝えしたいこと

1. （活動を通じて知った）認知症とその支援現場のリアル
2. （活動を通じて聞いた）認知症支援と教育に関する現場の声
3. 長期的かつ地道な実践の重要性（FS第二期以降への期待）

坂出市の背景とFSテーマ

高齢化が進む中で、認知症の方やご家族が安心して暮らせる地域づくりを目指す

坂出市について

- 瀬戸大橋に繋がる「四国の玄関口」
- 高齢化が進み、認知症の相談件数も増加

坂出市のFSテーマ

認知症の方やご家族が
安心して暮らせる地域づくり

坂出市の地理

自治体・地域住民による地域課題への取組

認知症に対する公助や自助が不足していることから、住民による「チームオレンジ」で共助を強化

認知症に関する地域課題

- 公助（福祉、医療介護）の人手不足
  - ⇒施設の入居待ち等
- 自助の希薄化

チームオレンジを通じた共助機能の強化

認知症
サポーターの
養成

本人・家族・
サポーターの
交流拠点

チームオレンジのメンバーと学生による
決起集会の様子

(*) 坂出市高齢者福祉計画および第９期介護保険事業計画（素案）
https://www.city.sakaide.lg.jp/uploaded/attachment/33767.pdf

学生の活動方針

地域課題にともに向き合うため、チームオレンジの立上げと並行して、課題発見のため活動を実施

学生	
6月	キックオフ
8月	第1回現地活動（施設・戸別訪問見学、チームオレンジ顔合わせ）
～	
2月	第2回現地活動（介護士・教員等へのヒアリング、チームオレンジ参加、認知症啓発イベント）

課題発見、新しい発想

自治体・地域住民	
3月	チームオレンジ　キックオフ
8月	チームオレンジ　全体会
～	
2月	チームオレンジ　決起集会
3月以降	拠点活動の開始

チームオレンジの推進

活動を通じて知った、認知症とその支援現場のリアル

公助による専門的な支援から、共助による地域でのケアと活躍まで、様々な状況が存在

活動場所	実際にお会いした認知症の方	認知症支援を行う方々	
グループホーム・デイケア施設	目は合わせられるが、ほぼ意思疎通ができない重度症状の方	生活介助からレクリエーションまで担う介護福祉士	公助
戸別訪問先	精神疾患を持つ60代の娘2人の世話をする、90代の認知症の母親	支援への接続を行う社会福祉士 （左の例では、母親がゴミ出しをできなくなったので収集サービスに接続）	公助
チームオレンジ	自身も認知症疑いがありながら、周囲のケアもあって認知症サポーターとして活躍されている方	地域で自主的に勉強された認知症サポーターの方々	共助

活動を通じて聞いた、認知症支援と教育に関する現場の声

認知症への理解促進・関心醸成に課題が存在

行政職員の方	「認知症について、**当事者は「知られたくない」、市民は「知りたくない」**になってしまっている」 「自分が困ってる/助けてもらえると思ってない人が大勢いる。何とか自発的に出てくる機会を待つしかない」	裾野を広げることの重要性
介護福祉士の方	「母親が祖父母を介護する様子を常に見てきて、自分も目指してみようと思った」 「情報系に行きたかったが、手に職と言われて福祉科に進んだ」 「介護は給与や働き方でネガティブなイメージを持たれているが、やってみないと分からないやりがいもある」	福祉への関心醸成の難しさ
教育委員会・教員の方	**「ある中学生が、いつものように家に帰って「ただいま」と言うと、祖母から一言「どちら様？」と**。再現性はないが、これこそ真の認知症の理解だろう」 「障碍者教育で、目隠しする体験をしても遊びになってしまっては意味がない。認知症教育も同様」	意味のある教育の重要性

活動を踏まえた学生からの提案

学校等での若年世代への継続的な普及啓発による、認知症の方やご家族が安心できる地域の形成

自治体

坂出市役所

認知症の知識教育

学校

坂出高校

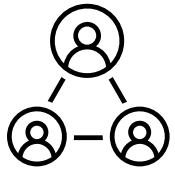
身近な実感の醸成

大学生・若者

東京大学

認知症への関心・
地域福祉への興味形成

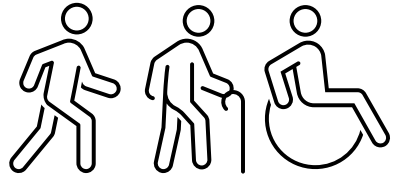
見守り・支援への参加



地域

見守り・支援

役割を持って貢献



認知症の方

提案内容の先行実施：子ども向けの普及啓発イベントの実施

若年世代への普及啓発の足掛かりとして、市立図書館にて子ども向けの普及啓発イベントを実施

- 認知症について理解してもらうため、認知症に関する人形劇を実施

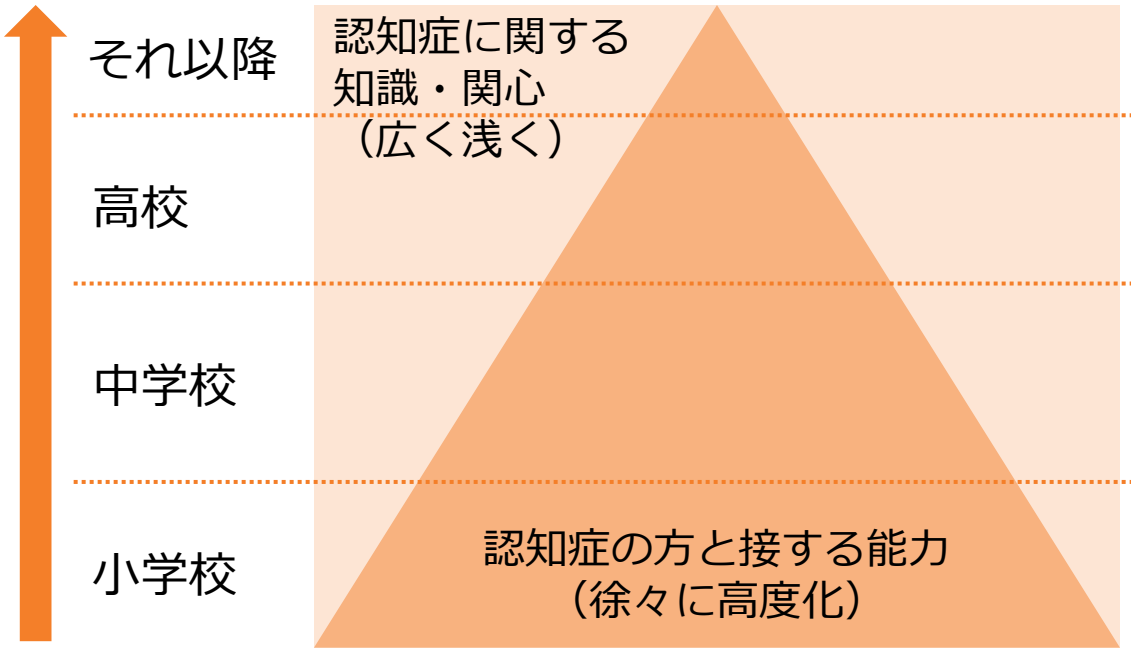
人形劇の内容	子どもの反応
ご飯を食べたことを忘れて、もう一度ご飯を求めるおばあちゃん	• もう一度食べさせてあげる • おやつをあげてみる（親御さん）
答えてるのに、何度も今日の日にちを尋ねるおばあちゃん	• もう一度教えてあげる • 手に書いてあげる（親御さん）

作成したチラシ

イベントの反省と今後の内容案

- 小学校入学前の子が多く、人形劇の理解が難しかったと思われる
- 実際には、小学校中学年程度までは、認知症というよりもまず高齢者との関わりの体験が重要

小中高～と、包括的かつ段階的に教育を実施していく必要があるのではないか？



福祉科への進学、NPOでの地域活動等（一部）

インターン等によるキャリア関心（一部）

認知症に関する知識の学習
職場体験での福祉現場の体験（一部）

高齢者との交流
認知症に関する人形劇

今後の進め方案

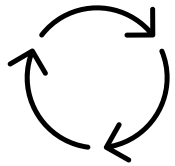
若年世代の知識・関心に合わせ内容を改善し、継続的な普及啓発を行う体制を構築する

若年世代の知識・関心の理解

- 若年世代を対象にした、認知症に対する意識調査の実施
- 家族状況やキャリア志向との関係を分析

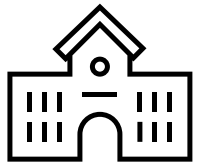
イベントの実施を通じた啓発内容の改善

- 認知症の知識・関心の変化に関するアンケート実施
- 結果を受けた内容の改善



学校等を拠点にした継続的な普及啓発

- 毎年の教育を通じた若年世代の知識・関心の底上げ
- 長期的な認知症サポーターや福祉キャリア形成を目標



1年間の活動を通じた学び

- チームオレンジへの参加を通して：普段見えないだけで、思いを持った地域住民の方はたくさんいる
  ⇒アイデア出しや企画をするのは、実際に行う地域住民が主であるべき
  （当初は学生側で色々と企画を考えたりもしていた）

- 学生の役割は難しいが、1年間で色々やろうとするのではなく、スコープを絞って、次につなげる意識と準備が重要⇒「子ども向けの啓発イベント」

- 学生チーム内でも自治体間でも、中々定期的にコミュニケーションが取れない中で、目的を見失わず認識を合わせ続けることを主体的に意識できるようになった

ご清聴ありがとうございました

香川県土庄町

宮下･猪原･竹内･盛田･前田

目次

1. サマリー
2. メンバー紹介
3. 活動概要
4. 高校生とのワークショップ
5. 政策提言に向けて
6. アートマップ作成
7. 今後の予定

活動サマリー

FS土庄町は、9月に高校生とワークショップ を実施。9月以降、土庄町の課題を踏まえ、移住者増加のために高校生と島の アートマップ の作成に取り組んできた

①高校生とのワークショップ

- 9月の現地活動で小豆島中央高校の 1年生と2日間に渡って**ワークショップを実施**
- アートマップの作成にも協力してもらい、2~3月に4度のワークショップを実施

②アートマップの作成

- 自由な政策提言に対しては、町の根本課題である**人口減少に対処するため** 、**移住者を増加させる方法について議論**
- 移住のきっかけとなっている **観光に焦点** を当て、**改善の余地があるアート観光** に対し、島にない**アートマップを作成中**

メンバーの自己紹介

FS土庄町は、宮下祐真 (修士1年)、猪原皐良 (学部2年)、竹内彩乃 (学部2年)、盛田忍之(学部2年)、前田誠磨 (学部1年)の5人で活動

宮下祐真・
総合文化研究科
修士1年

竹内彩乃・
文科一類2年

前田誠磨・
理科二類1年

猪原皐良・
理科二類2年

盛田忍之・
文科一類2年

香川県土庄町の概況

土庄町は瀬戸内海に浮かぶ 香川県小豆島の北西部と豊島から成る 自治体。人口は約1.2万人で、移住者が増加中。オリーブや 瀬戸内国際芸術祭 などが有名

【土庄町の位置】

出典：https://note.com/rika_enoar/n/nb4f3498d7fb1

【土庄町の人口】
・人口：約1.28万人(2021.12.1)
・人口は減少傾向だが、毎年200人以上が移住し、近年社会減少数は縮小傾向にある

【有名なもの】
・オリーブ
・瀬戸内国際芸術祭

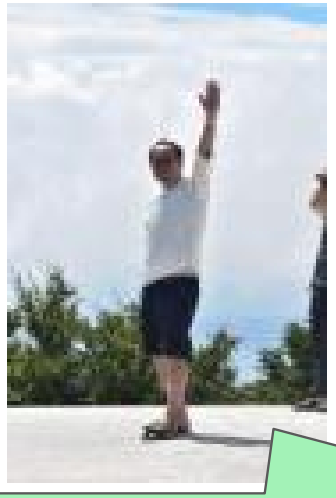
土庄町のテーマ

FS土庄町の活動テーマは、①第一回の現地活動で　高校生と交流 を行うこと、
②自分たちでテーマを設定 し、3月にテーマに対する 政策提言 を行うこと

①高校生とのワークショップ

・1回目の現地活動の際に **香川県立小豆島中央高校の特進クラスとワークショップ**　を開催してほしい
・テーマや形式は完全に大学生に委ねる

②政策提言



土庄町役場　九冨さん
「なんでも良いので、**自分たちでテーマを決めて　3月の現地報告で発表** をしてください！」

高校生とのワークショップ　1/2

9月12日・13日に、香川県立小豆島中央高校 の特進クラスの 1年生と、メンバー 5人がそれぞれ考えたテーマに分かれて ワークショップを実施

【実施概要】

・小豆島中央高校の 1年生の特進クラスの生徒約 30人と総合的な学習の時間の一部として実施

・9月12, 13日の2日間の午前・午後の計 5時間＋発表1時間の時間を取った

【ワークテーマ】

- 小豆島の **好きな場所を WEB上にマッピング** して島外の人に伝えよう
- **小豆島中央高校をもっと魅力化** する方法を考えよう
- 観光客に新しい価値を提供する **空き家の活用** 方法を考えよう
- 小豆島の **交通の課題** について考えよう
- 高校の **食堂の新メニュー** を考案しよう

高校生とのワークショップ　2/2

ワークショップでは、5つのテーマに対してアイディアを議論し、 2日目に発表を行った。WSを通して小豆島に対する新しい発見を得ることができた

【実施結果】

・全班が発表まで終わらせることができた
・どの生徒も積極的に参加し、想定以上のアウトプットを発表するまで至っていた

【メンバーの感想】

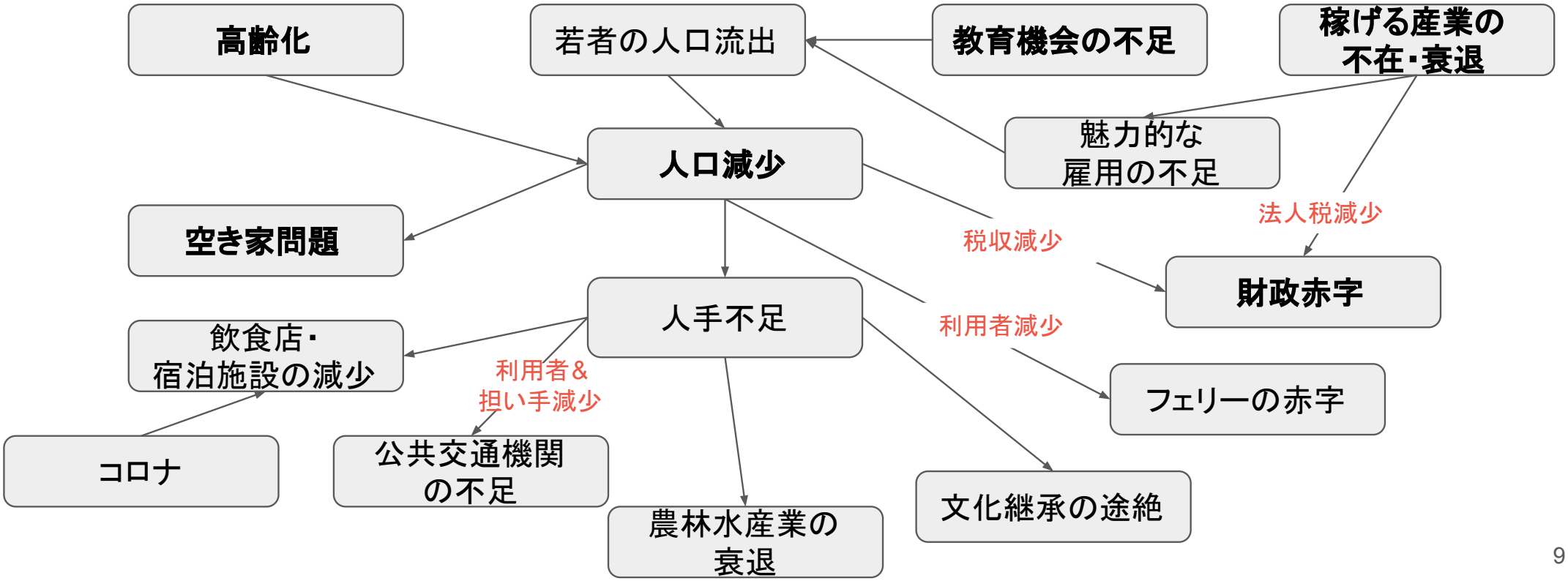
生徒が好きな島の場所を楽しそうに挙げており、**島の魅力を知るきっかけになった**

とても活発な議論が行われていて、
島の高校生の凄さを再認識 した

高校生の持つ新しい視点や考えに驚かされる ワークショップだった

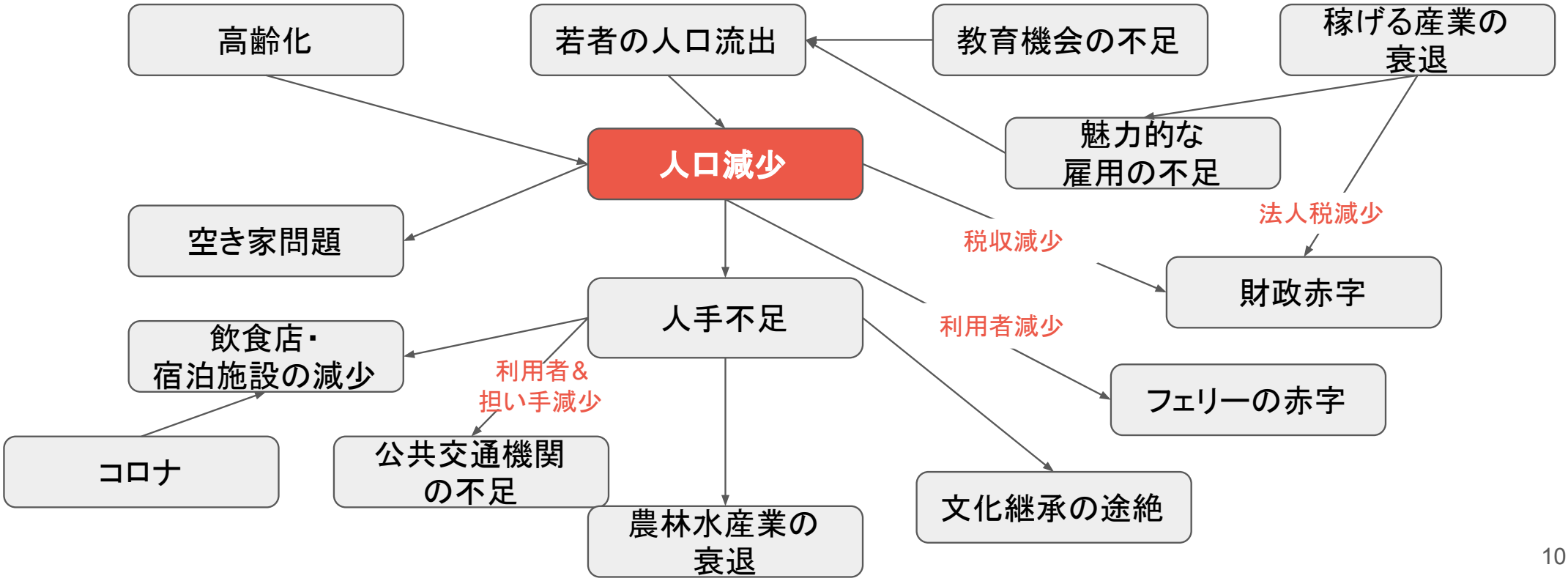
政策提言に向けた土庄町の課題整理　1/2

政策提言に向けて、土庄町の課題を整理。土庄町は、人口減少や少子高齢化、人手不足、空き家問題など日本が抱える 多くの社会問題に直面 している



政策提言に向けた土庄町の課題整理　2/2

以上の課題を整理。人口減少が様々な問題を引き起こしていると考えられる



土庄町の移住者の動向

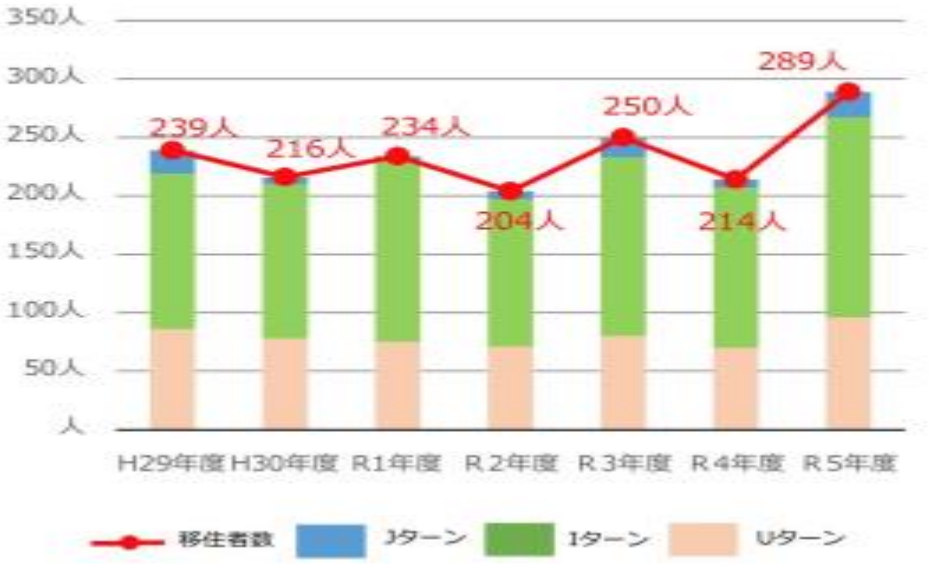
土庄町は人口が減少しているが、ここ数年は、 毎年200人以上が移住 しているため、社会人口の減少幅が縮小傾向 にある

【社会増減の推移】

- 社会減が続いているが、移住者の増加により、近年は**転入数と転出数の差が縮まっている**
- 結果的に**社会人口の減少幅は縮小** 傾向

出典：土庄町「第七次土庄町総合計画」(2024年3月)、
土庄町「土庄町財政報告会」(2024年)

【土庄町の移住者数の推移】



- **移住者は毎年 200人以上** おり、多くはIターンの30代以下の移住者

人口減少に対する解決策

若年層を中心とした社会減や少子高齢化による自然減が進む中、人口減少に対しては、移住者の誘致が実現可能な解決策

【人口減少に対する課題の解決策の整理】

人口動態	現状	考えられる解決策	実現可能性
自然人口	自然減少 ・出生数の減少が原因	・20~30代の男女の島外流出防止や移住の促進 ―そのためには雇用の創出、教育機会の拡充が必要	・財政難などにより、短期的には実現は困難 ・FSで提案しても、提案だけで終わってしまう可能性が高い
社会人口	社会減少 ・人口流出が原因 ・一方で移住者の増加による転入数は増加傾向	・島外流出する人口流出を防止する ―雇用創出、教育・医療等の機会拡充などが必要 ・移住者を増加させる	・上記の理由で、島外流出を防ぐ施策を実行することは難しい ・移住者は増加傾向にあるため、移住地として選ばれるポテンシャルは有している →FSでできる範囲で、移住促進策を考案・実行する

移住者増加のための現状整理　1/2

移住に至るまでのフローを 認知・興味・検討・行動 に分解。それぞれの現状と課題を分析し、実現可能性を考慮し、 興味の段階での取り組みにフォーカス

【移住に至るまでのフロー】

認知	興味	検討	行動
土庄町や小豆島の存在を認知してもらう	土庄町や小豆島の魅了を知ってもらい興味を持ってもらう	土庄町を移住先として検討してもらう	土庄町に移住してもらい、住み続けてもらう

現状と課題

- ・他の農村に比べると小豆島の知名度は高い
- ・予算や時間がかかるので、知名度向上のための施策を**FSとして実行するのは難しい**

- ・現地活動を通じて、**来島者を魅了できる多様な要素がある**と実感
- ・島の人々も、**島外の人に伝えきれていない魅力が多くある**と認識

- ・移住するには、住まいや稼げる仕事の少なさに課題がある
- ・**FSとして実行できる施策は限定的**

来島客に小豆島の魅力をもっと伝えることが重要かつ自分たちでもできること

移住者増加のための現状整理　2/2

移住のきっかけは観光 であり、その中でも 瀬戸内国際芸術祭 で訪れる人が多い

【移住に至るまでのフロー】

認知	興味	検討	行動
土庄町や小豆島の存在を認知してもらう	土庄町や小豆島の魅了を知ってもらい興味を持ってもらう	土庄町を移住先として検討してもらう	土庄町に移住してもらう

土庄町役場へのヒアリング

- 土庄町に移住する人の多くは、**観光**で小豆島を訪れ、**島の魅力に惚れて**移住先として選んでくれている
- 特に**瀬戸内国際芸術祭をきっかけに** 来島した人が多い
- **アートに関心**があり、小豆島に移住してくれた人は多くいる

小豆島観光の課題

小豆島は観光地として大きなポテンシャルを有しているが、 アートという魅力の訴求が弱く、アートを巡るための地図がない という課題がある

【小豆島観光の課題】

瀬戸内国際芸術祭やアーティストの移住者が制作した
70以上のアート作品が島に存在 する

↓

一方で、それらのアートを **一覧化できる地図** や
ウェブサイトは存在していない

↓

せっかくの **アート観光** というポテンシャルが
観光客に伝わりきれていない

↓

島のアート作品を一覧化できる**アートマップを作成し、アート観光の魅力を通じ** て
土庄町への**移住者の増加** に繋げる

【小豆島のアートの分布】

・少なくとも小豆島には **70箇所以上** のアートの観光地（美術館、オブジェ等）が存在している

アートマップ　1/3

アートマップがないという現状を踏まえ、 島のアート作品を一覧できるアートマップを作成する。

【全体マップのイメージ(作成中)】

【アートマップの特徴】

・瀬戸芸の作品やそれ以外のアーティストの作品などの 島のアートを一覧化できる唯一の地図

アートマップ　2/3

アートの密集地については、個別に エリアマップ を作成する。作品の背景や作者の意図を説明した紹介文と写真を掲載 し、アートを楽しんでもらえるようにする

【エリアマップとアート紹介のイメージ】

【アートマップの特徴】

・裏面には、4つのアートの密集地の **エリアマップ** を作成し、**アート作品の紹介** を行う

・島のアート作品のほとんどに、アートの説明書きが付いていないため、写真と共に、**作品の背景や作者の意図を説明し、アートを楽しんでもらえるようにする**

・写真撮影や紹介文の作成には、9月に一緒にワークショップに取り組んだ**小豆島中央高校の 1,2年生17人にも協力** してもらった

アートマップの作成　3/3

バスの路線図など、観光情報も掲載 する。アートへの関心が低い人にも、地図を手に取ってもらいやすくし 、アートを回ってもらえるようにする

【バス路線図のイメージ】

【アートマップの特徴】

・**バスやフェリーの時刻表、路線図や小豆島の観光地の情報、飲食店情報** などを掲載する

・**アートへの関心が低い人にも、観光情報を目的に地図を手に取ってもらい** 、そこからアートの写真や説明も見てもらい、アートも回ってもらうことを狙う

アートマップ作成を通じて学んだこと

アートマップ作成を通じて、地域の魅力を探求し、伝える方法やチームで協働することから多くの学びを得ることができた。

【5人それぞれが学んだこと】

アートの紹介文作成を通じて**アートに込められた意味の奥深さ**と、より良いアートマップ作成のためにメンバーと試行錯誤する中で、**地域の魅力を訴求する方法**を学ぶことができた

メンバーと協力しながらより良いアートマップを作成していく中で、他者との協力の大切さとともに、様々な意見をまとめることや、地域固有の魅力を見出す方法を学ぶことができた

今後について

2025年は瀬戸内国際芸術祭が開催 されます！
私たちが作った地図も手に取りながら、 ぜひ小豆島へお越しください ！

【瀬戸内国際芸術祭】
■日程
・春：4月18日(金) ― 5月25日(日)
・夏：8月1日(金) ― 8月31日(日)
・秋：10月3日(金) ― 11月9日(日)

■詳細：下のQRコードから公式HPをご覧ください

【地図について】
・小豆島観光協会の事務局長に直談判済み
―地図の設置・配布に向けてマップの修正中

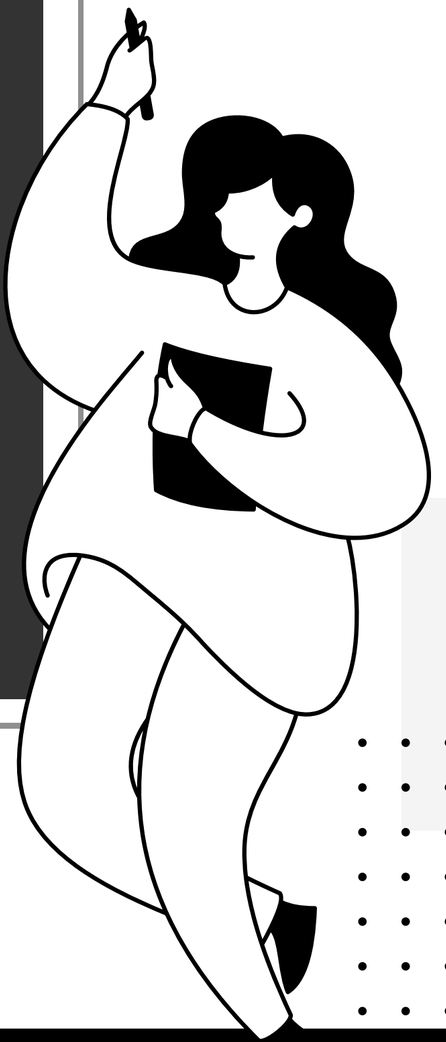
・土庄町にも予算確保等で動いていただき、配布に対して前向き進んでいる

2025年3月17日

東大FS

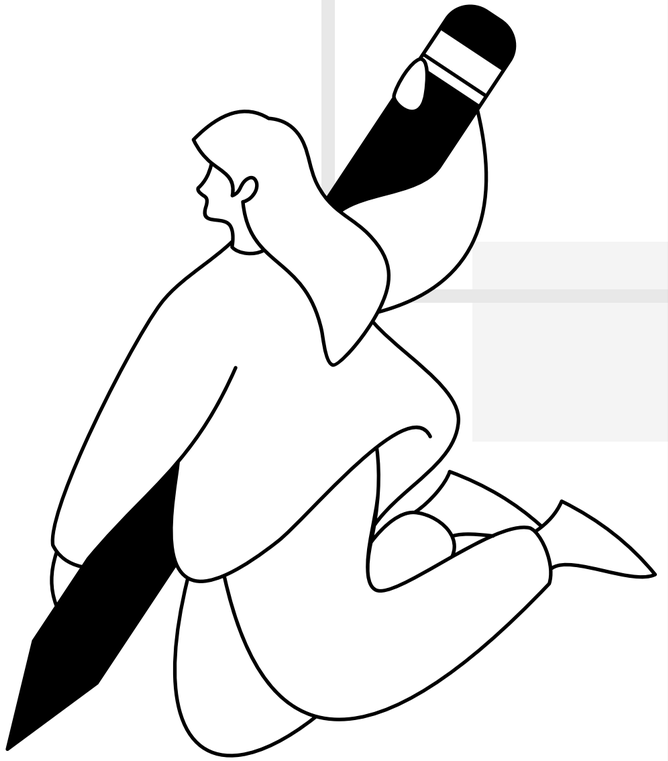
土佐で「自分から」を生み出す教育

高知県土佐市



高知県土佐市チーム：浅野真央　高橋利幸　細野鼓弓

目 次



01. 活動概要

02. 課題

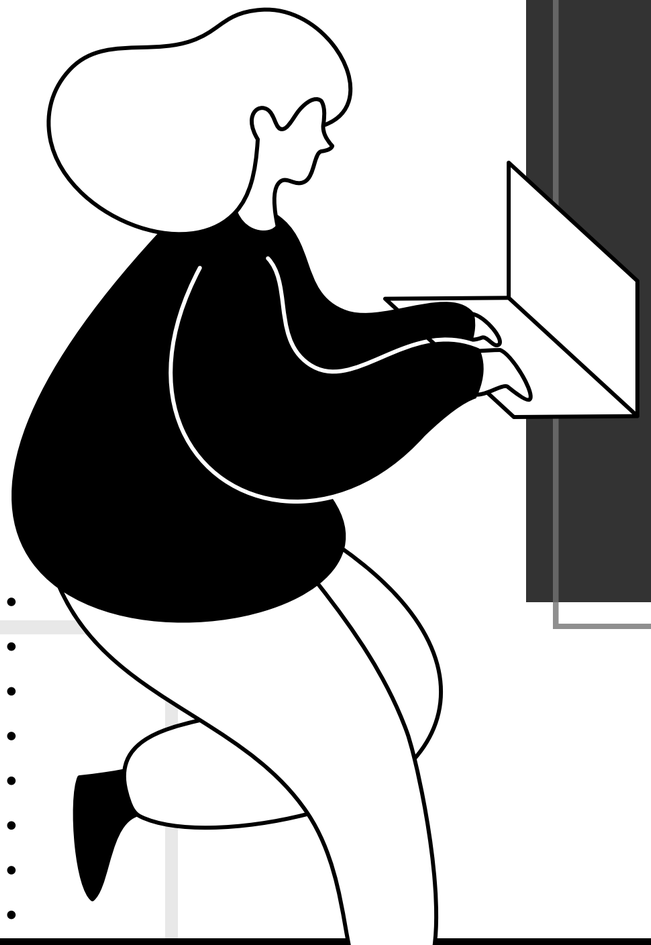
03. 理想状態

04. 私たちの役割

01

活動概要

4月～3月までの流れ



活動概要

４～９月

- **Teens Market**
  - **広報**
  - **プログラム設計**
  - **教材作成**

Teens Market：

土佐市の中学生を対象とした、

商品開発×地元再開拓のための活動

地元起業とコラボし、イベントにて

販売する商品を作り出す

９月～２月

- **ハイスクールマルシェ**
  - **視察**
  - **学生の意識調査**
  - **活動に対する提言**

ハイスクールマルシェ：

地元企業×高校生で新たな商品開発、並び

にマルシェでの販売を行う

地域創生士という団体による活動で、

県内4つの商業高校の学生が参加

Ｔｅｅｎｓ　Ｍａｒｋｅｔ

４～９月

- **Ｔｅｅｎｓ　Ｍａｒｋｅｔ**
  - **広報**
  - **プログラム設計**
  - **教材作成**

Teens Market：

土佐市の中学生を対象とした、

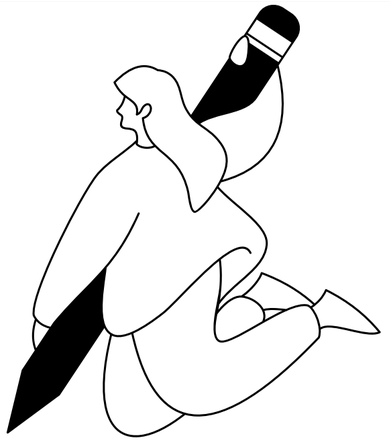
商品開発×地元再開拓のための活動

地元起業とコラボし、イベントにて

販売する商品を作り出す

Teens Market

スケジュール



8月

出店内容、役割分担の決定

何を販売するか考える

9月

事業計画書・予算書の作成、仕入れ交渉

どのように販売するか考える、
仕入れ先と交渉をする

11月

マーケティング

活動内容を周知する

12月

Teens Market本番、振り返り

実際に商品を販売する、
当日の振り返りをおこなう

ハイスクールマルシェ

9月～2月

- **ハイスクールマルシェ**
  - **視察**
  - **学生の意識調査**
  - **活動に対する提言**

ハイスクールマルシェ：

地元企業×高校生で新たな商品開発、並びにマルシェでの販売を行う

地域創生士という団体による活動で、

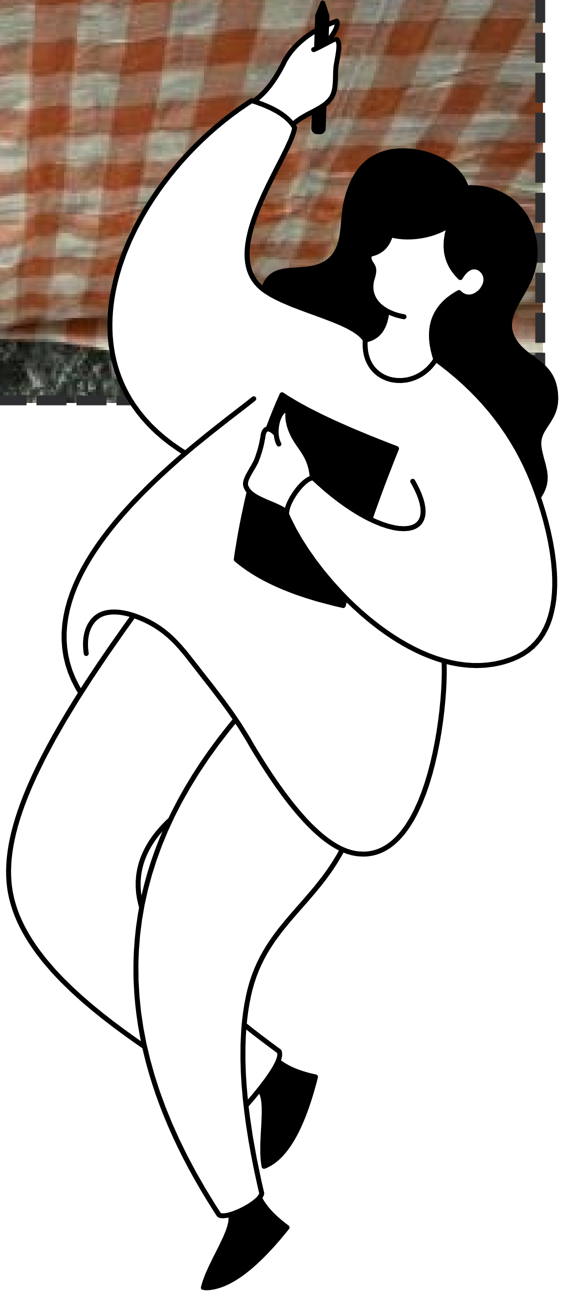
県内4つの商業高校の学生が参加

ハイスクールマルシェ

HIJIRI

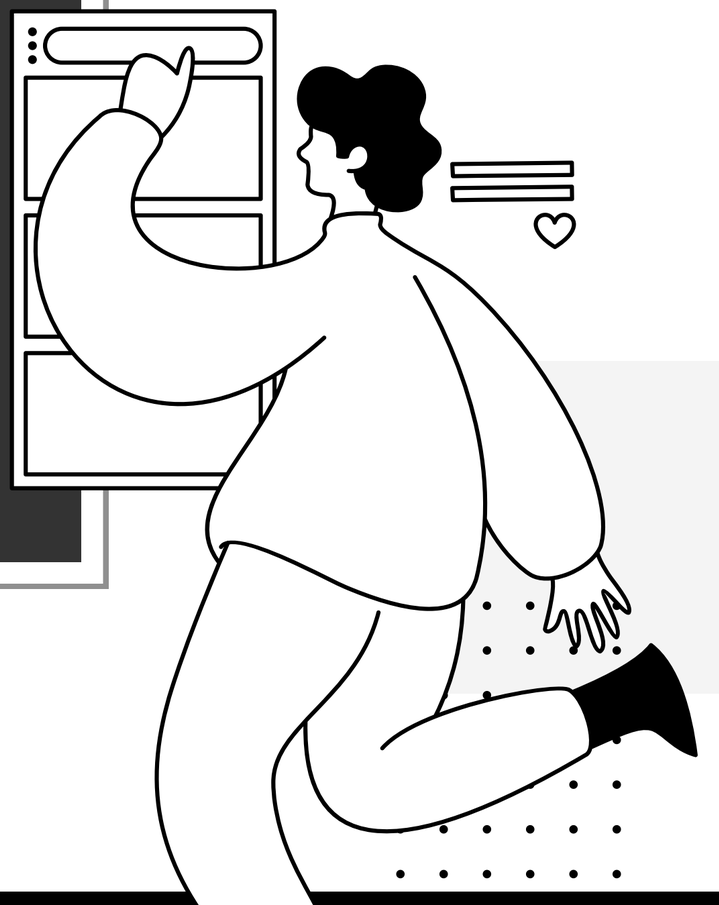
芋好きのあなたへ
360円
480円
いちご大福
¥280

スコーン
プレーン
250円
スコーン
チョコチップ
280円
おくらまんじゅう



02

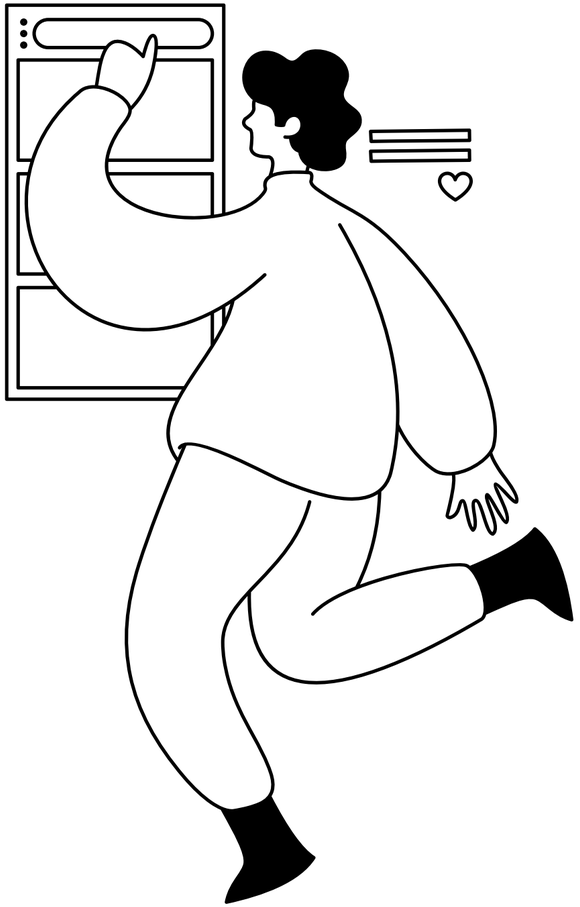
課 題



①：地域活動に対する意識

Teens Marketの参加者募集にあたり、チラシによる広報や、動画での呼びかけ、保護者に対するアプローチ等様々な手段を用いた。

→結果：参加者が集まらなかった



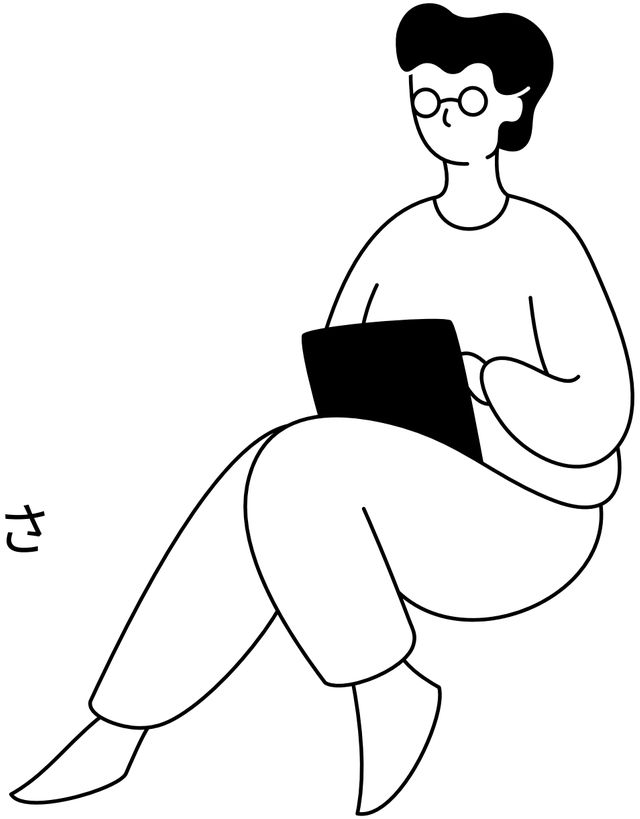
・私たちが想定する、中高生のイメージとのギャップ

・地域というフィールドの魅力

②:学生の属性

ハイスクールマルシェ後の振り返りで一定数出てきていた、「自分では、、、」や「とりあえず○○」という言葉

→行動、選択に対する自信の不足



・自分自身でやりたいことを選択するということの難しさ

・過去の成功体験の不足

03

理 想 状 態

課題を踏まえて

理想状態

学生1人1人が

自分の人生の主人公となれるように

好奇心は生きる力。
自分で興味をもって、自分から選択できる。その姿をみて仲間が増えていく。
人工知能が発達する今こそ、彼らに従うのではなく1人1人が主体的に動くことが重要になってくる。
1人1人が自分の物語の主人公となることを目指して。

理想のミライ

生徒１人１人が
主体性をもって
活動に参加し、成長する

地域というフィールドに出る中で、新しい自分を見つける。

共に取り組む仲間と高め合う

将来に対する選択肢の広がり、明確化

理想のミライ

学生×高知のカツオ×伝統継承

カツオ漁に出る漁師の平均年齢が70歳前後となっている今
残すべき伝統と、学ぶに適した高知というフィールド
何もしなければ、世代が途絶える今だからこそ
学生が入り込み新しい波を生み出す

04

私たちの役割

私たちの役割

場の作成

- 学生が自身の新しいフィールドを見つけるための機会創出

選択肢のないところに主体性の発生は困難である。

プログラムの作成や、環境整備等を通して、まず学生が第一歩を踏み出せる状況を作り上げる

私たちの役割

ロールモデルの提示

- 憧れを抱ける、目標となるような存在

自分の進むべき道を示してくれるような存在がいて、
初めて人は自分の方向をみることができる

地域は挑戦の連続だ

新しい自分に変われる

そんな自分を温かく受け入れてくれる

高知で育ち、高知に還るそんな巡りを

宇久島

マリンアクティビティと「挑戦」の島

発表項目

島の概要

現地活動報告

活動地域の課題と解決策

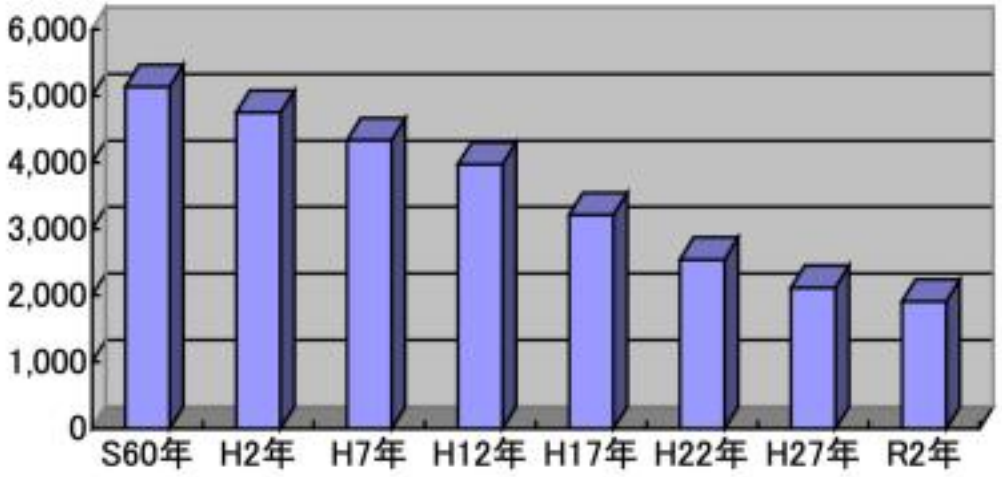
島の概要

基礎情報

人口約1800人

面積24.94㎢

（令和５年）



島の概要

アクセス

佐世保から

高速船で１時間半（直行）

フェリーで２時間半（直行）

博多から

フェリーで４時間10分

ただし宇久着はAM 3:55

島の概要

島の特徴

牛の畜産が盛んで肉用として出荷されている

漁業も盛んで海士文化がある

休耕地が増えており、その土地を転用し国内最大規模のメガソーラー事業が進められている

メガソーラー事業により、作業員が島に集まっている

農業や漁業を体験できる民泊プログラム、風光明媚な名所の数々、透き通った海を活かしたマリンアクティビティーなどいろいろあるが、どれも知名度が高いとは言えない

高校が一校あるが、在校生は非常に少ない。来年度から島留学がはじまる

現地活動報告

「マリンアクティビティと挑戦の島」

宇久島での活動

第一回現地活動（8/31-9/3）

・島を一周し、理解を深める
・移住者や島の活性化に携わる人からのヒアリング

第三回現地活動（11/9-11/12）

・ふれあい産業まつりへの参加を通じ魅力や課題の洗い出し

「奇景に富んだ小粋な島々」「教会の文化が根付く最大の町」

小値賀町、新上五島町での活動

第二回現地活動（9/23-9/24,小値賀町）
・島を一周し、理解を深める
・移住者からのヒアリング

第二回現地活動（9/25-9/26,新上五島町）
・島を一周し、理解を深める
・世界遺産となった教会を含む観光地を訪れ、島の魅力に触れる
・移住者からのヒアリング

移住促進における三島連携施策

宇久島（佐世保市）

マリンアクティビティと「挑戦」の島

・基礎情報
人口約 1800 人　面積 24.94 ㎢（令和５年）
・アクセス
博多港からフェリー、佐世保港から高速船/フェリー
・島での暮らし
島の中心の平地区にスーパーが２軒、４つの診療科を備える診療所が１軒。個性あふれる飲食店も数軒あり、島で豊富に産出する海産物はどれも一級品。青く透き通ったビーチでシーカヤックや SUP などを体験でき、海の恵みを存分に感じられる。島中央の城ヶ岳山頂から見渡せる 360 度の大パノラマは圧巻だ。
・こんな人におすすめ
チャレンジ精神がある人。島には商売などで競合相手が少なく、新しいことを始めるにはうってつけ。電力会社関係者などの一時滞在者が多く、さまざまな需要が旺盛な現状も追い風だ。
また、子育て世代にもおすすめだ。地域で子育てをする環境が整っているほか、宇久高校はきめ細かい指導のもとで高い進学就職実績を誇っており、島での体験と充実した教育を両立した子育てが可能だ。

小値賀町

奇景に富んだ　小粋な島々

・基礎情報
人口約 2200 人　面積 25.46 ㎢（令和５年）
・アクセス
博多港からフェリー、佐世保港から高速船/フェリー
・島での暮らし
島の中心の笛吹地区にはスーパーが３軒、個人商店も多数、パン屋やカフェもあり、お洒落な雰囲気が特徴。昔ながらの古き良き街並みは風情豊か。島内の高所は園地として整備されており、島と海が織り成す絶景を眺めることができる。最近改築したばかりで５つの診療科を備える診療所と薬局あり。
・こんな人におすすめ
世界遺産に登録された旧野首天主堂や笛吹の昔ながらの街並みが魅力の小値賀町は、外国人観光客が来島することもあるほど、観光が盛んな町。島暮らしをしながら観光産業に従事したい方にはこれ以上ない環境が整っている。Ｉターン実績は豊富で、移住にあたっての相談がしやすいのは魅力だ。
また、島内には古民家から新しい公営住宅までそろい、移住者の多様なニーズに応えることができる。

新上五島町

教会の文化が根付く　三島で最大の町

・基礎情報
人口約 17200 人　面積 213.97 ㎢（令和５年）
・アクセス
博多港からフェリー、佐世保港から高速船/フェリー
長崎港からジェットフォイル/高速船/フェリー
・島での暮らし
三島では最大の人口を誇るとあって、生活環境は充実。チェーンのスーパーやドラッグストア、コンビニも多数出店している。また、総合病院もあり三島では唯一町内での出産が可能。町の主要産業である漁業は大規模に行われ、漁師を始めるための体制が充実している。
・こんな人におすすめ
充実した生活環境は、時にはここが島であることを忘れてしまうほど。移住するにあたって、本土での暮らしと大きなギャップを感じないのは特筆すべき点だ。
町内には美しいビーチや教会が多く存在しており、休日のお出かけ先には困らない。海と山が織りなす絶景を見ながらドライブで広大な島内を巡り、毎日の暮らしにちょっとしたスパイスを加えることができる。
（文・写真＝東大 FS 佐世保チーム）

都内での活動（11月中旬）

「五島列島 三島連携 移住相談会」での発表

３回の現地活動の成果を踏まえ、大学生の立場から

移住希望者に対し島の良さや離島ならではの厳しさを伝えた

「全国の島々が集まる祭典 アイランダー2024」の参加

離島交流イベント「アイランダー」に参加し、他離島のブースを回り宇久島とその他を比較したほか、ブースの手伝いを行った

活動地域の課題と解決策

課題の整理

本年度FS佐世保市チームが取り組んだのは以下の二点である。

①「五島列島北部地域への移住促進」に対する施策の検討

ー 参加したイベントでの課題と改善点

ー 知名度向上のための施策

②「佐世保市宇久地域の活性化」に対する施策の検討

ー 宇久島離島活性化協議会の財政健全化に向けた施策

移住相談会・アイランダーでの課題と改善点

総来場者が9,000人を数える「アイランダー」は、島をアピールする絶好の機会。
しかし、直前に開催された「移住相談会」と合わせて、十分な移住相談数には至らなかった。

「移住相談会」の改善点

日時を平日昼間→夕方以降or土日とする。アイランダーからの客誘導を図るため、その直後の日程に設定する。

宣伝を増やす。InstagramやXなどこれを行う媒体を増やすとともに、アイランダーの物販の場面だけでなく、　　（本土の）佐世保市が参加するイベントでもチラシ配布を行うなどして、周知を本格的に行う。

「アイランダー」の改善点

「アイランダー」は本来、移住のためのイベントではなく、離島の特産品など物販がメインとなる。そのため純粋な移住希望者ではなく一般客を多く取り込むために、抽選会orその場で気軽に食べられる食品の提供を行う。

⭐結局、「アイランダー」では北海道・沖縄の離島など観光資源が充実し、知名度が高い離島が集客力で圧倒し有利。

移住につなげるために、まずは島の知名度を上げることが肝要。

では、そのために何をすれば良いのか？

【参考】

■ DECAXをベースにした移住定住施策

Update "Freedom"

**DECAXとは、コンテンツマーケティングにおけるフレームで、
移住定住においても、同様の考え方で施策を整理しています**

■コンテンツマーケティングの考え方：DECAXモデル

移住定住は、あくまで"結果"であると捉えています。
再現性のある移住定住施策を実現するためには、前段階の交流人口・関係人口の母集団を創り、Community化し、
そのCommunityを育む必要があると考えています。
弊社では消費者の購買行動モデルであるDECAXモデルをベースに、移住定住までの行動プロセスと現在の施策を可視化。
実施中施策をプロットし、Communityを軸とした未実施フェーズの企画提案とその後の実行を担います。

宇久島　知名度向上のための施策

・佐世保市や五島を訪れる人に宇久島をアピールする仕組み
（現状）大手の旅行雑誌には不掲載
→旅行会社や佐世保市のパンフレットへの掲載、それによる旅行需要喚起

・観光タクシーの導入や、ホテル・船がセットになったツアーを行う
佐世保市が参加するイベントへの宇久島の参加
（現状）佐世保市の移住イベントなどで宇久島が参加しないことも
→合併先の佐世保市の取り組みに参加、宇久島の存在感を高める

・映画やドラマのロケツーリズム促進
（現状）映画やドラマに露出はしているが、島内ではそれに対応した観光が未発達
→ロケ地の存在のアピール、観光地の整備

宇久島　知名度向上のための観光プラン

1日目

10:40　佐世保港からフェリーいのりに乗船

13:05　宇久平港に到着。レンタカーを借りるか、予約していたタクシーに乗車。対馬瀬灯台や平家盛公上陸地、大浜海水浴場、神島神社などの観光地をまわる。

18:00　民泊に宿泊。島の人の温かさに触れつつ、島の料理に舌鼓を打つ。

20:00　夕食後は「UKU SAUNA」へ。満天の星空のもとサウナを楽しむ

宇久島　知名度向上のための観光プラン

2日目

9:00　宇久平港ターミナルの観光協会へ。SUPやシーカヤックなどの観光プログラムに参加する。

12:00　宇久平港に戻る。ターミナル周辺の飲食店で昼食。観光協会でお土産を物色。

13:15　フェリーで宇久島を発ち、佐世保への帰路に。

16:40　佐世保港着

島での移住・定住につなげる施策提案

・移住体験ツアーの企画

（現状）移住者は島で就く仕事への関心が高い。また、移住者と地域の交流不足も指摘される。

→農業・観光業などで事業者と協力し、短期間のツアー客受け入れにおいて、特に仕事に重点を置いて島暮らしを具体的にイメージできるような取り組みを行う。

・島内のタクシー事業の活性化

→宇久島だからこそできる、マイカーなしの生活に不可欠な存在。

観光タクシーを整備することで、観光客と収入を見込める事業者の双方にメリット。

・配食プログラムの実施・拡張

高齢者に向けた給食制度拡充のための施策。高校の離島留学制度導入による需要増加にも対応。

大人の島留学
自分に、
島に、
風を起こす。

五島を
タクシー観光しよう!
タクシー観光だから気づける♪地元ならではのあるある!プチ情報や穴場!!
自由気ままに、わがままに、旅はもっと楽しくなる!!
港・空港・ホテル等に配車可能

２：宇久地域の活性化
「宇久島離島活性化協議会」の財政健全化

「納涼花火大会(8月)」と「ふれあい産業まつり(11月)」を運営

財源は地域住民・事業者からの協賛金と、繰越金の取り崩し

赤字と繰越金の取り崩しが続き、イベント開催は数年で困難になる予測

⇒安定した運営を可能にする企画立案等の提案

改善方針１：支出削減

費用の多くを占める花火大会について、継続しつつ支出削減を図る

小値賀の花火大会との隔年開催、当日は船の臨時便で島民を往来

→島民同士の交流促進を図る

灯籠流しなどに変更することも一案だが、できれば「花火」は維持したい

改善方針２：収入増加

ガバメントクラウドファンディングの実施

→継続性や、そもそも成功するかは未知数であり課題

ECサイトの拡充による、島外への販路・収入源の拡大

→島内の経済力が低下していくのは避けられないので、
島外からの収入で補填

まとめ

移住者増加のためには、まずは知名度向上が大切

↓

三島連携や佐世保市との連携を活かして観光PRに力をいれる

離島マニア以外にも来てもらうために、観光タクシーなどを用意し、

一般旅行客にも来やすい環境を作る

クラウドファンディングは急場しのぎにしかならない

↓

毎年の花火打ち上げの見直しを含めた抜本的改革が必要

それを避けるには島外からの安定的収入を新たな目線から発掘するしかない

補遺1

移住を思い立ってからの情報の少なさも課題

役場の方を含め、多数の移住者の暮らしの実際がわかるような
サイト・冊子・動画などの作成、
高頻度で暮らしの些細なことを呟くようなSNSアカウント運営

もちろんイベント参加情報もSNSに載せる
→前年はどんなイベントに出展しているかなどが分かるように

補遺2

先述したように課題は多い一方で、他の離島を有する自治体と比較しても、
これまで取り組んできた先進的な施策は大いに評価できる

・「三島連携」という、包括的・広い枠組みでの移住促進の取り組み

・「ビーチクリーン」「ワーケーション」「UKUSAUNA」など、豊かな島の自然を活かし維持する取り組み

・「離島留学制度」導入による、島への若い世代を受け入れる取り組み

・本学や長崎県立大学をはじめとした、「官学連携」によるさまざまな知識を結集する取り組み

島の利点を活かしたこれらの施策は、引き続き重点的に取り組むことが望まれる

ご清聴ありがとうございました

2025年3月17日

長崎県五島市チーム

水島愛佳
乙川文隆
菊池悠真
絹川雛子
藤川由衣

自己紹介

きくち　ゆうま
菊池 悠真
法学部3年

おとかわ　ぶんりゅう
乙川 文隆
法学部3年

ふじかわ ゆい
藤川 由衣
法学部2年

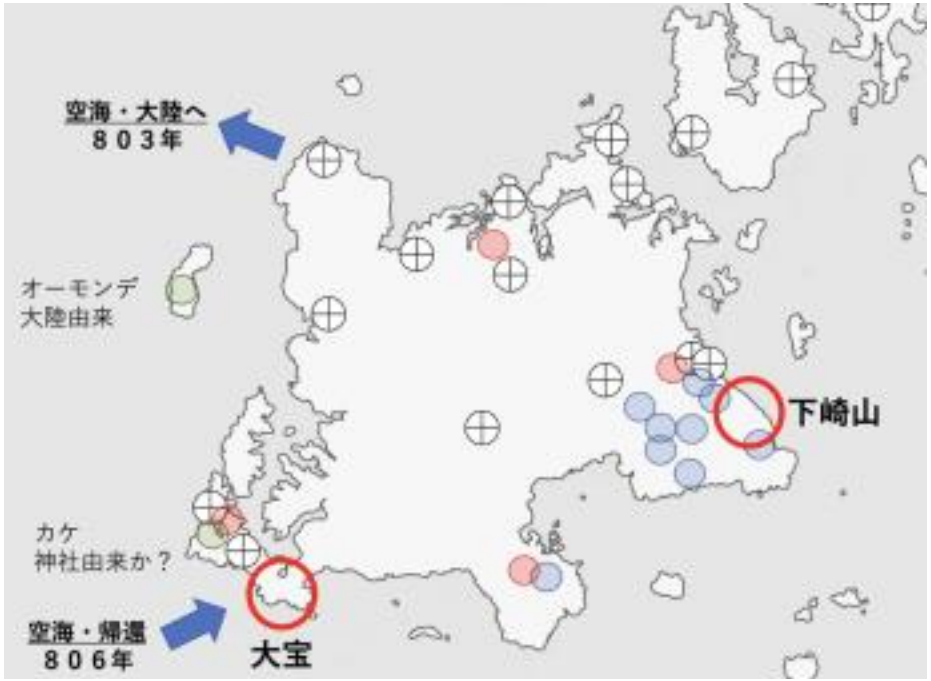
みずしまあいか
水島 愛佳
文学部4年

きぬがわひなこ
絹川 雛子
農学部4年

テーマ：島に残る伝統文化の継承

- **大宝・砂打ち**
  - 35年前　大宝小・中学校閉校
- **下崎山・ヘトマト**
  - 2024年3月　崎山小学校閉校

- 大宝で閉校後の伝統文化継承はどのように行われているか？
- 下崎山は伝統文化をどのように継承していくことができるのか？



第1回 9/24 ～ 9/26

- 聞き取り調査
  - 下崎山地区のみなさん
  - 大宝地区のみなさん
- ワークショップ
  - 玉之浦小中学校
  - 福江小学校
- 市内視察
  - 福江島
  - 奈留島

第2回 10/25 ～ 10/27

- お祭り見学
  - 大宝夜神楽
  - 大宝砂打ち
- 聞き取り調査
  - バラモン凧
    - 平山絵美さん
    - 今村光洋さん
  - 奈留島のみなさん
  - 下崎山のみなさん

番外編 1/19

- ヘトマト参加

Q.伝統文化継承にはどのような問題が生じているか？

A.担い手不足

Case1　下崎山地区・ヘトマトについてのお話より

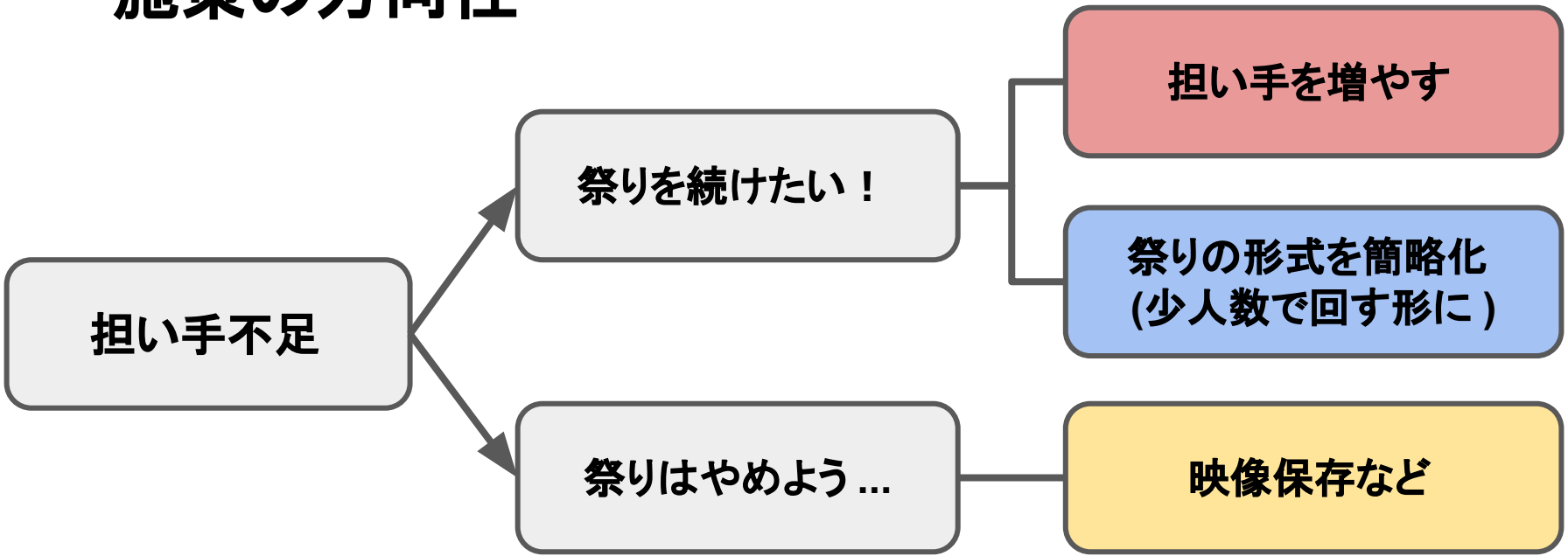
→地区全体での**人口減少**が進んでいる

Case2　小学校でのワークショップより

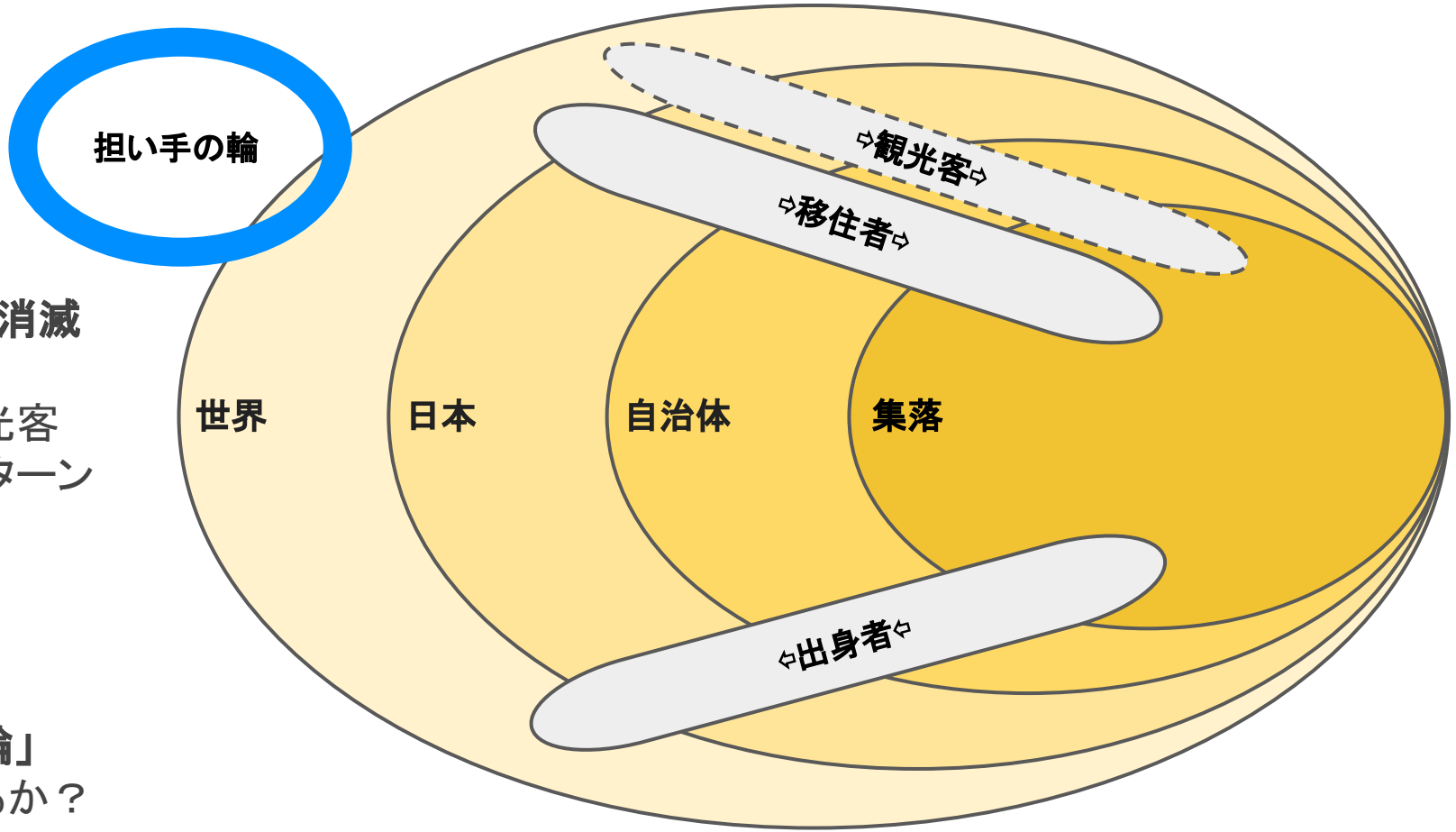
→小学校の廃校が進み、「地区」単位での**継承の場が失われる**

子どもたちは伝統的なお祭りを知らない子も多い

施策の方向性



キースライド



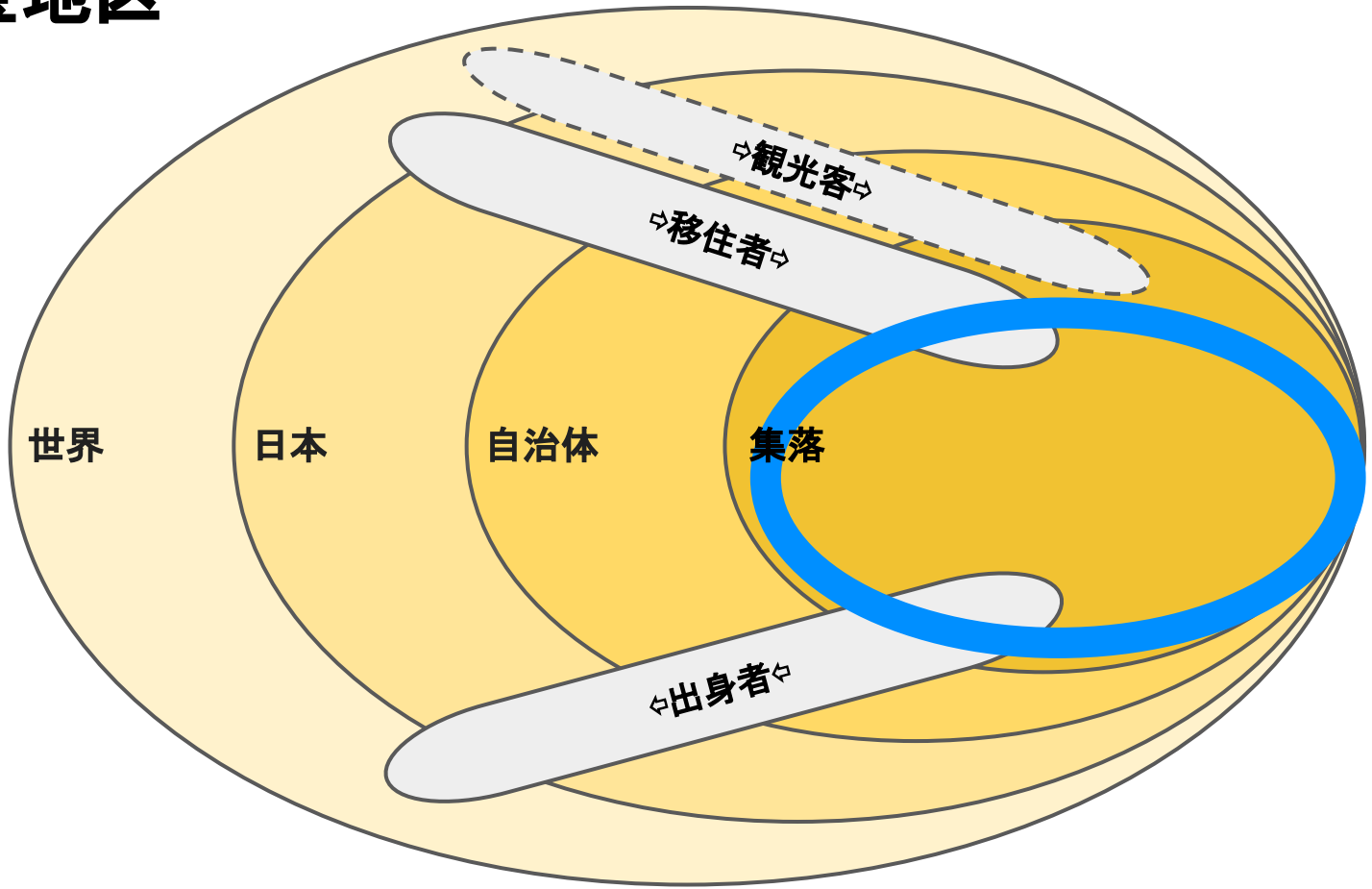
人口減少＆
継承の場の消滅

移住者・観光客
出身者のUターン

「担い手の輪」
をどう広げるか？

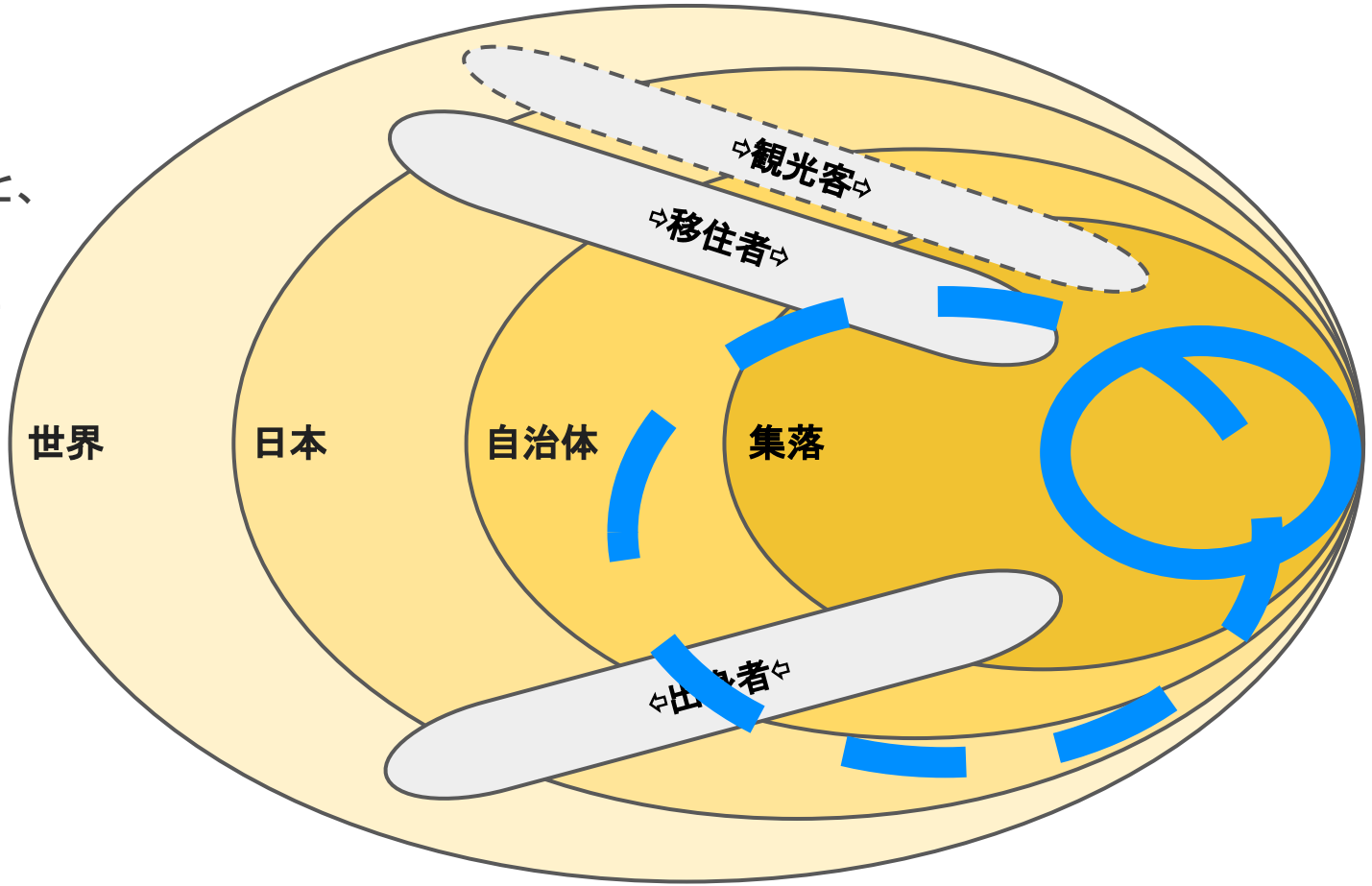
玉之浦町大宝地区

地域コミュニティを
強化して
祭りの担い手確保・
伝統文化の維持を
試みている例



奈留島での試み

神輿の担ぎ手の
確保に向けて
担い手を拡大しようと、
五島市内の出身者・
奈留島内の移住者に
アプローチを
試みている例



第3回現地活動
ディスカッション:「担い手を増やす」とは？

〈問題点〉

誰を・どうやって
巻き込むかについて
意見が分かれる

何を変えず
何を変えるか
話し合う

ご清聴ありがとうございました

2024FS

熊本県阿蘇地域

熊本の草原を世界の資産へ
――目指そう！阿蘇世界文化遺産――

中山泰地（経済学部4年）
松原彩愛（農学部3年）
西野清花（文学部4年）
松尾莉彩子（文科二類2年）

熊本県阿蘇地域

- 阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村から構成
- 広大な草原を毎年行われる野焼きで維持

→ライフスタイルの変化や高齢化により維持が困難に

30年後、6割の草原が消えてしまうかもしれない

→**草原を守るための取り組み**

第1回現地活動（8月）

- 草原の視察
- 草原管理者等への聞き取り
- 刈払機講習会への参加
- 世界文化遺産登録への取組

第2回現地活動に向けた施策

草原が人の手で維持されていることや
危機に瀕していることを知らない人が多い

野焼きに参加する人が少ない

草を刈る場所の傾斜が
急で重労働

ボランティアを有償に
することは難しい

あか牛の飼育は大変

**人とお金が
足りない**

認知度向上

野焼きボランティア、草原支援者の
増加に繋げる

資金集め

野焼きの省力化
（ラジコン草刈機、防火帯など）

ボランティアの有償化

あか牛農家の支援

人目をひく募金箱の設置

第2回現地活動（11～12月）

- 募金箱の設置に向けた交渉

  道の駅2ヶ所

  草千里に隣接する博物館

- 阿蘇の景観、地質の視察

第3回現地活動（3月）

- 現地報告会
- 県への施策提案
- 前回 募金箱を設置した施設への聞き取り調査
- 野焼きの視察

提案内容

① 募金箱、ポスターによる資金集めと認知度向上

② 阿蘇の水を使った募金（ウォーターサーバー募金プロジェクト）

③ 草原の収益化

④ 草原の成り立ちを伝える看板の設置

⑤ 水道広告による啓発

提案内容

① 募金箱、ポスターによる資金集めと認知度向上

② 阿蘇の水を使った募金（ウォーターサーバー募金プロジェクト）

③ 草原の収益化

④ 草原の成り立ちを伝える看板の設置

⑤ 水道広告による啓発

募金箱、ポスターによる資金集めと認知度向上

資金集め

- 募金はややハードルが高い
  →楽しみながら募金できるような
  動く募金箱や**投票箱型募金箱**を考案
- ネットでも募金ができることに
  気づきにくい
  →**間違い探し**や**クイズ**から草原を紹介するウェブサイトに誘導し、オンライン募金に繋げる

募金箱、ポスターによる資金集めと認知度向上

認知度向上

- 草原が危機に瀕していることを知ってもらわないと、募金につながらない
  →**資金を集めることと草原について知ってもらうことは両輪**
- 草原の状況に気づいてもらう
  →**人目をひく募金箱**の考案、
  募金を呼びかける**ポスター**の設置

募金箱、ポスターによる資金集めと認知度向上

気づいたこと

- **分かりやすい方がよい**

  ボンボンやスクラッチは監督者が必要になるため導入は困難

- **目立つことが大事**

  募金箱やポスターを作っても、実際に設置してみると案外目立たない

- **具体的目標を立てるべき**

  募金でいくら集めたいのか、集めたお金を何に使うのかを明示した方が良い

学んだこと

- 阿蘇の草原の価値の高さ
- 伝統と開発のバランスの難しさ
- 草原維持の大変さと新技術導入の必要性
- 活動にあたって多くの方の協力が不可欠
- 「人と自然の共生」の意味

ありがとうございました！

宮崎県諸塚村

メンバー:

市川 大瑚　若林 玄基　関口 昌一郎

諸塚村の基本情報

- 宮崎県北部に位置する山間の村
- 四大産業：林業, 椎茸, 畜産, 茶
- 人口：1,304人 / 584世帯 (R6.12.1時点)
- 面積：約187.6㎢

もろつかナビ(諸塚村公式観光サイト)より抜粋

https://www.morotsuka-tourism.jp/

諸塚村と森林

新緑のモザイク林
諸塚村公式サイトより抜粋
https://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp/mozaikurinsou/

- 村の約95%が森林(日本有数の森林率)
- 面積あたりの林道密度日本一
- 森林認証制度(FSC®認証)を国内で先駆けて取得
- 高千穂郷・椎葉山地域の一部として世界農業遺産に登録
- 針葉樹(主にスギ)と広葉樹(クヌギ等)が混在する景観「モザイク林」が有名

諸塚村側からの要望・前提

- 課題の設定はされていない
  - FS生による主体的な発見、提案が求められる
  - 村民の方との交流や村の産業の現場での体験を通した課題設定を期待

- 昨年度にFS生が構想した「東大FS生の森」の活用方法の検討も望まれる

東大の森

第一回現地活動 (9/13~9/16)

- 木材加工センター訪問
- 椎茸の選別場訪問
- 東大FS生の森訪問
- ぎゃあな祭参加
- 椎茸団地と園芸団地の見学
- 農泊体験

椎茸の生産プロセスを学ぶ

夕飯@農泊体験

第二回現地活動 (11/2~11/4)

- 奈須隆生さん(林業家)へのインタビュー
- 七ツ山祭り神事、直会への参加
- 田原さん(宮大工)宅で木工体験
- 旧七ツ山小学校の見学、利活用案の議論

直会の様子

奈須隆生さんの栗林の見学

旧七ツ山小学校の見学

第三回現地活動 (2/28~3/3)

岩切さんに金鶏寺の文化財の説明を受ける

- 甲斐昭兵さん(コーヒー豆販売所オーナー, デザイナー) インタビュー
- 岩切真道さん(金鶏寺副住職) インタビュー
- 桂神楽見学、直会
- 園芸団地見学
- 東大FS生の森植生調査
- 現地報告会

直会での歓談

桂神楽の迫力ある演舞

見えてきた課題

1. 森林の多様性の減少(スギ林の比率増加) ➡ シイタケ栽培に悪影響
2. 人口減少とそれに付随する後継者不足
3. 娯楽の不足
4. 移住者の「ひとり時間」の不足

その他 …

産業の固定化、生活施設(ケアホーム、スーパーなど)の不足、ファーストペンギンの不在など

【課題の深掘り】森林の多様性

- 広葉樹から針葉樹への植え替えが増加
  - クヌギなどの広葉樹は管理が大変
  - 針葉樹は材価が安定しており、育林に対する補助金も多い
    - モザイク林相に代表される諸塚の森林の多様性が失われている
    - 椎茸原木の不足

【提案】東大FS生の森の活用方法

東大FS生の森とは

- 前年度のFS生の提言によって作られた森
- 「関係人口を創出したい」という村の意向

東大の森での枝打ちの様子

具体案

1. 毎年異なる樹種の植樹をし、多様性の森を育む
2. 林業体験活動に絡めた記念品の作成

【提案1】毎年異なる樹種の植樹をし、多様性の森を育む

- 東大生が諸塚の未来を考えて選定した樹木を植樹
  - 毎年のインターン生が、時代に合うと思った樹種を選定し、植える

ねらい

  - 「多様性の森」にしてほしいという村からの要望に応える
  - 木の持つ時間的なスケールの大きさを活かして世代を重ねて森を創っていく
  - 自分の植えた木が残り、成長していくことで、戻るきっかけを増やす

【提案2】林業体験活動に絡めた記念品の作成

- お土産の作成
  - 東大FS生の森での枝打ちの作業で出た木材を使用
  - 例：キーホルダー、コースター

    (レーザー印刷で活動の写真を印刷する)

もろっこはうすにて販売されているキーホルダー

ねらい

- 諸塚の記憶を形として残し、関係人口としての結びつきを強める

【提案2】林業体験活動に絡めた記念品の作成

- 地域小中学生との交流の場に
  - FS生と小中学生の林業体験実施後、

    枝打ちで出た枝の断面から合同で絵馬を作成
  - それを2つに割って、小学校と役場に片方ずつ保存
  - 次年度のFS生と諸塚の小中学生の

    交流の契機となることを期待

東大FS生の森で枝打ちした枝の断面例

ねらい

- 「120周年の森」の理念である「住民の交流」を東大生を絡めて実現
- 世代を超えた活動の歴史を残す
- 地域の小中学生への刺激

絵馬案の詳細について

- 内容候補
  - 諸塚村に対する思い、諸塚村あるある
  - 企画創生課の方や産業戦略課の方にテーマを与えてもらう
  - 将来の目標や意気込み (例: 来週のクラブの試合でいい結果を出す、など。普通の絵馬に書くようなもの。こちらのアイデアにするならわざわざ分割しなくてもよさそう)
- フォーマット候補
  - 短歌 (上の句と下の句で分割)
  - あいうえお作文 (FS生が提案1で選んだ樹種をネタにする)

【課題の深掘り】人口減少

- 諸塚村の人口減少率は宮崎県の市町村の中でもトップクラス

	人口減少率	社会減少率
1位	椎葉村(-4.10%)	西米良(-2.41%)
2位	諸塚村(-3.84%)	椎葉村(-1.83%)
3位	美郷町(-3.57%)	諸塚村(-1.70%)

総減少率では2位、社会的要因に限っても3位

(県内8市14町3村中,宮崎県公式HPより算出)

- まず世間の方々に諸塚村を認知してもらうことから始めたい
  - 高千穂町なら高千穂峡、五ヶ瀬町なら五ヶ瀬ハイランドスキー場など
  - 諸塚村にはまだそこまでのフックがない
  - 人(観光客)が来る ⬅️➡️ ビジネスチャンスの創出 の好循環を目指す

【提案】旧七ツ山小学校の利活用案

- 宿泊施設としての利用
  - 外部の方に諸塚を知ってもらう、という目的に有効か
  - グランピング施設を想定(ここは柔軟に)
  - FSC®認証材を使用したおもちゃの貸し出しや工作体験　参考: 秋田県由利本荘市”木のおもちゃ館”
  - 椎茸、ジビエ等諸塚の特産品を、バーベキュー具材として提供

木のおもちゃ館画像
https://chokaisan-wtm.jp/floorguide/ より引用

諸塚村のFSC®認証材を用いたつみき
株式会社モア・トゥリーズ・デザイン公式サイトより抜粋
http://more-trees-design.jp/project/tsumiki/

猪肉でBBQ
第二回現地活動より

村内外の宿泊施設との差別化

1. スポーツ (vs 村内外の宿泊施設)
    - 「スポーツ&グランピング(キャンプ)」の希少性
        - 調べた限り、国富町の施設や同じく廃校を再利用している椎葉村等の施設くらい
        - 若者(特に男性)の団体に対して、スポーツのできるグラウンドや体育館が併設されているのはアピールポイントになる
2. 立地 (vs 村外の宿泊施設)
    - 「アクセスの悪さ」という強み
        - 日向市や宮崎市の大きなグランピング ,キャンプ施設は海沿いに集中
        - 近くに日豊本線と国道 10号があり、電車や車の騒音が聞こえる施設もある
        - 都会から完全に隔離された静寂を提供できるのは諸塚の長所か

村内外の宿泊施設との差別化

3. 「一日一組限定」(vs 村内外の宿泊施設)
    - プライベート感の徹底
        - グランピングやキャンプ施設はテント間に距離を空けプライバシー確保に努めている。
        - 一方で、「家族や恋人とより完全にプライベートな時間を過ごしたい」という潜在的なニーズは十分あり得る。(例:「せっかくグランピングに来たのに隣の団体がうるさくて嫌な思いをした」
        - お客さんが入るようになっていったら、単価を上げていくことで利益率を上げていく
4. その他コメント
    - 校舎を生かした(維持費の安い)アクティビティを取り入れたい
        - 屋上から望遠鏡で空を見られるようにする (ただし整備が必要)
        - カラオケ(後述)

【課題の深掘り】娯楽と移住者の「ひとり時間」の 不足

- カラオケや居酒屋などの娯楽施設がない
  - 日常的に楽しむ手段が限られる
  - 小中学生が集う場が限られる
- 移住者がいきなり地区の人と密に関係を持つのは大変
  - ときには疲れてしまうこともある
  - 一人でストレス発散できる場も必要

【提案】旧七ツ山小学校の利活用案

- 音楽室を改修：大人数向け
  - 例：カラオケ施設の開設
    - ニーズはあるはず(ぎゃあな祭でのカラオケ大会)
    - 運用例：18時まで村民の方限定 / 18時以降宿泊者限定

      → 前述の宿泊施設案における「完全プライベート空間」というコンセプトとの競合を避けつつ、村民への娯楽提供と宿泊施設としての魅力の底上げを兼ねる
- 狭い部屋を改修：一人向け
  - 一人でゆっくりしたいというニーズに応える
  - 防音性能を追加して一人カラオケに対応することも検討

【提案】農業系サークルとの連携

椎茸の原木

- 諸塚村から椎茸の原木を東京等のサークルへ送り、

  椎茸を栽培してもらう

双方の利点

- 諸塚村
  - 農産業に関心を抱いている若者への直接アピールにより、より深い関係人口を築ける
  - 諸塚の椎茸の宣伝と、くぬぎの需要の掘り起こし
- サークル
  - 日本の産業で重要な位置を占めるものの、サークル単位で扱うことの難しい林業問題への切り口となる。(場所、時間的スケールの問題)

ご清聴ありがとうございました

東大FS 報告資料

FS鹿児島市チーム

アウトライン

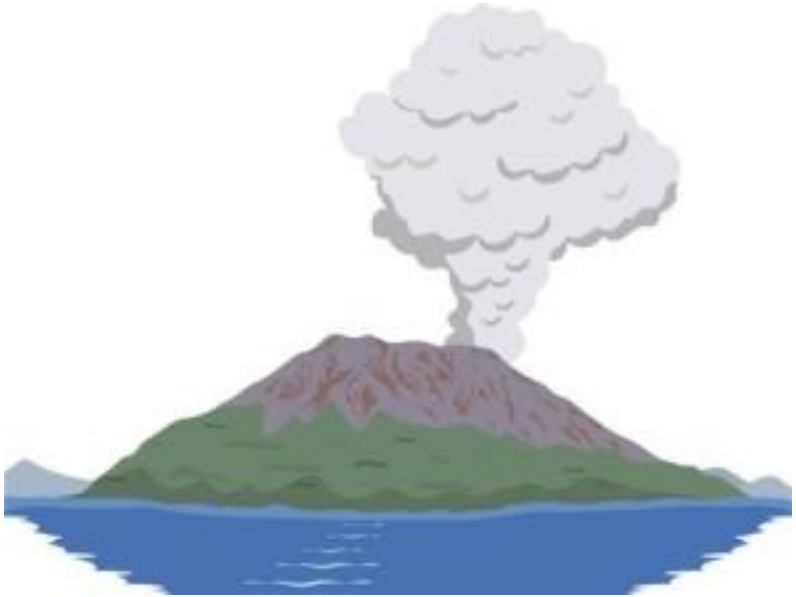
1.現状の問題点

2.ライドコミュニティの改善案

3.公共交通機関の改善案

4.事業目標

5.総括・今後の展望



1.現状の問題点

第1回現地活動(2024年9月)

・聞き取り調査

・実際に路線バスを利用し、利便性や集落の様子を視察

現地の方の声

・本数が少なく不便だがバスに合わせて生活している

・車がないと生活できない

・送迎は申し訳なさがある

・ある日突然歩けなくなる/運転できなくなり外出できなくなる

1.現状の問題点

・日々の「おでかけ」に困る方が多数存在している

…車の運転や送迎が必須となり、行動範囲に制約。公共交通も使いづらい。

・「おでかけ」してもらうことは健康につながる

…日常の運動を増やすことで健康となり、医療コストの軽減に。人々のQOL向上にも寄与。

・コロナ禍を経てバス利用者は減少するも、戻りきらず。

…外出機会が減り、利用者がコロナ前の水準になかなか戻らず公共交通は厳しい現状。

1.現状の問題点

島内の公共交通機関も厳しい状況

・タクシー…僅か2台(国分まで給油)

・路線バス…

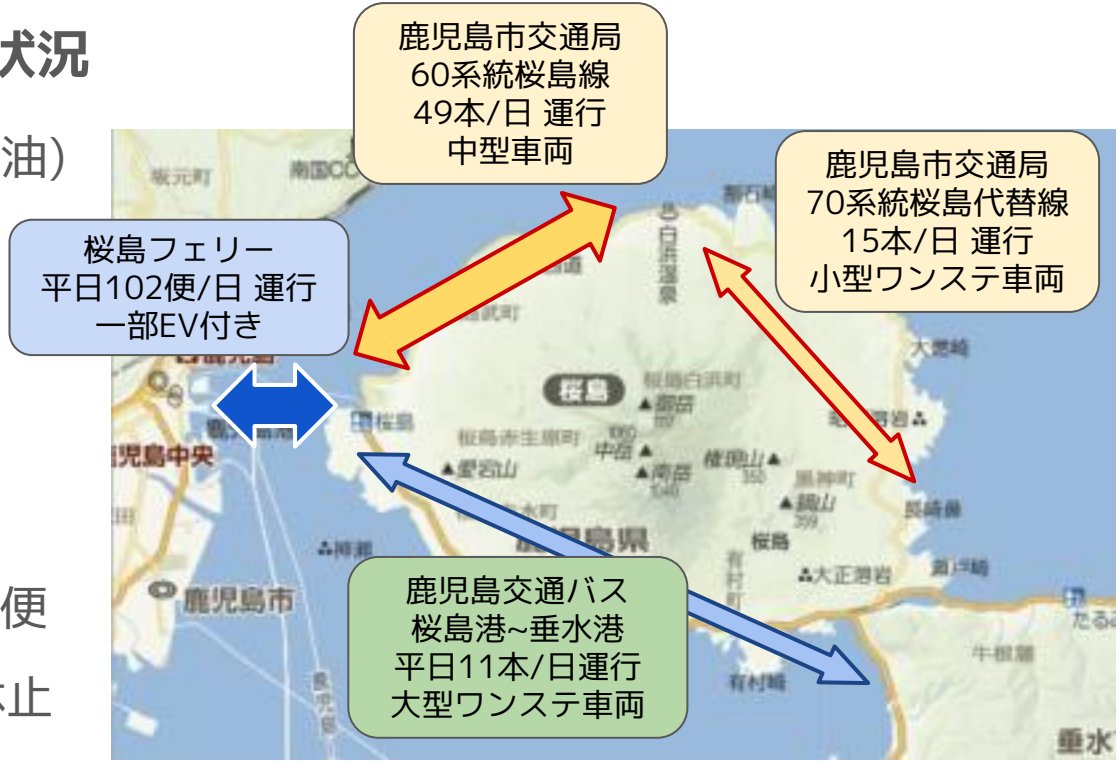
60/70系統の営業係数 **2,537**

年間5,000万円規模の補助金

1日約220人の乗車

・フェリー…利用者減を受けて減便

年間3.5億円の赤字,深夜運航の休止



1.現状の問題点

桜島の目指すビジョン

「ライドコミュニティ」の普及を通じて、公共交通全体の利用を増やし、誰もが自由に「おでかけ」できる街に！

2.ライドコミュニティの改善案

現状

・利用登録者は増加傾向(月20件程度の運行)

・運転手が「ボランティア」として乗客の要望に応じて働いている

→運転手側に一方的な負担を強いており持続性に懸念

・新たなシステムなので住民に広まりにくい

2.ライドコミュニティの改善案

改善案

A.住民向けのPR強化

…PR用のチラシ、ホームページ、広報誌での宣伝などで周知し、「まず1回」使ってもらう。

B.住民アンケートを踏まえた運行

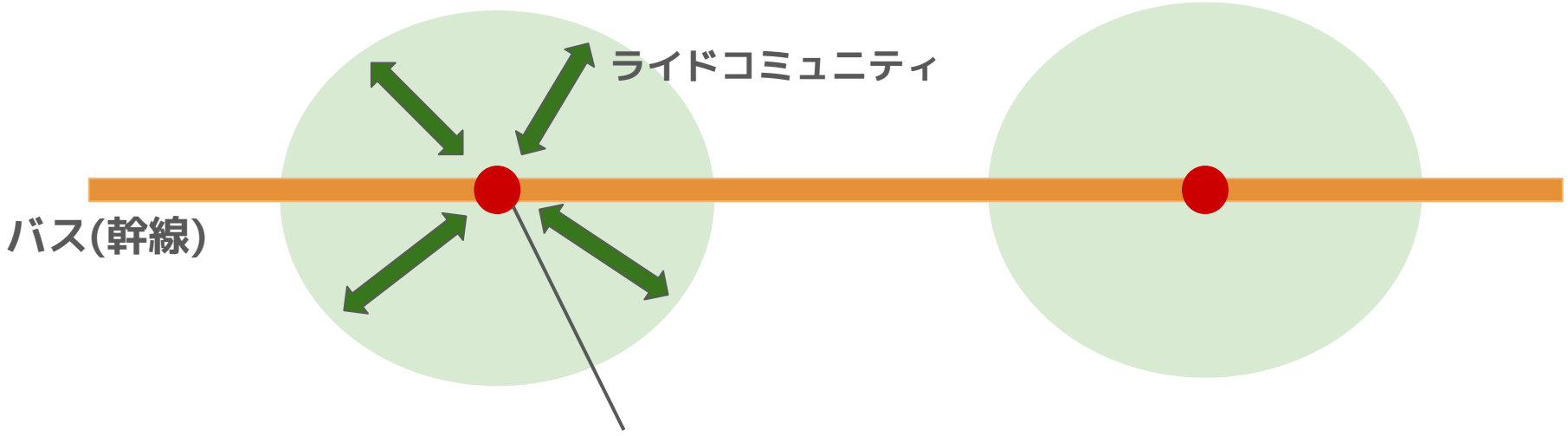
…運行形態・料金設定・普段の移動目的地などを調査し、移動ニーズに沿うものを創る。

C.ドライバーの安定確保

…高齢化が進む桜島で、利用者増加に耐えうるよう、シフト制の導入などを行う。

2.ライドコミュニティの改善案

既存のバス路線を線、ライドシェアは面としてとらえる



・アンケート調査,ドライバーの確保状況,バスの本数によって地区割りや拠点設定を行う。

2.ライドコミュニティの改善案

・既存の路線バスを活用できるようなライドコミュニティの活用例

提案

60系統沿線では家~最寄りバス停間

70系統沿線では家~東白浜間で

ライドコミュニティを利用してもらう

メリット

・バス停まで歩けない層の移動手段となる
→路線バスの利用者増加

・近距離の送迎が中心
→ドライバーの負担減少
乗客の心理的抵抗(申し訳無さ)軽減

・上手く広がれば「コミュニティ」間で解決できる

2.ライドコミュニティの改善案

参考:自家用旅客有償運送とは
https://kotsutorisetsu.com/20200815-01/#toc2

エリア跨ぎの長距離輸送(垂水・鹿児島市街地方面/路線バスが不便な地域)

・現行スキームではドライバーのメリットがほぼない

→利用者が増えるほど負担が増えてしまう...

とはいえ「乗り換えなし」「時間制約がない」などメリットもある

1.自家用旅客有償運送(交通空白地有償運送)での運行

…NPOによる運営,人件費,燃料費などタクシー運賃の半分程度を運賃として収受

2.相乗りになるようなルート設定

…A地区は○:○頃,B地区は△:△頃と運行時刻を決めて、1回の運行で複数人が乗り合わせるようにする

3.公共交通機関の改善案

「一見さんお断り」状態からの改善

1.路線バス・フェリーの乗り継ぎ時刻表・公共交通MAPの配布

…車が運転出来ない人が「バス→船→バス」の乗り継ぎを調べて実行するのは困難。

2.待合環境・案内システムの改善

…鹿児島港や鹿児島中央駅でどのバス停からどのバスに乗ればよいのかが分かりにくい。

3.60系統のルート統一

…桜島港から先のルートが3系統あり、本数が分散してしまっている。

3.公共交通機関の改善案

3.60系統のルート統一

提案ルート路線図

桜島病院へは病院の送迎、
鹿児島交通バス、
サクラジマアイランドビュー
(砂防センターバス停)で代替

3.公共交通機関の改善案

以上のような**公共交通の利便性向上**を通じて...

・公共交通は使おうと思えば使えるものと認識してもらう

・片道はライドコミュニティ、片道は公共交通機関といった柔軟な使い方を可能に

・住民の外出機会増加に寄与

することを目標に！

4.事業目標

運行面での目標

・利用者数目標

ライドシェア利用:平均3件/日

路線バス利用者数:60/70系統利用者数 平均220人/日(←現状:216人/日)

・収支目標

前年より赤字額の軽減、収支率の改善

4.事業目標

施策成果としての目標

・外出回数の増加、日常行動の変化

・住民満足度の改善

…いずれも施策実行前後にアンケート調査を実施し変化を観測する

「誰もが自由におでかけできる街」になっているかを判断

5.総括・今後の展望

・住民が自由に「お出かけ」できるための交通機関が重要である

・ライドコミュニティを持続可能にするために、PR強化、住民アンケートに即した運行、ドライバーの安定確保に向けた施策が必要である

・ライドコミュニティの普及を通じ、現状の路線バスの利用も増加させる

・公共交通全体を「わかりやすく」リ・デザインすることが重要

・収支面での目標、住民の行動変化としての目標の2種類の目標設定が必要

5.総括・今後の展望

第2回現地活動(2025/2/17~18)

・市長への表敬訪問、活動報告

・桜島での現地報告会の実施

いただいた意見

・パッケージ化をして同様の施策を市内に広めていく

・現状、運転手はやりがいを感じて長距離の送迎も行っている

・IT,DX面と連携したプランの検討が必要

発表は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

本プログラムに協力してくださった鹿児島市・桜島の皆様に感謝申し上げます。

2024年度FS
鹿児島県鹿児島地域*

*鹿児島市、日置市、いちき串木野市、三島村、十島村の総称

～ゲームアプリの周知と関係人口の創出～

担当：上敷領, 河野, 葛川

CONFIDENTIAL

1. **発表者による自己紹介**
2. **2024年度FSの活動内容紹介**
3. **ゲームアプリ「うたなつ」について**
    i. ゲームアプリ「うたた往時の懐かしや」
    ii. 特徴/特異点
    iii. 行政側の取り組み・イベントなど
    iv. その他発信など
    v. 現状・課題
    vi. 2025年度誘客促進事業案
4. **我々からの提案**
    i. コミックマーケットへの出展
    ii. ゲーム実況配信
    iii. 公式による聖地巡礼誘導
    iv. 季節のゲーム内イベントを開催
    v. コミュニティによる主体的な関与

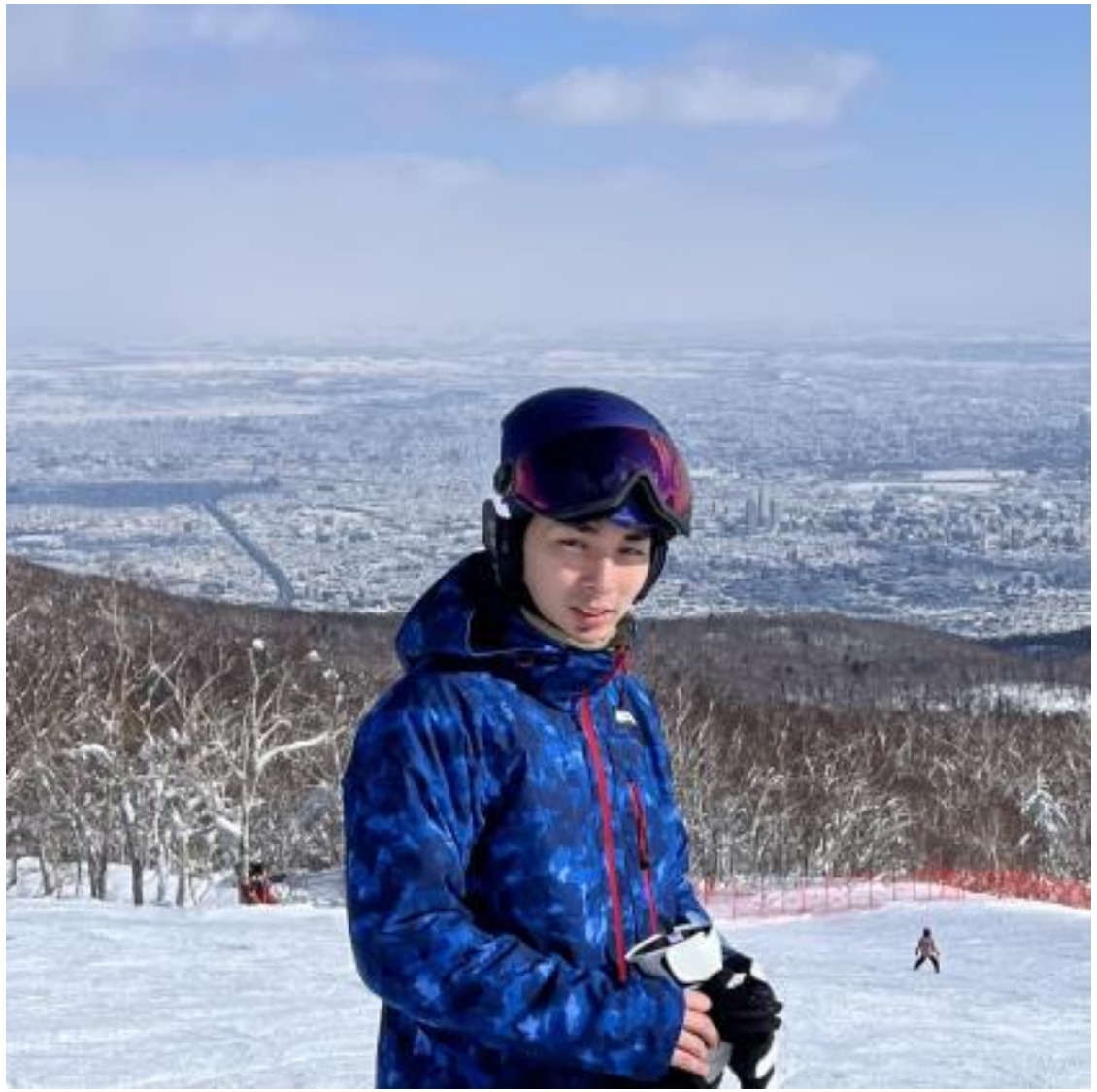
1. 発表者による自己紹介
2. 2024年度FSの活動内容紹介
3. ゲームアプリ「うたなつ」について
4. 我々からの提案

上敷領悠那
Haruna Kamishikiryo

- 所属：東京大学 前期教養学部 理科二類 B1
- 鹿児島県鹿児島地域を選んだ理由
  - 父が鹿児島出身であるので、父の地元を応援したいと思ったから。

河野太郎
Taro Kawano

- 所属：東京大学 工学部 都市工学科 都市計画 B3
- 出身：鹿児島県鹿児島市（高校まで鹿児島市）
- 鹿児島県鹿児島地域を選んだ理由
  - 18年鹿児島で育ったにも関わらず鹿児島のことを何も知らないなと感じ、地元のことを知りたいと思ったため。
- 趣味
  - まち歩き・スキー



葛川大斗
Daito Kuzukawa

- 所属：東京大学 文学部 美学芸術学専修 B3
- 鹿児島県鹿児島地域を選んだ理由
  - 自分の専攻でもゲームを扱っている。
  - IPビジネスやゲーム市場に関心がある。
  - 行政が開発したゲームを活用して関係人口の創出に繋げようとすることに真新しさを感じた。
- 趣味
  - 特に、音楽

1. 発表者による自己紹介

2. 2024年度FSの活動内容紹介

3. ゲームアプリ「うたなつ」について

4. 我々からの提案

第1回現地活動（9/22, 23）

- 9/20(金)
  - まち歩き観光ステーションにてヒヤリング（河野）
- 9/22(日)
  - 振興局にてアプリファクトリーはるni室屋さまより、ゲーム開発までの経緯や今後の展望、開発時にこだわった点などをヒヤリング
  - 天文館視察
  - いちき串木野市にてゲームの舞台となった史跡の見学と、串木野物産センターの竹原さまより、観光活動の状況やうたなつに対する期待をヒヤリングの後、『浜辺と食と音楽と。』へ参加

第1回現地活動（9/22, 23）

- 9/23(月)
  - 鶴丸城跡、御楼門、仙巌園などの鹿児島県内の有名史跡を視察
  - 日置市にて、重水さまによる案内のもと、島津四兄弟生誕の地亀丸城跡、妙円寺参りの終着地徳重神社などを見学し、観光の状況や、日置市の目標、地元での島津公への認識をヒヤリング

第2回現地活動（10/26, 27）

- 10/26(土)
  - ゲームのテーマに取り上げられている「妙円寺詣り」の見学
  - ゲームとのコラボイベント（スタンプラリー、日置市観光案内所でのパネル展示）
  - ネオ日置の体験と当日スタッフされていた鹿児島国際大学のゼミの方々と知り合う
  - 「まちのコイン」
- 10/27(日)
  - 伊集院文化会館にて開催された声優イベントへの参加

1. 発表者による自己紹介
2. 2024年度FSの活動内容紹介
3. ゲームアプリ「うたなつ」について
4. 我々からの提案

ゲームアプリ「うたた往時の懐かしや」

- 目的は、妙円寺詣りや鹿児島地域の歴史や観光地などに興味をもってもらい、**妙円寺詣りの参加者や鹿児島地域への観光客を増やすこと**
- ターゲットは**主に10代～30代の女性**の**乙女ゲーム**
- 鹿児島地域の歴史や観光についての**クイズ要素のあるソシャゲ**
- **2024年2月26日**リリース

鹿児島県,ゲームアプリ「うたた往時のなつかしや」をリリース

「うたなつ」特徴/特異点

- **行政主導/行政IP**
  - **二次利用&創作のガイドライン**（＝使用取扱規程）
- 開発は鹿児島市に拠点を構えるゲーム開発会社**アプリファクトリーはるni株式会社**に委託
- CVとして主人公は**武内駿輔**、その他は地元の声優学校出身の方を起用
- ゲーム内に**特産品等の購入先へのリンク**がある

「うたなつ」取り組み

- **うたた往時のなつかしや公式アカウント**（X/Twitter）でのSNS発信
- **リリース記念イベント**
  - 場所：サンプラザ天文館7階ホール
  - 日時： 2024年6月30日 13:00
  - 「イベント参加者は約200名に上り，会場の席はほぼ満席状態」
- **東京ゲームショウ2024(2024年9月26~29日)への出展**
- **妙円寺詣りとのコラボイベント**
  - 場所：日置市（=妙円寺詣り開催地）
  - 日時：2024年10月26, 27日
  - 市内6箇所に設置されたポスターのQRから**フルボイスストーリー配布**
  - 27日12時より**声優 武内俊輔による特別イベント開催**
  - メタバース上のもうひとつの日置「**ネオ日置**」とのコラボ
- **アプリファクトリーはるniによるグッズ販売**

「うたなつ」現状・課題

- 妙円寺詣りへの**若い世代の参加者・観覧者が少ない**。
- ゲームのターゲット層である**10代～30代の女性のへ十分に浸透しているとは言えない**。
- 他コンテンツ（ドリフターズ、戦国無双）でも人気のキャラクターである豊久を十分に活かしきれていない。
- 妙円寺詣りにスポットを当てたゲームのため、日置市以外の市村の魅力の発信が不十分。
  - **豊久誕生の地であるいちき串木野市に波及させる。**

「うたなつ」2025年度誘客促進事業案

1. **現地への誘導**
   - 2024年度を踏まえ、日置市との連携による**妙円寺詣りでの現地イベント**
   - ゲーム内で豊久生誕地を紹介し、現地での**周遊型謎解きイベント**
2. **新規ファンの獲得：ゲームアプリの広報**
   - 同人イベントや戦国イベント等への出展
3. **既存ファンの維持：ゲームアプリの活用**
   - キャラクターブックの作成・配布
   - イラストコンテスト
   - 特産品とゲームアプリのコラボ商品
   - ゲーム内の追加イベント

1. 発表者による自己紹介
2. 2024年度FSの活動内容紹介
3. ゲームアプリ「うたなつ」について
4. 我々からの提案

新規ファンの獲得

コミックマーケットへの出展

- **コンテンツ**
  - 東京ゲームショウへの参加実績を活かし、**世界最大級のサブカルチャーのイベントであるコミックマーケット**（通称コミケ）に参加することによって知名度向上につなげる。
  - 東京ゲームショウとコミックマーケットは必ずしも客層が一致していない。うたなつの**女性向けゲーム・同人活動を推進したい**という特徴を考慮すると**同人誌即売会であるコミックマーケットの方が対象層が近い**と考えられる。
- **TGSとの比較**
- **実現可能性（他の自治体の事例）**
- **実現までのフロー**

新規ファンの獲得

コミックマーケットへの出展

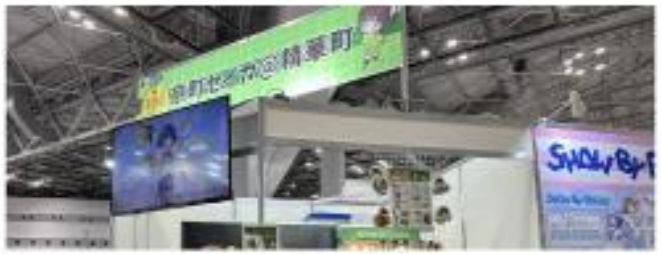
- **TGSとの比較**

	コミックマーケット	東京ゲームショウ
イベントの特徴	世界最大の自費出版の即売会 個人・企業（130社)の両者が出展	日本最大のゲームの総合展示会 基本的には企業が出展
開催時期	8月中旬と12月末に2日開催 全日一般公開	毎年9月下旬4日開催 （関係者用2日、一般公開2日）
来場者数	30万人（2024.12） 26万人（2024.8）	27万4739人（2024.9）
来場者層	ゲームやアニメを中心にサブカルチャー全般のファン・ユーザー	主にゲームのファン 業界関係者

新規ファンの獲得

コミックマーケットへの出展

- **実現可能性**～他の自治体の出展の事例～



京都府精華町
2018年夏～

肥薩おれんじ鉄道
2024年夏

おれんじ鉄道

西4ホール
ブース1943

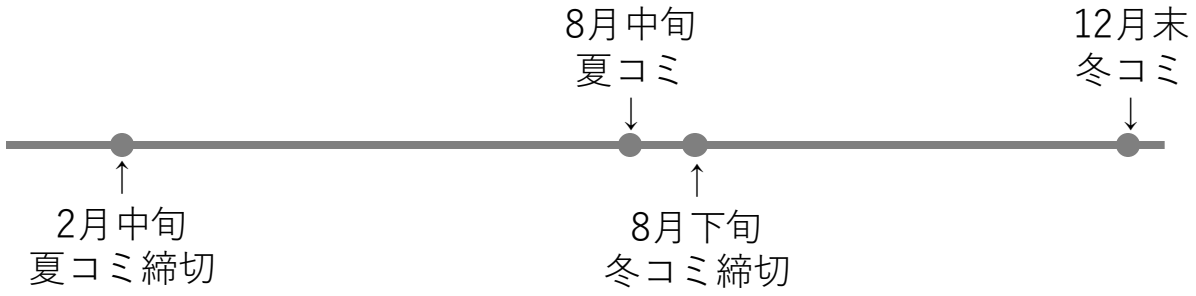
でお待ちしております

長野県企業局
2024年夏

新規ファンの獲得

コミックマーケットへの出展

- **実現までのフロー**
  - 「**企業ブース出展申し込み**」をコミックマーケット準備会に郵送orフォームにて提出
    - 申請締切→**夏コミ：2月中旬ごろ、冬コミ：8月下旬ごろ**
  - 申請の後、コミックマーケット準備会より送付されてくる資料に従って手続き
    - 仮申込→企業ブース説明会→出展申し込み→事務手続き
  - 費用：非公開だが、TGSと同程度か。



参考：**企業参加サポートページ**

新規ファンの獲得

ゲーム実況配信

- **コンテンツ**
  - 関係者によるゲーム実況配信
    ※プレイ画面ではなく、**プレイ空間**の配信
  - 「普段乙女ゲーム/ソシャゲに慣れ親しんでいない人の**新鮮なリアクション**」

- **先行事例**
  - 【愛知県議会議員】黒田太郎 / 名古屋市千種区, 【政治家がゲーム実況】政治家が王になり国を治めます。
  - 大阪維新の会, 【イシンハッシン】市長とゲームでまちづくり！？ゲーム実況者と未来の大阪市をつくる！【・みかづきchコラボ】

【政治家がゲーム実況】政治家が王になり国を治めます。

139 回視聴・3 年前

【イシンハッシン】市長とゲームでまちづくり！？ゲーム実況者と未...

7.8万 回視聴・1 年前

新規ファンの獲得

ゲーム実況配信

- **実現までのフロー**

準備物：カメラ、マイク、ゲーム機器等

- **プレイ画面の録画**：スクリーンレコード。スマホゲームであれば、ミラーリング機能や画面収録機能を用いることによって簡単に収録ができる。
- **プレイ空間の録画**：一般的なwebカメラなどでも人物の映像収録可能。

両者を動画編集で統合し、YouTube等に**公開**する。

リアルタイムで**配信**するイベントを設ければ、**ファンが同じ時間同じ場所（オンライン）に集まる機会**にもなる。

現地への誘導

公式による聖地巡礼誘導

コンテンツ

- **公式が聖地巡礼の手引きをする。**
  - 本としての出版は費用がかかりリターンが少ない気がするので、動画コンテンツとしてできればいいのではないか。
  - 特定のスポットのみではなく、道中の交通案内も合わせて紹介する。
- キャラクターによるAR観光案内やスタンプラリー形式でゲーム性（クイズ/謎解きなど）があるスポットを設置する。

コンテンツ市場は拡大し続けており、
「聖地巡礼」によるツーリズムが期待される。

先行事例

- アニメ『邪神ちゃんドロップキック』公式コンプリートブックでは、半日で周ることのできる**9箇所を厳選し、パッケージで道程を提示**できる。
- TVアニメ『小市民シリーズ』「モデル地めぐり密着」レポート；昨今、**アイドルや声優がSNSにアップした場所をめぐることも「聖地巡礼」**と捉えられている。

実行可能性

現地への誘導

公式による聖地巡礼誘導

- **実行可能性**
  - 場所：ゲーム内モデル地、その他観光地
  - 期間：ランニングコストの観点からも、妙円寺詣りの催事やGWなど来客が見込める時期にテンポラリーで設置する。
  - 関係者：声優、観光地関係者、ゲーム開発会社など
  - 費用：声優費、撮影・動画編集など

＜**デメリット**＞

- 行政IPでの事例がないため、仮に**声優等に資金をかけたとしてもどれくらいのリターンが来るかが不明**。
- **公式とユーザーの適度な関係性**について：介入しすぎると冷める。放ったらかしにしておくと沈む。

現地への誘導

公式による聖地巡礼誘導

- **実現までのフロー**

例

- 出演者による聖地紹介番組（前ページ右図）
- パンフレット（右図）

スポットを絞り、例えば**半日で巡るコース**などを、**道中の交通案内**も含めてパッケージで提案する。

既存ファンの維持

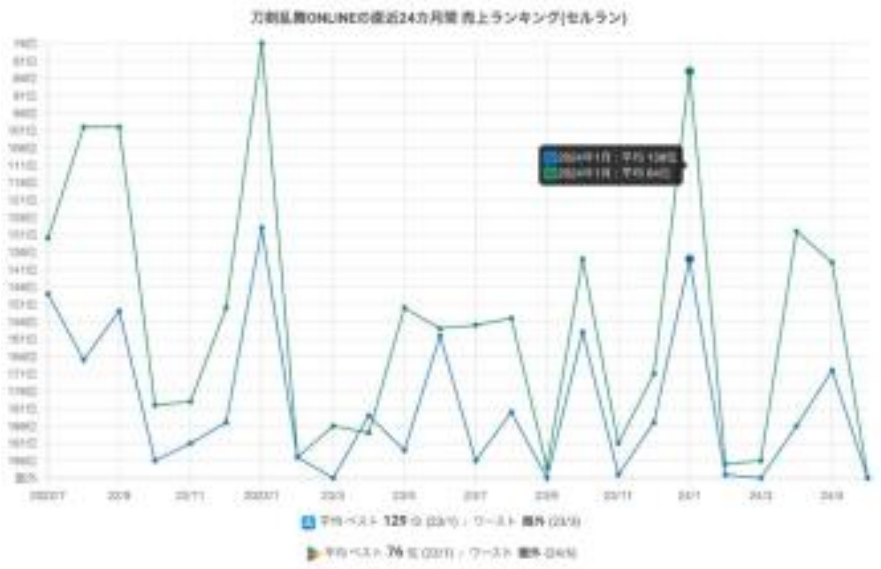
季節のゲーム内イベントを開催

- **ゲームの更新頻度をあげる。**

一般的にソーシャルゲームは、更新頻度が重要でユーザーの維持につながる。

妙円寺詣りや六月灯以外にも、季節毎のイベントやXX周年イベントなどを開催していくことが、リソース的に（もしくは更新頻度を踏まえた予算組み）できればいいか。

例）更新頻度とエンゲージメント：刀剣乱舞



例）イベント頻度：プロジェクトセカイ

期間	イベント名
2025/1/31~2/8	この針に愛を込めて
2025/1/21~1/29	Show your shine
2025/1/11~1/19	Time to take off !
2024/12/31~2025/1/9	Unfading wishing
2024/12/21~12/29	Special present for YOU !
2024/12/11~12/19	Grow glorious glow
2024/11/30~12/9	傷だらけの手で、私達は

新規ファンの獲得/既存ファンの維持

コミュニティによる主体的な関与

- **ユーザー参加によって期待される効果～関係性の深化～**
  - コンテンツの作成過程など具体的にコンテンツをつくっていく過程に関与することができると、自身がコンテンツの一員である感を感じることができ、愛着につながり長期的なコンテンツのアクティブユーザー維持につながるものと予想される。
  - 二次利用推進の一歩目ともなり得る。

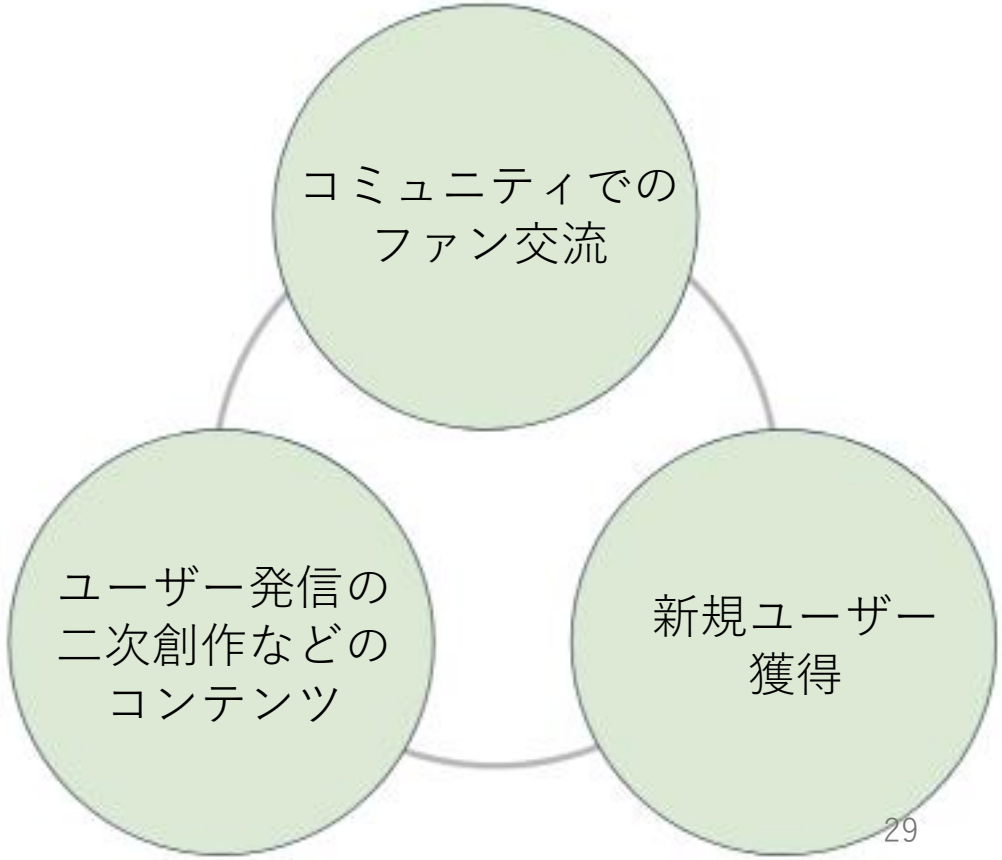
ゲームアプリ「うたた往時のなつかしや」デザイン集

- **コミュニティによるコンテンツ参加の具体的事例**
  - 先行事例）**メタバースヨコスカ**
  - **双方向**的なコンテンツの実現
    - 広報活動、例えば聖地巡礼用のマップを作成するにあたって地元のユーザーにおすすめの場所等を掲載してもらうなど。

新規ファンの獲得/既存ファンの維持

コミュニティによる主体的な関与

- **ファンコミュニティによる効果～UGCの促進～**
  - UGC：User Generated Contentの略
    ユーザーが生成したコンテンツのこと
  - SNS投稿や口コミレビューなどがUGCにあたる
    うたなつの場合は二次創作活動なども考えられる
  - UGCはユーザーにとって共感性が高いために、
    関心を持ちやすく広報活動に適しているが、
    ユーザーがコンテンツを発信する土壌を作るのがそもそも難しい



新規ファンの獲得/既存ファンの維持

コミュニティによる主体的な関与

① 学生によるゲーム内ストーリー/クイズ制作

- **小中学校の総合や社会の時間**に、地域交流・歴史学習の一環としてストーリー/クイズ作成の**ワークショップ的な授業**を設ける。
  - 校外学習の訪問先
  - 地元への興味関心のきっかけ
  - 実際に自らの制作物が全体に配信される可能性
- 大学のゼミでの活動：例）鹿児島国際大学のゼミ
- より**「地域密着型ゲーム」**としてのブランディング

- 先行事例：**石川県七尾市「ふるさと歴史教室」**
  - 開催：田鶴浜地方史の会
  - 小学校6年生対象/年10回実施/現地調査も実施

活動のきっかけ

地域の歴史を埋もれさせない

昭和62年に田鶴浜町の郷土史を明らかにし、町全体に普及していこうと「田鶴浜地方史の会」が結成されました。昭和63年から平成6年まで「田鶴浜の歴史」を発刊していましたが、主な活動をしないまま年月が経過し、平成18年にこのままでは地域の歴史が埋もれてしまうことに危機感を覚え、活動を再開することにしました。

「ふるさと歴史教室」の開校式

平成20年から、地域の歴史を次世代に伝えていくことが大切であると考え、七尾市教育委員会、田鶴浜小学校、田鶴浜地方史の会の三者の協働で小学生を対象とした「ふるさと歴史教室」を開催しています。

活動内容や現在の活動状況

学社連携の精神で「ふるさと歴史教

新規ファンの獲得/既存ファンの維持

コミュニティによる主体的な関与

- **② Discordにおけるファンコミュニティ形成**
  - Discord等でファンコミュニティを整備することで**ファン同士やファンとユーザーの距離を近づけ、ユーザー発のコンテンツが生じやすい環境**を醸成する。
  - 運営が提供するコンテンツの作成過程に等にユーザー参加をすることで**ユーザーとともに作るコンテンツ**という雰囲気を醸成する。

  - **ファン活動の現状**
    - **Pixiv**や**X/Twitter**におけるファンによる**二次創作** #うたなつ

新規ファンの獲得/既存ファンの維持

コミュニティによる主体的な関与

- **② Discordにおけるファンコミュニティ形成**
  - **現状のユーザーとの関係性が抱える課題**

ファン活動の現状と課題

- 一部ユーザーが二次創作のイラスト投稿などは行なっているものの、その人たちの活動を公式の側が活用することができていない
- イラストやショートストーリー他二次創作なものを発信しているユーザーはいるが、ユーザー同士のコミュニティは現状存在しない
- ファンの中には鹿児島の魅力をPRしたいというモチベーションのある人もいる。

考えられる対策

- アクティブユーザー同士、アクティブユーザーと運営側が関われるようなプラットフォームを整備することでアクティブユーザーによる創作活動やSNS投稿などを活発化させる。
- 一般ユーザーをユーザーからクリエーターに転化することで共にコンテンツを作り出している感を醸成し、ユーザーを繋ぎ止める。

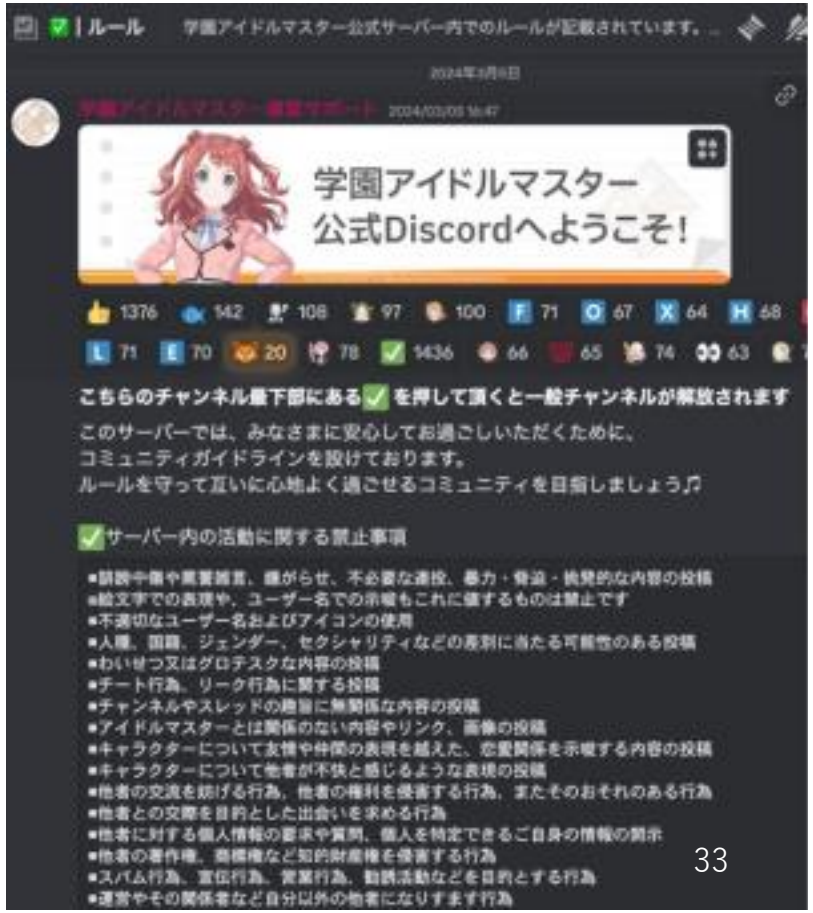
新規ファンの獲得/既存ファンの維持

コミュニティによる主体的な関与

② Discordにおけるファンコミュニティ形成

- **具体的なファンコミュニティ整備案**
  - プラットフォーム上にファンが交流できるバーチャル上の空間を作ることが考えられる。これらのツールは、ファン同士の交流だけでなく**運営からの告知ツール**としても活用することができる。
  - 導入ハードルが低いDiscord等の**既存プラットフォームを利用することで費用面が抑えられる**ほか、デジタルネイティブなユーザーにとってもフレンドリーだと考えられる。
  - Discordでサーバーを立てる際には多数の参加者を管理しやすくするために**コミュニティサーバー機能**（通常よりもセキュリティや新規参加者対応に優れる）を用いることが望ましい。
  - **Botを導入**し機能拡張を行うことによって細かくNGワードを自動的に取り締まる機能を導入することも可能。荒らしやスパム対策なども機械的に行うことができるために常にサーバー対応に追われる可能性は低い。

先行事例）学園アイドルマスター



2024年度FS
鹿児島県鹿児島地域

～ゲームアプリの周知と関係人口の創出～

担当：上敷領, 河野, 葛川

CONFIDENTIAL